

銀行法規書式判決例

三菱合資會社
銀行部副長 桐島像一 校閱
同銀行部員 大山五郎
同銀行部員 加藤武男 編纂



東京博文館藏版

C3
2442
01

凡 例

一 現行諸法規ノ浩澣ナル平素繁多ナル人々ノ到底通覽シ得ベク
モアラズ然レモ之ヲ等閑ニ觀過スレバ動モスレバ意外ノ損失
ヲ招致スルノ例世間ニ寡ナカラズ特ニ商事干係ノ取引ニ於テ
尤モ其然ルヲ見ル故ニ余輩業務ノ餘暇勉メテ直接關係ノ法文
ヲ摘出シ之ヲ參考ト爲セシモノ偶々本編ノ一部トナルニ至レ
リ

一 取引上書類調製ニ際シ一字一句苟モスベカラザルハ今更言フ
ヲ待タズ左リトテ取引ノ都度一々字句ヲ煨煉スルハ到底煩ニ
堪ヘザルヲ以テ大抵一定ノ書式ヲ定メ之ヲ鉛斬ニ附シ以テ有
事ノ日ニ供スルヲ今日ノ常套トス本編載スル處ハ現今各銀行
間ニ行ハル、諸種ノ書式ヲ參酌シ實務上法律上最モ穩當ナリ

ト思考セラレ、モノヲ案出シタルニ過ギズ世間事情ノ復雜ナル直ニ之ヲ適用スベカラザル場合蓋シ多カルベシ只單ニ一般ノ模型トシテ之ヲ視バ則チ可ナリ

一新法典ノ解釋上判決例ニヨリテ世論ノ一定セラレ、場合甚ダ多ク特ニ手形法上ノ解決ニ至リテハ往々ニシテ吾人ノ意表ニ出ヅルモノサヘナキニアラズ之レ余輩ガ一日モ之ヲ苟且ニスベカラズト思惟スル所以ナリ然レモ本編採録スル處ノ判決例ノ如キ其數極メテ寡ク到底世人ノ渴ヲ慰スルニ足ラザルベキモ亦他日九双ノ一簣タルコトヲ得ンカ

一附錄統計諸表ハ農商務省大藏省其他ノ調査ニ係ルモノニシテ金融社會ニ干係アルモノヲ隨手蒐集シタル迄ナレバ數字ノ根底ニ至リテハ讀者ノ判斷ニ任スルノ外ナシ

一本編原ト余輩座右ノ類集タルニ過ギザリシヲ突然書肆ノ望ニ

ヨリ世ニ公ニスルコトナリシヲ以テ次序配列充分ノ宜キヲ得ズ讀者ノ叱責ヲ招クモノ蓋シ多カラシ之レ余輩ガ豫メ謝スル處ナリ

明治三十五年七月

編者識

銀行法規、書式並判決例目次

第一編 銀行ニ關スル法規

一般銀行法規

銀行條例及同條例中改正追加……………

銀行條例施行細則及同細則中改正追加……………

銀行條例貯蓄銀行條例及銀行合併法ヲ臺灣ニ施行スルノ件……………

臺灣ニ於ケル銀行事務主管ニ關スル勅令……………

新商法施行後ノ會社ニシテ銀行業ヲ營マントスル者ノ認可申請ニ關スル件……………

支店届出方……………

出張所設置ニ關スル取扱手續……………

外國人銀行營業繼續認可申請手續……………

外國會社ノ支店及外國人ノ設立シタル會社並ニ組合ニ關スル件……………

私立銀行及會社ノ證書ニ役印押用ニ關スル訓令……………

銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律……………

特種銀行法規

貯蓄銀行條例……………三三

貯蓄銀行條例施行細則……………三三

貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續……………三三

貯蓄銀行供託金計算方並ニ營業科目ニ關スル訓令……………三三

貯蓄銀行供託金計算說明ニ關スル訓令……………三三

日本銀行條例……………三七

日本銀行定款……………三六

日本銀行納稅ニ關スル法律……………三六

橫濱正金銀行條例……………三三

橫濱正金銀行定款……………三三

日本勸業銀行法及同法中改正追加……………三六

株式會社日本勸業銀行定款……………三六

農工銀行法及同法中改正追加……………三八

農工銀行補助法及同法中改正追加……………三五

日本興業銀行法……………二七

日本興業銀行定款……………二二

北海道拓殖銀行法……………二九

諸規則

株式會社北海道拓殖銀行定款……………三三

臺灣銀行法……………三六

臺灣銀行補助法……………三四

臺灣銀行券ニ關スル件……………三四

臺灣銀行定款及同定款中改正追加……………三四

東京銀行集會所規則……………一五

東京手形交換所規則……………一五

東京交換所代理交換銀行一覽表……………一六

東京銀行俱樂部規則……………一六

東京興信所規則……………一七

第二編 書式

貸附

借入金申込書……………一七

信用借入金證書……………一四

普通擔保付借入金證書……………一五

不動産抵當付借入金證書……………一六

借用金延期證書……………一七七

擔保品交換差入證書……………一七七

貸附金擔保品預り證……………一七六

承諾證書……………一七九

委任狀(株券賣渡)……………一七九

同 (土地抵當登記)……………一八〇

同 (土地抵當登記取消)……………一八〇

同 (公正證書作成)……………一八二

同 (辨濟公正證書作成)……………一八二

土地抵當登記申請書……………一八二

質入通知書……………一八三

質入受戻通知書……………一八三

手形割引及荷爲換

約束手形……………一八四

爲換手形……………一八五

約束手形及爲換手形裏書……………一八六

擔保品差入證書(普通)……………一八七

同 (貨物)……………一八八

割引手形擔保品預り證……………一九九

割引手形計算書……………一九〇

爲換手形副證書……………一九一

質入證券副證書……………一九二

當座貸越

當座勘定借越約定書……………一九三

同副證書……………一九四

同擔保品差入證……………一九四

延期證書……………一九五

貸越根抵當品預り證……………一九六

諸預金

當座預金勘定取引申込書……………一九七

當座預金規定……………一九七

當座小切手用法……………一九九

當座小切手(持參人拂式)……………二〇〇

同 (指圖人拂式)……………二〇一

當座橫線小切手(普通)……………二〇二

當座横線小切手(特 定).....二〇三
 當座預金記入票.....二〇四
 當座預金票.....二〇五
 當座勘定利子計算報告書.....二〇六
 預金手形.....二〇七
 支拂證書.....二〇八
 通知預金證書.....二〇九
 同裏面.....二一〇
 定期預金證書.....二一一
 同裏面.....二一二
 信用狀.....二一三
 爲 換
 コルレスボンデンス取組約定書.....二一四
 送金申込書.....二一六
 電信送金申込書.....二一七
 同受取證.....二一八

雜

手形金償還請求書.....二一八
 償還請求書送達申請書.....二一九
 保護預リ證書.....二二〇
 同 裏面.....二二〇
 保護預リ手数料受取書.....二二一
 商業登記簿抄本下付申請書.....二二二

英文書式

約束手形.....二二三
 爲換手形.....二二四
 當座小切手.....二二五
 借入金證書.....二二六
 定期預金證書.....二二七
 支拂證書.....二二八
 保護預リ證書.....二二九
 約束手形擔保品差入證.....二三〇
 擔保品預リ證書.....二三一
 旅行用信用狀.....二三二
 同 裏面.....二三三

同 筆蹟證明書.....二三四

當座預金規定.....二三五

當座小切手使用法.....二五六

第三編 判決例

手形振出

數人同一ノ約束手形ヲ振出シタル場合ニ其手形ノ記載要件ニ欠缺アル場合.....二三七

振出人ノ肩書ニ住所地ノ記載アル場合.....二三七

東京市ノ三字ヲ缺ク場合.....二三八

振出ノ場所貳箇以上アル場合.....二四一

指圖式手形ニ受取人ヲ表示セサル場合.....二四二

未成年者カ手形行爲ヲ爲ス場合.....二四三

約束手形ノ受取人合名會社某銀行ヲ單ニ某銀行ト記載シタル場合.....二四三

會社ヲ代表シテ手形ヲ振出スニ際シ其代理資格ヲ明記セサル場合.....二四四

手形裏書

手形ニ裏書人又ハ被裏書人トシテ支店ヲ記載シタル場合及本店ト支店ノ間ニ爲シタル裏書.....二四六

約束手形ノ符箋ニ爲シタル裏書.....二四六

約束手形ニ被裏書人トシ株式會社某銀行某出張所ト記載シタル場合.....二四八

支店長ノ爲シタル裏書.....二四九

白地裏書讓受人讓渡ノ場合.....二四九

記名式裏書ニ日付ヲ記載セサル場合.....二五二

無記名式裏書ニ住所及年月日ノ記載アル場合.....二五三

裏書ノ日付ト讓渡合意成立ノ日ト異ナル場合.....二五三

記名式又ハ指圖式ノ手形ヲ白地裏書ヲ以テ讓渡シタル場合.....二五四

約束手形裏書ノ日付ニ曆上存セサル日ヲ記載シタル場合.....二五五

約束手形ノ裏書讓受人ヨリ其手形カ支拂ハレサルノ故ヲ以テ裏書ニ依ラス返付ヲ受ケタル場合.....二五六

手形支拂

約束手形ニ支拂場所ノ記載アルトキ支拂呈示及拒絕證書ヲ作成スル場合.....二五七

約束手形ノ満期日カ大祭日ニ相當スル場合.....二五九

支拂義務者カ支拂地外ニ住居スル場合.....二六〇

支拂地外ニ於テ爲シタル保全行爲.....二六一

手形面ニ記載シタル指定銀行.....二六一

支拂地外ニ指定シタル銀行.....二六三

支拂場所ニ於テ手形ノ呈示ヲ爲ス場合.....二六四

一定ノ營業所以外ニ爲シタル呈示及振出地東京ト記載シ市ナル文字ヲ缺キタル場合.....二六五

手形拒絶證書

支拂場所ニ手形ヲ呈示シタル旨ヲ記載セサル拒絶證書.....二六七
約束手形ノ文字ヲ拒絶證書ニ記載セサル場合.....二六八
拒絶證書ニ記載セル事項ト證據力.....二六九
約束手形拒絶證書作成ノ場所.....二七〇
小切手ノ補箋ニ支拂拒絶ノ旨ヲ記載シタル場合.....二七一

手形償還請求

償還請求ノ期間及其方法.....二七二
償還請求通知ノ日カ一般休日ニ相當スル場合.....二七三
手形發行者ノ償還ノ程度.....二七四
手形所持人が法定ノ手續ヲ盡ササル場合.....二七五
裏書人ガ手形所持人ノ請求ニ應ジ償還義務ヲ履行シタル所持人ハ自己ノ名義ヲ抹消シ之レヲ返付シタル場合.....二七六
償還請求書ヲ發シタル場合其舉證ノ責任何レニアリヤ.....二七七
拒絶證書作成ヲ免除セラレタル場合ニ於テ償還請求權ノ時効起算.....二七八

雜件

利息制限法ヲ約束手形ノ支拂違約金トシテ損害豫定額ニ該法ヲ適用シタル場合.....二七九
普通債權證書ノ保管者カ債務者ニ證書ヲ返還シタル場合.....二八〇
常座預金元帳及總勘定元帳ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル場合.....二八一
私署證書ノ印章ニシテ其以前村役場ニ届ケ置キタル印鑑ト相違スル場合.....二八二
消印ヲ爲サル登記印紙.....二八三
登記官カ登記済ノ旨ヲ記入シタル契約證書ト公正文書.....二八四
白紙委任狀付記名債券ト其取得者.....二八五
預リ證書中ノ附箋ヲ剝取リ及ヒ附記ヲ切取リタル場合.....二八五
根抵當ヲ無効トセル上告棄却ノ理由(一).....二八六
支店ト人格及其證據力.....二八九
約束手形ノ金額ヲ變更シタル場合.....二九〇
公正證書ニ於ケル關係人ノ署名ト公正證書成立ノ要件.....二九一
確定日付ト私署證書.....二九二
約束手形ノ振出人ノ支拂義務及裏書人ノ償還義務ノ範圍.....二九三
質權者カ質物ヲ自己ニ代リ質入主ヲシテ保管セシメタル場合.....二九三
抵當流契約ノ効力.....二九四
無効ノ行爲ヲ追認シタル場合ニ於ケル効力.....二九四

農工銀行法第四十四條第三項但書ノ趣旨……………二九五
 株式會社ノ取締役カ約束手形ヲ自己ニ宛テ振出シタル場合……………二九六
 爲換訴訟ニ於テ請求ヲ起スノ理由ニ必要ナル事實ヲ證明スヘキ原本又ハ謄本
 ヲ訴狀ニ添付セサル場合……………二九六
 偽造小切手支拂者ノ責任……………二九七
 手形面以外ニ確約シタル事項……………二九七

附 錄

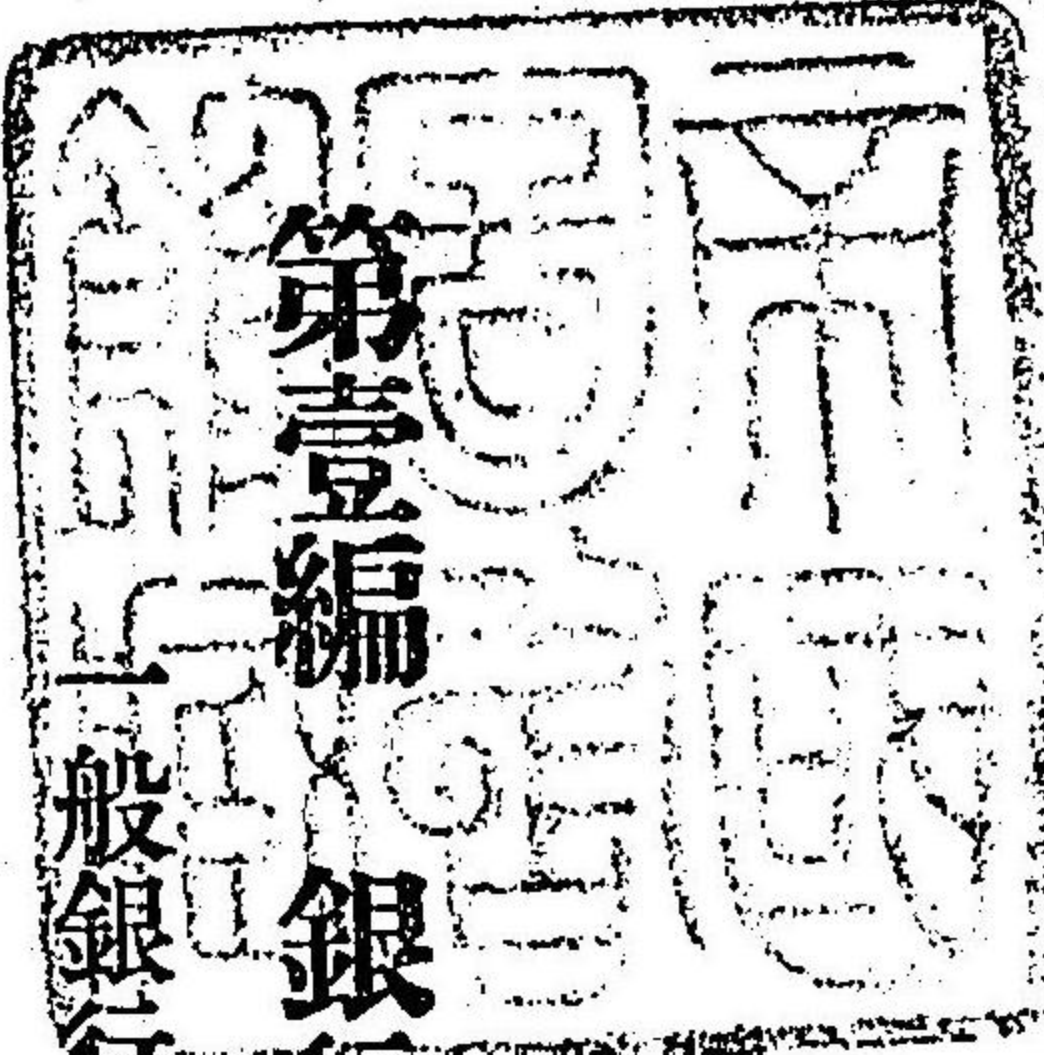
全國各銀行資本金累年比較表……………三〇一
 銀行預金年末殘高累年比較表……………三〇一
 銀行貸付金年末殘高累年比較表……………三〇三
 貯蓄銀行貯蓄預金年末殘高累年比較表……………三〇四
 貯蓄銀行貸付金年末殘高累年比較表……………三〇四
 郵便貯金年度末殘高累年比較表……………三〇五
 日本銀行金利改正一覽表……………三〇五

日本銀行金利一覽表……………三〇九
 東京同盟銀行金利累年比較表……………三二〇
 大阪金利累年比較表……………三二一
 累年手形交換高一覽表……………三二二
 東京交換所不渡手形累年比較表……………三二四
 各種貨幣製造高及發行高表……………三二四
 兌換銀行券發行高及正貨準備年末累年比較表……………三二五
 各種公債殘高累年比較表……………三二六
 累年外國貿易一覽表……………三二七
 金銀輸出入累年比較表……………三二九
 歐洲三大市場金利累年比較表……………三三〇
 公定利子ト市場割引料ノ差……………三三一
 倫敦銀塊及同爲換相場並ニ東京大阪金利累年比較表……………三三二

銀行法規書式並判決例目次終

銀行法規書式判決例

桐島 像一校閱
大山 五郎 編纂
加藤 武男



第壹編 銀行ニ關スル法規

一般銀行法規及同條例中改正追加

●銀行條例及同條例中改正追加 (明治二十三年八月法律七十二號 明治二十六年一月ヨリ施行)

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ヰルニ拘ハラズ總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ノ事業ヲ營ム會社ニシテ合併セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ (明治卅三年一月十五日法律第五號追加)

第四條 銀行ハ每半年簡年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送附スヘシ (明治卅三年一月十五日法律第五號改正)

第五條 銀行ノ登記スヘキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スルモノアルトキハ其認可書ノ到達シタル

日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス(明治三十三年一月十五日法律第五號追加)

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得(治明廿八年二月法律第一號改正)

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故

アルトキハ地方長官ニ届出豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命ジテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ

検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ業務ヲ營ミタルトキハ其營業主、

會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(明治三

三月九日法律第五十二號改正)

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ

爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シクルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表

者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(同上)

第十一條 此條例ハ日本銀行、橫濱正金銀行、國立銀行ニ適用セス

●銀行條例施行細則及同細則中改正追加(明治三十二年六月八日公布) 大藏省令第二十四號

第一條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大藏大臣ニ

- 差出スヘシ
一 商號
二 本店及支店ノ所在地

三 資本金額

第二條 會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ認可申請書ニ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘ

第三條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申

請書ニ會社定款ヲ添ヘ支店ノ代表者ヨリ大藏大臣ニ差出スヘシ

- 一 支店ノ商號
二 支店ノ所在地

三 支店資本金ヲ定メタルトキハ其金額

第四條 合資會社カ其組織ヲ變更シテ合名會社ト爲シタルトキハ財産目錄、貸借對照表及定款ヲ添ヘ

大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 株式合資會社カ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書、財産

目錄、貸借對照表、及定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第六條 商法施行前ニ設立シタル合資會社カ其組織ヲ變更シテ商法ニ定メタル合資會社株式會社又ハ

株式合資會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書、財産目錄、貸借對照表、及定款ヲ添ヘ大

第七條 合名會社又ハ合資會社カ合併ヲ爲シタルトキハ合併ニ關スル契約書會社各自ノ財産目録、貸借對照表、及ヒ合併ニ依リ存續シ又ハ設立スル會社ノ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第八條 第一條第三條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第九條 銀行カ定款ヲ變更シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月迄及ヒ七月ヨリ十二月迄トシ之ヲ銀行ノ事業年度トス

第十一條 銀行條例第三條ノ營業報告ハ附屬雜形ニ準シテ調製シ每營業年度經過后一箇月以内ニ大藏大臣ニ發送スヘシ但遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ又ハ已ムヲ得サル事由アリテ本條ノ期間内ニ報告書ヲ發送スルコト能ハサルトキハ豫メ期日ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 (明治三十四年十二月二日大藏省令第廿六號ヲ以テ削除)

第十三條 銀行カ營業ヲ開始スルトキハ其年月日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 銀行ノ事業ヲ營ムモノノ營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ解散シタルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十五條 銀行ヨリ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

附則

第十六條 本省令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十六年^五月大藏省令第七號銀行條例施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(第一號)

第何期營業報告書

明治何年七月一日ヨリ^六十二月三十一日ニ至ル半年間當銀行營業ノ成績ヲ蒐集シ別紙借貸對照表、損益表及ヒ財産目録ヲ添テ茲ニ報告ス

何縣何市何町何銀行名稱

○資本金

株式會社ハ左ノ如ク記載スヘシ

當銀行現在資本金何萬圓株式何株^{何圓}ニシテ(内拂込高何萬圓拂込未済高何萬圓又ハ内當期間増加高何萬圓又ハ外當期間減少高何萬圓)當期間當銀行帳簿ヘ記入シタル株式賣買讓與ノ總數ハ何株内何株無代價讓與ノ分差引何株此代價何圓ニシテ其平均代價ハ何圓何錢ニ當レリ而シテ現在株主ノ姓名株數ハ冊尾ニ附載セリ

○合名又ハ合資ノ銀行ハ左ノ如ク記スヘシ

當銀行現在資本金何萬圓(内當期間増加高何萬圓又ハ外當期間減少高何萬圓)又社員ハ何名ニシテ其姓名出資額ハ冊尾ニ附載セリ而シテ當期間何々ノ事故ニ依リ入社何名退社何名其姓名及ヒ各自ノ出資額左ノ如シ

○入社ノ分

金何圓

住所

職業

姓名

○退社ノ分

金何圓

同

同

同

(各人ノ銀行ハ前文ニ準シ資本金額ヲ記載スヘシ)

(株式合資會社ハ株式ニ付テハ株式會社ノ例ニ出資金ニ付テハ合資會社ノ例ニ依リ記載スヘシ)

○株主(又ハ社員)總會

(本項ハ通常及ヒ臨時總會ニ於テ決議又ハ認定セシ利益ノ配當、役員ノ選舉、資本金ノ増減、支店ノ廢置其他定款ノ變更等ニ關スル件々ノ要領ヲ掲載スヘシ)

○處務ノ要件

(本項ハ商業登記簿ニ登記ヲ受ケタル事項、主務省及ヒ地方廳へ願伺届等ノ事項、訴訟其他緊要ノ件々ニ關スル要領ヲ掲載スヘシ)

○營業ノ景況

(本項ハ本支店營業ノ盛衰、金融ノ繁閑、貸借金利及ヒ割引歩合ノ高低、各種勘定ノ伸縮其他資金運用等ニ關スル景況ヲ掲載スヘシ)

○金銀出納

合	何支店	本店	日營業	
			入	出
計				

(入金高出金高ノ桁ニハ半年間ノ總入金高及ヒ總出金高ヲ記スヘシ但シ前期ヨリ繰越ノ金高ハ算入セサルモノトス)

○諸預リ金

合	何支店	本店	勘定科目	
			總	預高
計			定期預金	拂戻高
			當座預金	現預高

(總預高ノ桁ニハ期間間ノ預リ高並ニ前期ヨリ繰越シタル預リ高ヲモ合算シテ掲載スヘシ)又茲ニ掲載シタル外ニ公金其他別種ノ預金アルトキハ右ニ準シ掲載スヘシ)

○諸貸金

合	何支店	本店	勘定科目	
			總	貸高
計			貸付金	現貸高
			當座預金貸越	口數

(總貸高ノ桁ニハ當期間ノ貸高竝ニ前期ヨリ繰越シタル高ヲモ合算シテ掲載スヘシ)又口以ノ桁ニハ現貸高ノ口數ヲ掲載スヘシ)○又當期ノ決算ニ於テ若シ該貸金ノ中損失ニ歸シタルモノアルトキハ其金額及ヒ口數ヲ玆ニ掲載スヘシ)
右現貸高ヲ抵當質物ノ種類ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

合 計	本 店									
	現 貨 金 高	抵 當 質 物 種 類	國 債 證 券	地 方 債 證 券	會 社 債 券	諸 株 券	商 品 券	地 所 建 物	信 用	用 物

(現貸高ノ桁ニハ貸付金及ヒ當座預金貸越ノ現貸高ヲ抵當質物ノ種類ニ依リ合算シテ掲載スヘシ)支店ハ本店ニ準シ掲載スヘシ)

○割引手形

(本項ハ當期間ニ割引シタル手形ヲ其支拂ノ當所(銀行所在地)他所及ヒ其種類ニ依リ區別シテ之ヲ掲載スヘシ)

○荷爲替手形

合 計	何 支 店	本 店	手 形 種 類		當 所		他 所	
			約 束 手 形	爲 替 手 形	枚 數	金 額	枚 數	金 額

(本項ハ當期間ニ取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ)
○送金爲替手形

合計	何支店		本店		為替金種類		各地へ向ケタル分		各地ヨリ受ケタル分	
	普	公	普	公	普	公	枚數	金額	枚數	金額

(本項ハ當期間ニ取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ) 公金ノ桁ニハ國庫及ヒ爲替方其他諸官衙郡區市町村等ニ係ル爲替金ヲ掲載スヘシ)

○代金取立手形

何支店	本店	手形種類		當		他		所	
		爲替手形	約束手形	枚數	金額	枚數	金額	所	所

(本項ハ當期間ニ代金取立ノ依頼ヲ受ケタル手形ヲ其支拂地ノ當所他所及ヒ其種類ニ依リ區別シテ掲載スヘシ) 又爲替手形約束手形ノ外ニ賣掛證書等ノ代金取立ノ依頼ヲ受ケタルトキハ別ニ約束手形ノ次ニ科目ヲ設ケ掲載スヘシ)

(前四項即チ割引手形爲替手形送金爲替手形代金取立手形ノ内若シ支拂拒却又ハ組戻トナリタルモノアリシトキハ各項ノ末ニ別ニ其手形ノ種類枚數金額等ヲ掲載スヘシ) 但シ前期ヨリ繰越ノ分ニシテ拒却又ハ組戻トナリタルモノモ亦共ニ掲載スルモノトス)

○外國爲替

外國爲替ヲ取扱フトキハ左ノ雜形ニ準シ當期間取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ

地名	外國へ向ケタル分				外國ヨリ向ケラル分			
	爲替手形 枚數	爲替手形 金額	爲替手形 枚數	爲替手形 金額	爲替手形 枚數	爲替手形 金額	爲替手形 枚數	爲替手形 金額
歐羅巴								
亞米利加								
支那地方								
印度								
濠洲								
合計								

(本項ハ本支店毎ニ區別シ掲載スルヲ要ス)
○諸公債證書

合 計	何 支 店		本 店		價 格	總 買 入 高	賣 渡 又 ハ 償 還 高	現 在 高
	實 價	券 面	實 價	券 面				

右諸公債證書ノ利益(又ハ損失)ニ歸シタル金額何圓ナリ
(總買入高ハ當期間買入並ニ前期繰越高ヲ合算シテ掲載スヘシ)
(現所有高實價ノ桁ニハ決算當日ニ於ケル現在所有高ノ市價即チ見積代價ヲ掲載スヘシ例ヘハ現在所有高ノ元買入代價ハ五千二百圓ナリシニ其市價五千五百五十圓ニ騰貴シタリトセハ現所有高ノ實價ノ桁ニ五千五百五十圓ト記入スルモノトス而シテ其市價ニ照シ利益ニ歸シタル高ハ三百五十圓ナリ)地金銀又ハ地所建物其他各勘定ニ於テ損益ヲ見ルヘキ場合ハ總テ此例ニ依ルヘシ)
右現在高ヲ其種類ニ依テ區別スルヘ左ノ如シ

種 類 券 面 實 價

○地金銀

合 計	何 支 店		本 店		種 類	總 買 入 高	賣 渡 高	現 所 有 高
	實 價	券 面	實 價	券 面				

(右地金銀ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載スヘシ)
(總買入高ハ前半季繰越高竝ニ當期間買入高ヲ合算シテ掲載スヘシ)

○營業用地所建物及ヒ什器

種	類	數	量	金	額	本			支			合		
						地所	何坪	類	金	額	地	何坪	類	金
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

(右地所建物及ヒ什器ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載スヘシ)

○抵當質物流込物件

種	類	數	量	金	額
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、

(右物件ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載スヘシ)
「コレレスボンデンス」先
當銀行本支店「コレレスボンデンス」先ハ現今幾箇ニシテ前半季ニ比スレハ幾箇ヲ(増)(減)セリ其取組先ハ左ノ如シ

合	計	支	店	本		
				地	建	地
、	、	、	地	米	建	地
、	、	、	所	穀	物	所
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、

○本店

、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、

○支店

、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、

○損益

一金何圓
一金何圓
一金何圓
合計金何圓
内
一金何圓
一金何圓
小計何圓

本店当期總益金
各支店当期總益金
前期繰越益金

本店当期總損金
各支店当期總損金

同 純益金

積立金

配當金何圓ノ割付
後季繰込

何銀行

取締役何
同 同
同 同
某印

差引
金何圓
此配當計算左ノ如シ
金何圓
金何圓
金何圓
右之通候也

前記ノ各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也

印

株主(又ハ社員)姓名表

姓	名	株	數	姓	名	株	數

監査役何
同 同
某印

(合名及ヒ合資會社ハ株數ノ桁ヲ出資金ト改メ記載スヘシ)
(株式合資會社ハ株式ニ付テハ株式會社ノ例ニ社員ノ出資ニ付テハ合名又ハ合資會社ノ例ニ依リ記載スヘシ)

備考

一 貸借對照表ハ本店並ニ支店各自ノ分ト本支店ヲ合シタル分ト各別ニ調製スヘシ
一 貸借對照表、損益計算書及ヒ財産目錄ハ便宜ニ依リ第二號乃至第六號若クハ第七號乃至第十一號雜形ニ準シ調製スヘシ

何地支店貸借對照表

明治何年 月 日

借方	摘要	貸方
	定期預金	8,500 000
	當座預金	25,112 500
	支拂送金爲替手形	1,853 000
	他店ヨリ借(幾箇所)	12,108 500
	本店ヨリ借	4,100 000
	
	
	
12,400 000	貸付金	
534 500	當座預金貸越	
19,286 500	割引手形	
1,800 000	荷付爲替手形	
2,306 000	公債證書	
11,024 000	他店へ貸(幾箇所)	
	
	
	
	支店元金	5,000 000
	當期純益金	488 000
	
700 000	營業用地所建物	
50 000	營業用什器	
	(正貨 1,335,110	
	金銀)紙幣並兌 6,025,000	
9,061 000	有高)換券 1,730,899	
	(切手手形	
	
57,162 000	合計	57,162 000

(第二號)

何縣何郡市何村町
何銀行
何支店
印

本店貸借對照表

明治何年 月 日

借方	摘要	貸方
	金期預定	12,000 000
	當座預金	27,053 000
	支拂送金爲替手形	2,547 000
	他店ヨリ借(幾箇所)	2,600 000
	
	
	
	
17,500 000	貸付金	
765 500	當座預金貸越	
32,184 500	割引手形	
2,500 000	荷付爲替手形	
5,200 000	公債證書	
18,500 000	他店へ貸(幾箇所)	
4,100 000	支店へ貸	
5,000 000	支店元金	
	
	
	
	資本金	100,000 000
50,000 000	拂込未済資本金	
	積立金	7,000 000
	當期純益金	1,976 000
	
	
1,300 000	營業用地所建物	
200 000	營業用什器	
	(正貨 8,560.550	
26,926 000	金銀)紙幣並兌 17,599.000	
	有高)換券 765.450	
	(切手手形	
	
164,176 000	合計	164,176 000

(第二號)

何縣府何郡市何村町
何銀行
印

何縣府何郡市何町

何銀行
印

損益計算書

明治何年 月 日

損 失	摘 要	利 益
	<u>當期利益</u>	
	利息	952 000
	手數料	854 000
	割引料	1,516 500
	公債利息	185 000
	公債貸買益	595 000
	前期繰越	65 000
	
	
	
	
	<u>當期損失</u>	
565 000	給料	
353 500	雜費	
780 000	損失	
	
	
	
	<u>純 益 金</u>	
450 000	積立金	
2,000 000	配當金(拂込資本高百圓 ニ付四圓ノ割)	
14 000	後期繰越	
	
	
4,167 500	合 計	4,167 500

(第五號)

第何期貨借對照表

明治何年 月 日

何縣府何郡市何町

何銀行
印

借 方	摘 要	貸 方
	定期預金	21,500 000
	常座預金	62,165 500
	支拂送金爲替手形	4,400 000
	他店ヨリ借(幾箇所)	14,708 000
	
	
	
29,900 000	貸付金	
1,300 000	常座預金貸越	
51,400 000	割引手形	
4,300 000	荷付爲替手形	
7,506 000	公債証券	
29,524 000	他店へ貸(幾箇所)	
	
	
	
50,000 000	資本金	100,000 000
	拂込未済資本金	
	積立金	7,000 000
	當期純益金	2,461 000
	
2,000 000	營業用地所建物	
250 000	營業用什器	
35,987 000	金銀(正貨) 紙幣 兌兌 有高 郵券 切手手形	9,866,660 23,624,000 2,496,340
212,238 000	合 計	212,238 000

明治何年十二月三十一日

何縣何郡何町

何銀行印

(第七號) 本店貸借對照表

資		債	
種類	金額	種類	金額
貸付金	一七五〇〇〇〇	當座預金	一三〇〇〇〇〇
割引手形	三二、一八五〇〇	支拂送金	三七〇〇〇〇〇
荷付爲替手形	二、五〇〇〇〇	他店ヨリ借換手形	二、五四七〇〇
國債證券	一八、五〇〇〇〇	當積金	一〇〇〇〇〇〇
地方債證券	五、〇〇〇〇〇	支店ヨリ借換手形	七〇〇〇〇〇〇
他店へ貸付金	四、〇〇〇〇〇	純立金	一、九七六〇〇〇
營業用地	一、〇〇〇〇〇	益金	〇〇〇〇〇
營業用什器	五〇〇〇〇	金	〇〇〇〇〇
內銀	二六、九二六〇〇	計	一六四、一七六〇〇〇
正貯貯貨	八、五〇〇〇〇		
紙幣	七、九〇〇〇〇		
兌換手形	七、九〇〇〇〇		
合計	一六四、一七六〇〇〇		

財產目錄

明治何年 月 日

(第六號)

種類	摘要	金額
貸付金證券	三十通	29,900 000
當座預金貸越	二十口	1,300 000
割引手形	三十枚	51,400 000
荷付爲替手形	五十枚	4,300 000
國債證券	券面七千圓	5,566 000
地方債證券	券面二千圓	2,000 000
他店へ貸付金	何箇所	20,524 000
營業用地	三百坪	800 000
營業用家作土藏	三棟建坪七十坪	1,000 000
營業用什器	金匣外何點	250 000
拂込未濟資本金	現株二十名株式二千株又ハ社員幾名	50,000 000
金銀有高		35,987 000
合計		21,2238 0.0

(第八號)

何地支店貸借對照表

資		產		債		金	
合	計	合	計	合	計	合	計
當座預付	二,四〇〇,〇〇〇	定期	八,五〇〇,〇〇〇	當座預付	二,四〇〇,〇〇〇	定期	二,五〇〇,〇〇〇
付引為換手形	一,九二八,四〇〇	支拂送金為換手形	一,八五三,〇〇〇	支拂送金為換手形	一,八五三,〇〇〇	支拂送金為換手形	一,八五三,〇〇〇
公債	一,八〇〇,〇〇〇	他店ヨリ借(幾箇所)	一,一〇八,五〇〇	他店ヨリ借(幾箇所)	一,一〇八,五〇〇	他店ヨリ借(幾箇所)	一,一〇八,五〇〇
他店へ貸(幾箇所)	二,三〇〇,〇〇〇	支店ヨリ借(幾箇所)	四,一〇〇,〇〇〇	支店ヨリ借(幾箇所)	四,一〇〇,〇〇〇	支店ヨリ借(幾箇所)	四,一〇〇,〇〇〇
營業用地所建	七〇〇,〇〇〇	資本	五,〇〇〇,〇〇〇	資本	五,〇〇〇,〇〇〇	資本	五,〇〇〇,〇〇〇
營業用什器	九〇,〇〇〇	期	四八八,〇〇〇	期	四八八,〇〇〇	期	四八八,〇〇〇
內譯	一,〇〇〇,〇〇〇	純益	〇	純益	〇	純益	〇
正幣兌換	六,〇〇〇,〇〇〇	金	〇	金	〇	金	〇
紙幣兌換	一,〇〇〇,〇〇〇	計	五七,一六二,〇〇〇	計	五七,一六二,〇〇〇	計	五七,一六二,〇〇〇
手形	一,七〇〇,〇〇〇						
合計	五七,一六二,〇〇〇						

明治何年十二月三十一日

何縣何郡何村

何銀行

何支店

印

(第九號)

第何期貸借對照表

資		產		債		金	
合	計	合	計	合	計	合	計
當座預付	二,九〇〇,〇〇〇	定期	二,一五〇,〇〇〇	當座預付	二,九〇〇,〇〇〇	定期	二,一五〇,〇〇〇
付引為換手形	一,三〇〇,〇〇〇	支拂送金為換手形	六二,一六五,〇〇〇	支拂送金為換手形	一,三〇〇,〇〇〇	支拂送金為換手形	六二,一六五,〇〇〇
公債	五,一四七,〇〇〇	他店ヨリ借(幾箇所)	四,四〇〇,〇〇〇	他店ヨリ借(幾箇所)	五,一四七,〇〇〇	他店ヨリ借(幾箇所)	四,四〇〇,〇〇〇
他店へ貸(幾箇所)	四,三〇〇,〇〇〇	支店ヨリ借(幾箇所)	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	支店ヨリ借(幾箇所)	四,三〇〇,〇〇〇	支店ヨリ借(幾箇所)	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇
營業用地所建	七,五〇〇,〇〇〇	資本	一,〇〇〇,〇〇〇	資本	七,五〇〇,〇〇〇	資本	一,〇〇〇,〇〇〇
營業用什器	二,〇〇〇,〇〇〇	期	二,四六四,〇〇〇	期	二,〇〇〇,〇〇〇	期	二,四六四,〇〇〇
內譯	三,五九八,七〇〇	純益	〇	純益	三,五九八,七〇〇	純益	〇
正幣兌換	九,八六六,〇〇〇	金	〇	金	九,八六六,〇〇〇	金	〇
紙幣兌換	三,三〇〇,〇〇〇	計	二二,二三八,〇〇〇	計	三,三〇〇,〇〇〇	計	二二,二三八,〇〇〇
手形	二,四六六,三〇〇				二,四六六,三〇〇		
合計	二二,二三八,〇〇〇				二二,二三八,〇〇〇		

明治何年十二月三十一日

何縣何市何村

何銀行

印

(第十號)

損益計算書

利 益	利息				利 損	給 料	雜 費	損 失	金 額
	手 引 料	割 引 料	公 債 利 息	前 期 繰 越					
計	九五二〇〇〇	八五四〇〇〇	一、五一六五〇〇	六五〇〇〇	純益金	積立金	配當金(拂込資本高百圓) (二付四圓ノ割) 後期繰越	料 費 失	四、一六七五〇〇
合	四、一六七五〇〇	四、一六七五〇〇	四、一六七五〇〇	四、一六七五〇〇	五、六五〇〇〇	三、五八五〇〇	七、八〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇	四、一六七五〇〇

明治何年十二月三十一日

何府何市何町

何銀行印

(第十一號)

財產目錄

種 類	摘 要	金 額
貸付金	三三	二九、九〇〇〇
當座預金	二二	一、三〇〇〇
割引金	三三	五、一四七〇
荷蘭債	十	四、三〇〇〇
國債	五	五、五〇〇〇
地方債	二	二、〇〇〇〇
他店債	何	二、九、五二四〇
營業用家作地	三三	八〇〇〇〇
營業用家作土	三三	一、二〇〇〇
營業用什器	三三	二、五〇〇〇
未濟資本	金	五〇、〇〇〇〇
逓入銀	現株主二十名様式貳千株又ハ社員幾名	三五、九八七〇
合	計	二二二、三三八〇

明治何年十二月三十一日

何府何市何町

何銀行印

●銀行條例貯蓄銀行條例及銀行合併法ヲ

臺灣ニ施行スルノ件 (明治三十一年九月勅令第二百五號)

朕銀行條例貯蓄銀行條例及銀行合併法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十三年法律第七十二號銀行條例同年法律第七十三號貯蓄銀行條例明治二十九年法律第八十五號
銀行合併法ヲ臺灣ニ施行ス

●臺灣ニ於ケル銀行事務主管ニ關スル勅令 (明治三十年一月二勅令第九號)

臺灣ニ於ケル貨幣及銀行ニ關スル政務ハ大藏大臣ノ管理ニ屬セシム
前項ノ政務ニ就テハ臺灣總督ハ大藏大臣ノ監督ヲ承クルモノトス

●新商法施行後ノ會社ニシテ銀行業ヲ營マントスル者ノ

認可申請ニ關スル件 (明治三十二年八月三十一日大藏省令第八〇六九號)

商法實施後ノ今日ニ於テモ會社ニシテ銀行業ヲ營マントスル者本省へ營業ノ認可申請ヲナスニ際シ尙
キ舊商法時代ノ手續ニヨリ發起人ヨリ營業認可申請致來リ候者往々有之候へ共右ハ新商法第二十三條
第三百九條ノ規定ニヨリ會社成立ノ後取締役ヨリ銀行營業認可ノ申請ヲ爲スヘキ儀ニ有之候間左様
御了知相成度此段及御注意候也

●支店届出方 (明治廿七年十月官、大藏省訓令) 岩手、宮崎、鹿兒島、
沖繩縣ヲ除ク

前(略)他府縣所在ノ支店ニ係ルモノハ其所在地方廳ヲ經由スヘキ筈ニ付此種ノ届書ニ對シテハ皆本店
ノ社印ヲ押捺セシムヘキ儀ニ有之候條右ニ御承知夫々御査閱ノ上御進達相成度此段申進候也

●出張所設置ニ關スル取扱手續 (明治廿六年十一月大藏省訓令第五號)

一銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラズ一定ノ場所ヲ設ケ銀行事業ノ全部若シクハ其
ノ一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ爲サシムヘシ

●外國人銀行業ノ繼續認可申請手續 (明治三十二年六月廿三日大藏省令第三十號)

日本ニ於テ銀行事業ヲ營ミタル外國會社又ハ外國人ニシテ新條約實施後其ノ營業ヲ繼續セントスルモ
ノ、認可申請手續左ノ通り相定ム
新條約實施前ニ日本ニ於テ本店又ハ支店ヲ設立シ銀行事業ヲ營ミタル外國會社又ハ外國人ニシテ其ノ
營業ヲ繼續セントスルモノハ明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則第一條第二條又ハ第
三條ノ規定ニ準シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

●外國會社ノ支店及外國人カ設立シタル會社

竝組合ニ關スル件 (明治三十二年六月十五日日勅令第二百七十二號)

第一條 商法施行前ニ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ商法第二百五十五
條ノ規定ニ從ヒ支店設立ノ登記ヲ爲シ且日本ニ於ケル代表者ヲ定メ其氏名住所ヲ登記スルコトヲ要
ス

商法第二百五十七條及非訟事件手續法第二百二條ノ規定ハ前項ノ外國會社ニ之ヲ準用ス

第二條 商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社ハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ商法ノ規定ニ從ヒ其定款ヲ作り且設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 會社カ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

解散ノ裁判ハ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スルコトヲ要ス

非訟事件手續法第百二十六條第一項第百三十四條第一項、第二項及ヒ第百三十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社ニ關シ第二條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シ又ハ解散ノ裁判ノ確定スルマテニ生シタル法律關係ハ從來其會社ノ屬セシ國ノ法律ニ依ル

第五條 商法施行前ニ日本ニ於テ外國人カ設立シタル組合ニシテ獨立ノ財産ヲ有スルモノハ商法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ組織ヲ變更シ之ヲ商法ニ定メタル會社ト爲スコトヲ要ス

前二條ノ規定ハ前項ノ組合ニ之ヲ準用ス

附則

此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎私立銀行及會社ノ證書ニ役印押用ニ關スル訓令(明治廿一年十二月四日)

(大藏省訓令第四十七號)

北海道廳、府、縣

諸證書ニ押用スル印章ノ儀ニ付客年十二月第六十八號ヲ以テ及訓令置候處今般日本銀行ヨリ請願ノ趣

ニ據リ役印押用ノ儀及認可候爾後私立銀行及類似會社ニ於テモ適宜役印ヲ押用セシメ苦シカラス

◎銀行ニ關スル法律ニ定タル過料ニ關スル法律(明治廿二年三月九日)

(日法律第五十三號)

銀行ニ關スル法律ニ於テ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

特種銀行法規

●貯蓄銀行條例

(明治二十三年八月法律第七十號同二十六年一月ヨリ施行)

- 第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若クハ當座預リトシテ引受クルトキハ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム
- 第二條 資本金參萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第三條 貯蓄銀行取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス
但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス(明治二十八年法律第十七號改正)
- 第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ(同上但書)
但擔保金額カ資本金ノ半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用井ルコトヲ得
- 第五條 前條ノ金額ハ每半々年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム(同上)
- 第六條 預ケ人ハ第四條供託諸證券ニ就キ優先權ヲ有ス(同上)
- 第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若クハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

●貯蓄銀行條例施行細則

(明治廿八年三月大藏省令第一號ヲ以テ改正)

- 第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券、地方債證券、商業手形、會社ノ債券又ハ株券ハ明治二十六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ
- 第二條 諸債券ノ擔保價格ハ每半箇年末日ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續キヲ了シタルトキハ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ每半箇年末日ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ
臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ
- 第四條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求メントスル證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額、枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ
- 第五條 地方長官ハ前項ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ツヘシ
大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムルトキ

(諸證券ハ其價格當期末日ノ預金總高ノ四分ノ一以上ニシテ實際供託ヲ爲シタル分ヲ掲載スヘシ)

●貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル

取扱手續 (明治廿六年十一月大藏省訓令第三十五號)抄略

一貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラス一定ノ場所ヲ設ケ又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ爲サシムヘシ
一貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

●貯蓄銀行供託金計算方并營業科目ニ

關スル訓令 (明治廿八年三月二十八日大藏省訓令第十二號)

今般法律第十七號ヲ以テ改正相成候貯蓄銀行條例第四條ニ依リ供託スヘキ金額ハ貯蓄銀行ニ於テ何等ノ名稱ヲ用ユルモ其銀行ノ預金總高ニ基キ計算スル儀ト心得ヘシ
從前認可ヲ經タル貯蓄銀行ノ定款ニ營業科目ヲ記載セルモノハ法律ノ改正アルモ更ニ定款改正ノ認可ヲ經ルニアラサレハ其營業科目外ノ事業ヲ營ム能ハサル儀ト心得ヘシ

●貯蓄銀行供託金計算說明ニ

關スル訓令 (明治廿八年五月二十七日大藏省訓令第二十一號)

本年三月大藏省訓令第十二號ヲ以テ貯蓄銀行ニ於テ供託スヘキ金額ニ關シ及訓令候處右金額ハ複利ノ方法ヲ以テスル預金總高ニ基キ計算スル儀ニ有之此旨更ニ訓令ス

日本銀行

●日本銀行條例 (明治十五年六月第三十二號布告)

第一條

日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條

日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレスボンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條

日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條

日本銀行ノ資本金ハ一千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株二百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條

日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條

日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條

資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムルモノトス

第八條

營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其缺額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條

事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ殘額ヨリ追募スヘシ

第十條

純益總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條

日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲナス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保護ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條

日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲナシ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條

政府ノ都合ニ依リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條

日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條

日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條

日本銀行ハ公債證書ヲ買入レ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受ヘクキモノトス

第十七條

日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スルモノトス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條

總裁副總裁ハ任期五箇年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條

理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

第二十條

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス(明治二十八年八月法 第六十一號改正)

第二十一條

總裁ハ毎半年期ニ通常株主總會ヲ召集ス

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ召集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ召集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ増加

フ但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス(明治二十三年八月法 第六十一號改正)

正號改

第二十一條

大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條

日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條

日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條

政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條

此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

日本銀行定款

(明治十五年第三十二號布告)

第一章 日本銀行組織ノ事

第一條

日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止ルモノトス

第二條

日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ又各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルヲ得ヘシ但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條

支店及ヒ出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルノ規則ハ銀行重役ニ於テ決議シ大藏卿ノ許可ヲ可クヘシ

第四條

日本銀行ノ營業年限ハ條例第三條ニ據リ明治十五年十月十日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ヲ繼續セントスルトキハ其延期ヲ請願シ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第五條

日本銀行ノ實際報告ニ於テ資本金半額以上ヲ損失セシ旨ヲ證明スルトキハ鎖店スルモノトス前項ノ場合ヲ除クノ外期限内ニ鎖店セントスルトキハ株主總會ノ出席員四分ノ三以上ニシテ總株半數以上ヲ所有スル者ノ決議ヲ經テ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第六條

日本銀行ハ期內ト滿期トヲ問ハス前條ノ場合ニ在ツテ鎖店スルトキハ株主總會ニ於テ鎖店處分人ヲ撰定シ其權限職制ヲ定メテ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二章 資本金及積立金ノ事

第七條

日本銀行資本金ハ三千萬圓ト定メ之ヲ十五萬株ニ分チ一株二百圓トス但政府ノ命令ニ依リ資本金ヲ增加シ若クハ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ歷ルニ於テハ資本金ヲ增加スルコトヲ得(廿八年八月十七日増資)

第八條

日本銀行ノ資本金半額迄ハ政府ニ於テ引受ケ之カ株主タルヲ得ヘシ

第九條

資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓(一株ニ付四十四圓ノ割)ハ必ス開業五日前迄ニ入金スヘシ右資本金ノ割合及ヒ期限ハ左ノ如シ

第一回 金四十圓(二株ニ付)

但明治十五年九月十五日ヨリ同三十日迄入金ノ事

第二回 金二十圓(一株ニ付)

但明治十六年五月十五日ヨリ同三十一日迄入金ノ事

第三回 金二十圓(一株ニ付)

但明治十六年十月一日ヨリ同十五日迄入金ノ事

第四回 金二十圓(三株ニ付)

但明治十七年五月十五日ヨリ同三十一日迄入金ノ事

百圓拂込後ノ拂込ハ銀行ノ都合ニヨリ募集スヘシ但其拂込金額ハ一回毎ニ一株ニ付二十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサルモノトス其拂込期日ハ二ヶ月以前ニ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ廣告スヘシ(廿八年八月十七日改正)

第十條

營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタルトキハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其缺額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第十一條

事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十二條

株主若シ資本入金ノ日限ニ入金セサル時ハ過怠金トシテ追募金十分ノ一ヲ増納セシムヘシ若シ又二箇月ヲ經テ猶入金セサルトキハ其株券ヲ賣拂ヒ其代金ヨリ追募金額過怠金並其賣拂ニ係ル費用ヲ差引餘贏アレハ原株主ニ還付シ不足ハ尙ホ之ヲ追徵スヘシ

第十三條

株券ハ總テ記名トシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第十四條

日本銀行ノ株主タラントスル者ハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條

株券ハ銀行ニ於テ株式帳ヲ設ケテ之ニ記入スヘシ若シ株券ヲ賣買又ハ讓與セントスルトキハ買方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ銀行ニ請求シ銀行ハ大藏卿ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ヘ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作り雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添テ銀行ニ差出スヘシ而テ銀行ニテハ之ヲ帳簿ニ記入シ且ツ其賣買讓與ヲ證スル爲メ總裁及ヒ文書局長株式局長其株券ノ裏面ニ署名捺印スルモノトス

第十六條

株主ハ銀行ノ資産ヲ共有シ割賦金ヲ受取ル爲メ其所有株ノ多寡ヲ問ハス毎株ニ付各一箇平等ノ權利ヲ有スルモノトス

第十七條

日本銀行ノ株主タル者ハ本行ノ定款及ヒ株主總會ニ於テ決議スル所ノ事件ヲ遵守スヘシ

第十八條

凡株式ニ屬スル權利義務ハ其株券(何人ノ所有タ)ニ附從スルモノトス

第十九條

純益金總額ヨリ第三十六條ノ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金第三十六條ノ割合ニ及ハサル時之ヲ補フ

第二十條

前第十九條ニ記載セル積立金ハ金銀貨地金銀及ヒ公債證書ノ買入ニ使用スヘシ但此積立金ヨリ生スル所得金額ハ銀行ノ總益金ニ算入スヘシ

第三章 銀行營業ノ事

第二十一條

日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

- 第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事
- 第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事
- 第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事
- 第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事

第二十二條

日本銀行ハ前第二十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルヲ得ス

- 第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事
- 第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事
- 第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事
- 第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第二十三條

日本銀行ニ於テ割引ヲ爲ス商業手形ハ總テ裏書ヲ以テ授受ヲ爲シ印稅規則ニ依テ印紙ヲ貼シ資産確實ナル者二名以上ノ裏書アリテ且ツ仕拂期限ノ百日以内ニ在ル者ニ限ルヘシ但銀行總會ノ決議ヲ經大藏卿ノ許可ヲ得タル格段ノ約束アルモノハ一人ノ裏書ニテモ割引ヲ許スコトアルヘシ

第二十四條

割引依頼人ヨリ其手形金額ニ匹適スル商品又ハ商品預證書ヲ質入シタルトキハ之ヲ一人前ノ署名捺印ト見做シ割引ヲ許スコトアルヘシ

第二十五條

政府發行手形ノ割引ハ仕拂期限及割引ノ歩合共時々大藏卿ニ稟議シ重役集會ニ於テ決定スルモノトス

第二十六條

手形割引ノ歩合ハ毎月重役集會ニ於テ決定シ支店出張所ニ於テハ本店ヨリ時々指定スル所ノ歩合ニ從フヘシ但シ此歩合ハ重役集會ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルヲ得ヘシ

第二十七條

政府發行手形ノ割引ニ充ツル金額及公債證書其他政府ノ保證ニ係ル證券ヲ抵當トシテ貸出スヘキ金額並ニ利子ノ割合ハ毎十日重役集會ニ於テ決議シ監事集會承諾ノ上大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第二十八條

前第二十七條ノ貸附ハ銀行ニテ資産確實ト認ムル者ニ限ルヘク且ツ其期限ハ永クトモ六箇月ヲ超過スヘカラス而シテ其貸附金ハ當日證券ノ相場ニ對シ十分ノ八ヲ限リト爲スヘシ

負債主若シ期限ニ於テ返金セザルトキハ其抵當品ヲ賣拂ヒ元利差引キ贏餘アルトキハ之ヲ本人ニ還付シ不足ハ之ヲ追徴スヘシ且期限ニ於テ書換延期ヲ請フトキハ一回限リ許スコトアルヘシ尤モ銀行總會ニ於テ格段ナル許可ヲ與ヘタルモノハ此限ニアラス

第二十九條

日本銀行ハ公債證書並政府發行手形ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ重役集會ノ決議ヲ以テ監事集會ノ承諾ヲ受ケ大藏卿ノ許可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス但其許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ實施ヲ爲サルトキハ其許可ハ無効タルヘシ

第三十條

日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但條例第十四條ニ據リ政府ヨリ別段ノ規則ヲ頒布セラル

第三十條

日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但條例第十四條ニ據リ政府ヨリ別段ノ規則ヲ頒布セラル

ルノ後ニ非サレハ之ヲ實施スルヲ得ス

第三十一條

日本銀行ハ送金手形振出手形及振換切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第三十二條

日本銀行ハ政府ノ都合ニ由リ國庫金ノ取扱ヒニ從事スルヲ得ヘシ

第三十三條

貸金ノ返辨手形ノ仕拂等不安全ト思惟スルカ又ハ現ニ滯貸或ハ不渡トナリタル時ハ負債者所有ノ家屋土地其他ノ財産ヲ銀行ニ引取ルコトヲ得ヘシ但此家屋土地其他ノ財産トモ爾後一箇年以内ニ賣拂ヲ爲スヘシ然レトモ大藏卿ノ許可ヲ受クルモノハ此限ニアラス

第四章 實際報告及利益金分配ノ事

第三十四條

重役集會ニテ毎年六月三十日十二月三十一日ニ於テ營業上實際ノ報告ヲ整理シ二十日以内ニ之ヲ監事集會ニ付シ監事集會ハ此報告ヲ受ケタル日ヨリ更ニ二十日以内ニ於テ之カ調査ヲ爲スヘシ尤モ監事集會ノ多數ヲ以テ可決スル時ハ直テニ確定シタルモノトス若シ其多數ヲ得サルトキハ株主總會ノ決議ニ付スヘシ

第三十五條

創業費營業費其他ノ諸費用ハ毎半季決算ノ總益金ヨリ引除キ其殘額ヲ以テ純益金ト爲スヘシ但シ創業費ハ遞減法ヲ以テ支消スルモノトス

第三十六條

純益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

第一 總株金拂込高ニ對シ年六分ノ割合ヲ以テ配當スヘシ

第二 右配當金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ積立金ト爲スヘシ

第三 右同金額ノ十分ノ一迄ヲ役員賞與金並ニ交際費トシテ引去ルヘシ但シ其割合ハ内規ヲ以テ定ムルモノトス

右三項ヲ差引キ其殘額ハ總株ヘ配當スヘシ尤其割合ハ時々大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ(明治二十一年四月二日改正)

第三十七條

上半季ノ割賦金ハ其年八月三十日迄ニ下半季割賦金ハ翌年二月二十八日迄ニ各株主ヘ分配スルモノトス

第三十八條

此割賦金第三十六條ノ割合ニ及ハサルトキハ積立金ノ内ヨリ補フモノトス然レトモ次ノ半季ニ於テ此割合ヲ超ル時ハ前半季ニ補ヒシ積立金ノ缺額ヲ填補スヘシ

第三十九條

上下兩半季ノ實際報告並損益勘定ハ大藏卿ヘ申牒シ且ツ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ下半季ノ實際報告並損益勘定ニハ其年營業上ノ重役報告並ニ監事報告ヲ付シ翌年二月ノ定式株主總會ヨリ凡ソ五日前三各株主ヘ配賦スヘシ

第四十條

銀行重役ハ本支店及出張所約定店等ノ營業上百船ノ景況ヲ取調ヘ毎月一回ヨリ少ナカラス之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第五章 行務綜理ノ事

第一節 職員ノ組織

第四十一條

日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ事務ヲ綜理スルモノトス而シテ總裁副總裁理事ノ集會ヲ名ケテ重役集會ト言フ
此銀行ノ事務監督ノ爲メ監事三人乃至五人ヲ置キ其集會ヲ名ケテ監事集會ト言フ
又割引手形審査ノ爲メ割引委員ヲ置クベシ

第四十二條

總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トシ共ニ任期五年トス但滿期後幾回ニテモ任命スルヲ得ヘシ尤任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第四十三條

總裁副總裁ハ東京府内ニ住居スヘシ

第四十四條

總裁副總裁ノ俸給及交際費ハ政府ニ於テ定メ銀行ヨリ支辨スルモノトス

第四十五條

理事ハ任期四年トシ株主總會ニ於テ被選者二倍ノ候補ヲ選舉シ大藏卿其内ヨリ任命スルモノトス但創立第一回ハ五年ノ任期ヲ以テ大藏卿ヨリ特命スヘシ若シ任期内ニ於テ缺員アルトキハ大藏卿ヨリ補闕員ヲ命シテ其殘期丈ケテ勤メシムヘシ

第四十六條

理事ハ滿期後幾回ニテモ選任セラル、ヲ得ヘシ
理事ハ必ス東京府内ニ住居スヘシ

第四十七條

毎年一月一日ニ於テ理事一名ヲ更代セシムヘシ但更代ノ順序ハ明治二十一年八月ノ株主總會ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ其翌年ヨリ此順序ヲ逐フテ毎年更代スルモノトス(二十年七月廿八日改正)

死去或ハ不時ノ退職者アリテ其補缺ニ選任セラレタル者ハ前任者ノ殘期丈ヲ勤ムルモノトス

第四十八條

總裁副總裁及ヒ理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第四十九條

監事集會ハ會員中ヨリ會長一名ヲ選舉スヘシ

第五十條

監事ハ任期三年トシ株主總會ニ於テ選舉スルモノトス但滿期後幾回ニテモ選任スルヲ得ヘシ
滿期ノ監事ハ毎年二月ノ株主總會ヲ畢リテ更代スヘシ(明治二十一年十月廿一日改正)

死去又ハ不時ノ退職者アリテ其補缺ニ選舉セラレタル者ハ前任者ノ殘期丈ヲ勤ムルモノトス

第五十一條

理事ハ百株以上監事ハ四十株以上ヲ所有スルニ非サレハ此選ニ當ルヲ得ス(明治二十一年十月廿一日改正)
此株券ハ理事監事事務取扱ノ保證金トシテ銀行ニ預ケ置クヘシ本人退職スト雖モ其年度ノ實際報告ヲ監事集會ノ可決シタル後ニ非サレハ其株券ヲ受戻スコトヲ得ス

第五十二條

總裁副總裁理事監事ハ銀行ノ營業上他人ト約束スル事件ニ就テハ一個人ノ義務ナキモノトス

第五十三條

第三十六條第三項ニ定メタル割合ヲ以テ半季利益金ヲ配當スルハ理事ハ一名ニ付五千圓監事ハ一名ニ付二千圓ニ超過スルトキハ株主總會ニ於テ其配當金ヲ此額迄ニ減少スルヲ得ヘシ(明治二十年四月二日改正)

第二節 總裁副總裁

第五十四條

總裁ハ重役集會銀行總會及ヒ株主總會ノ議長タルヘシ

總裁ハ此等ノ會議ニ於テ決議セシ事件ヲ施行スルモノトス

總裁ハ重役集會ニ於テ諸勘定書ヲ整理セシメ之ヲ株主總會ニ付スヘシ

總裁ハ銀行全般ノ事業ニ注目シ條例定款及内規等ノ諸則ヲ恪守セシムヘシ

銀行營業ニ關スル訴訟ハ總裁ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

總裁ハ重役集會ノ決議ヲ以テ約定書和解書其他一般ノ書類ニ署名捺印スヘシ

日常細事ニ關スル書類ヲ除クノ外營業上ノ證文其他ノ書類ニハ必ス文書局長ノ副印ヲ要スルモノトス

第五十五條

總裁ハ重役集會ニ於テ決議セシ事件ヲ不當ナリト認ムル時ハ速ニ銀行總會ヲ開キ其意見ヲ諮詢スルヲ得ヘシ

各會議ニ於テ決議シタル事件ト雖モ條例定款ニ抵觸スルコトハ勿論政府ノ不利ト認ムル時ハ總裁直チニ之ヲ停止シ政府ヘ申告スヘシ若シ三十日以内ニ政府ヨリ別ニ指令ナキトキハ原決議ノ通り施行スヘキモノトス

第五十六條

總裁事故アル時ハ副總裁代理スヘシ

第五十七條

總裁ハ日常ノ細事ヲ處辨スル爲メ其事件ヲシテ代理セシムルヲ得ヘシ

第三節 重役集會

第五十八條

重役集會ハ銀行諸般ノ事務ヲ決議スルモノトス但他ノ集會ニ於テ決議スヘキノ成規アルモノハ此限ニアラス

此集會ハ手形割引ノ歩合政府發行ノ手形ヲ割引スル金額公債證書等ニ對シ貸與スル金額及ヒ公債證書買入ニ充ル金額等ヲ定ムヘシ但此等ノ事件ハ監事集會ノ承諾ヲ經テ施行スルモノトス

此集會ハ各局役員一般ノ進退陟黜ヲ議シ其給料身元金等ノ額ヲ定ムヘシ

支店出張所ノ役員中ニ於テ證書類ニ銀行ノ名義ヲ以テ署名捺印セシムルモノハ重役集會ニ於テ之ヲ選

ミ委任狀ヲ與ルモノトス

重役集會ハ約定並ニ和解等ノ條件ヲ決議スルコトヲ得ト雖モ監事ノ承諾セサル事件ハ實行スルコトヲ許サス

此集會ニ於テハ株主總會ニ差出スヘキ一年間營業ノ報告ヲ整理スヘシ

第五十九條

重役集會ハ半数以上出席ナキ時ハ決議スルヲ得ス

此集會ノ議事ハ多数ヲ以テ決スルモノトス若シ可否相半スルトキハ議長之ヲ決スヘシ

第六十條
重役集會ニ於テハ議事録ヲ作り其決議ノ旨趣並事務ノ要領ヲ記載シ出席員及文書局長之ニ署名捺印スヘシ

第四節 監事集會

第六十一條

監事ハ銀行諸般ノ業務ヲ監視シ且諸帳簿類ヲ検査スルモノトス監事ハ實際報告損益勘定及經費豫算等ヲ調査シ正常ナリト認ムル時ハ之ヲ承認スヘシ但此報告豫算等ハ重役集會ニ於テ調整同付スルモノトス
重役集會ニ於テ手形割引ノ歩合ヲ變更シ又ハ政府發行ノ手形ヲ割引スル金額若クハ公債證書其他政府ノ保證ニ係ル諸證券ニ對シ貸與スル金額ヲ増減シ又ハ公債證書買入ノ件ヲ決議シタルトキハ監事集會ノ承認ヲ受クヘキモノトス然トモ事情至急ヲ要スルトキハ手形割引ノ歩合ニ限り重役集會ノ決議ノミヲ以テ増減スルヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ必ス五日以内ニ監事集會ノ承認ヲ受クヘシ

第六十二條

監事集會ハ少クトモ毎月一回宛開會スヘシ若シ二人以上缺席スル時ハ決議ヲ取ルコトヲ得ス
議事ハ多數ヲ以テ決スヘシ若シ可否ノ數相半スル時ハ銀行總會ニ於テ決定スヘシ
若シ二人以上ノ缺席アリテ決議ヲ取ルコト能サルトキハ至急ヲ要スル事件ニ限り銀行總會ニ於テ決議スルヲ得ヘシ

第六十三條

第三十六條第三項ニ定メタル監事ノ配當金ハ半額ヲ人員ニ均分シ半額ハ出席數ニ應シテ配當スルモノ

トス(明治二十年四月二日改正)

第五節 銀行總會

第六十四條

總裁副總裁理事監事ノ集會ヲ名ケテ銀行總會ト云フ

第六十五條

銀行總會ハ少クトモ毎月一回宛開會シ營業上ノ得失ヲ商議スルモノトス
此總會ハ定款内規ニ依リ其職務ニ屬スル諸件ヲ決議スルモノトス
此總會ハ利益金ノ分配及ヒ賞與ノ金額ヲ決議スヘシ
此總會ハ保護預リノ約束及其手續等ヲ決議スヘシ
此總會ハ重役集會ノ起案シタル銀行内規並支店出張所等ノ規則ヲ決議スヘシ
此總會ハ支店出張所廢置ノ件ヲ決議スヘシ
以上四項ノ事件ハ總テ大藏卿ノ許可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス

第六十六條

第六十二條第三項ノ場合ヲ除クノ外重役監事共ニ過半數ノ出席スルニ非サレハ決議ヲ取ルコトヲ得ス
議事ハ多數ヲ以テ決スルモノトス但可否ノ數相半スルトキハ議長之ヲ決スヘシ

第六節 割引委員

第六十七條

割引委員ハ少クトモ三名以上タルヘシ其委員ハ銀行總會ニ於テ選定シ出席日數ニ應シテ手當金ヲ付與スヘシ

此委員ハ監事中ヨリ兼任スルヲ得ヘシ
此委員ハ毎年總員ノ半數ヲ更代スルモノトス但之ヲ再選スルヲ得ヘシ

第六十八條

割引委員ハ理事一名ヲ以テ之レカ長トナスヘシ但委員出席ノ時日ハ内規ヲ以テ定ムルモノトス
此委員ハ諸手形ノ検査ヲ遂ケ之カ割引ヲ許スヘシト認定スル時ハ其趣ヲ銀行重役ニ申立ツヘシ

第六章 監理官

第六十九條

監理官ハ大藏卿ノ命ヲ受ケ銀行一般ノ事務ヲ監理シ殊ニ銀行券發行内外手形割引等ノ事務ヲ監視スルモノトス

第七十條

監理官ハ何時タリトモ銀行事務一切ノ狀況ヲ質問シ且帳簿若クハ金庫等ノ検査ヲ爲スノ權ヲ有ス
監理官ヨリ銀行事務ノ一覽表ヲ要スルトキハ銀行重役ニ於テ之ヲ調製シ檢印ヲ捺シテ差出スヘシ

第七十一條

監理官ハ重役集會監事集會銀行總會割引委員席株主總會等ニ臨席シ意見ヲ陳述スルヲ得ヘシ但可否ノ數ニ加ハルヲ得ス

第七章 株主總會

第七十二條

株主總會ハ株主總體ノ權利ヲ表スルモノトス
條例規則ニ依リ株主總會ニ於テ決議シタル事件ハ缺席者或ハ異議者ト雖モ必ス服從スヘキモノトス

第七十三條

株主總會ノ會員タル者ハ會期六十日前ニ於テ十株以上ヲ所有スル者ニ限ルヘシ
會員缺席スル時會員タルヘキ者ニ代理ヲ付托スルヲ得ヘシ
會社組合ハ銀行等ニシテ此銀行ノ株主タル者ハ其社員一名ヲ以テ代理セシムルヲ得ヘシ
株主中婦女並瘋癲白痴及ヒ丁年未滿ノ男子ハ其後見人若クハ他ノ會員タルヘキモノヲ以テ代理セシムヘシ

前三項ニ定メタル代理人タル者ハ必ス委任狀其他ノ書籍ヲ持參スルモノトス

第七十四條

會員ハ當日發會前ニ於テ出席名簿ニ署名捺印スヘシ

第七十五條

株主ハ所有株數十箇ニシテ投票一箇ノ權利ヲ有シ十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ヲ増加スルモノトス又
幾人ヨリ代理委任ヲ受クルモ其代理ニ屬スルノ權利ハ十箇以上ヲ有スルヲ得ス但帝室政府及ヒ會社銀行等ノ代理タルモノハ此限ニアラス(明治二十一年十一月廿一日改正)

第七十六條

定式株主總會毎年二月八月第三ノ土曜日ニ於テ開場スヘシ
此定式總會ニ於テ第三十四條ニ掲ケタル前半期實際報告ノ可否ヲ決議スヘシ
二月ノ株主總會ニ於テハ銀行重役ヨリ前年度ノ十二月三十一日迄ノ營業報告ヲ差出スヘシ
八月ノ株主總會ニ於テハ其年末ニ滿期退職スヘキ理事及監事ノ後任ヲ選舉スヘシ
二月八月兩度ノ株主總會ニ於テハ職員中死去或ハ退職者ノ補缺選舉ヲ爲スヘシ

第七十七條

大藏卿若クハ重役集會ニ於テ必要ナリト思考スルトキハ何時ニテモ臨時株主總會ヲ開クヲ得ヘシ
監事集會ヨリ請求スルカ又ハ株主總會員タル者五十名以上ヨリ請求アルトキハ何時ニテモ臨時株主總會ヲ開クヲ得ヘシ

第七十八條

株主總會ヲ開ク時ハ定式臨時ヲ問ハス三十日前ニ招集狀ヲ各會員ヘ送致シ且新聞紙ヲ以テ其旨ヲ廣告スヘシ

若シ銀行總會ニ於テ緊要ナル事件ト認メ至急ニ株主總會ヲ開カント欲スルトキハ此招集期限ヲ十五日迄ニ短縮スルヲ得ヘシ

第七十九條

右招集狀ニハ其討議ニ付スベキ事件ヲ明示スヘシ

第八十條

總裁副總裁理事監事ヲ除キ常日出席會員中所有株券ノ最モ多數ナル者二名ヲ選ミ以テ總會ノ幹事トナスヘシ但常選ノ者之ヲ辭スル時ハ順次多數ノ者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

幹事ハ總裁副總裁理事ト共ニ當日會場ノ議事録ニ署名捺印スヘシ

第八十一條

株主總會ニ於テハ招集狀ニ記載セシ事件ヲ討議スヘシ但其議案ハ重役集會又ハ監事集會ヨリ回付スルモノトス

若シ官員十名以上ノ連署ヲ以テ會期十日前ニ重役集會ニ他ノ議案ヲ差出シタルトキハ之ヲ當日ノ議題

ト爲スヲ得ベシ

株主總會ノ議事ハ議題外ノ事件竝人ノ毀譽褒貶ニ涉ルヲ許サス

招集狀ニ記載セサル事件ト雖モ重役集會ヨリ臨時回付シタル議案ニシテ會場ニ於テ緊要ナリト認ムルモノハ當日ノ討議ニ付スルヲ得

第八十二條

議事ハ投票權利ノ多數ヲ以テ決スヘシ若シ可否相半スルトキハ議長之ヲ決スヘシ(明治二十一年十一月廿一日改正)

第八十三條

第四十五條ニ記載スル理事ノ候補ヲ選舉スルニ投票過半数ヲ得ルモノナキトキハ其最モ多數ナルモノヨリ右候補ニ二倍スル人員ヲ定メ之ニ就テ再ヒ投票ヲ爲スヘシ若シ投票同數ナルトキハ年長ヲ以テ定ムヘシ

監事選舉ニ於テ投票過半数ヲ得ルモノナキトキモ亦前項ノ例ニ準ス

第八十四條

任期中理事監事ヲ罷ムルトキハ株主總會出席員四分ノ三以上ニシテ總株半数以上ヲ所有スル者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ決定スルヲ得ス但理事ヲ罷ムルトキハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第八章 總則

第八十五條

此定款ヲ改正スル時ハ特別ニ株主總會ヲ開キ之ヲ決議スルモノトス但其改正スヘキ條件ハ之ヲ會員招集狀ニ記載スヘシ

右株主總會ハ出席員所有ノ株數九萬箇ニ滿ツルニ非サレハ其事件ヲ決議スルヲ得ス(明治二十八年八月十七日改正)

此總會ノ議事ハ出席員投票箇數三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ決議スルヲ得ス
此總會ニ於テ決議シタル事件ハ政府ノ許可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス

第八十六條

政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ牴觸スル事件ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル
事件ハ之ヲ制止スヘシ

第八十七條

政府ノ都合ニ由リ要用ナリトスルトキハ何時ニテモ此定款ヲ改正増削スルノ權アルヘシ
追加(二十一年十二月二十一日)

第八十八條

兌換銀行券條例第二條第一項ニ據リ發行準備ニ充ツル地金貨ハ舊金銀貨ヲ除クノ外ハ造幣相當以上ノ
品位ヲ有スルモノニ限り同第二項保證ニ充ツル證券ハ各種政府借入金證券政府ノ保證ニ係ル證券ニ限
リ商業手形ハ正式ノ爲換手形約束手形ニ限ルヘシ

第八十九條

兌換銀行券條例第二條第一項地金銀ノ準備價格同第二項公債證書大藏省券其他ノ保證價格ハ重役集會
ニ於テ決議シ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第九十條

兌換銀行券條例第二條第三項ニ據リ兌換銀行券ノ増發ヲ爲サントスルトキハ其時ノ商況ヲ具申シテ大
藏大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第九十一條

兌換銀行券發行高交換高及準備ノ増減ニ關スル出納日表並每週平均高表ヲ製シ出納日表ハ翌日午前十
時マテ每週平均高表ハ次週水曜日マテニ大藏大臣ヘ進達シ而シテ每週平均高表ハ同日刊行ノ官報ヘ掲
載スヘシ

右ハ明治十五年六月二十七日布告日本銀行條例ノ旨趣ニ基キ其定款ヲ制定シ私共茲ニ署名捺印俟也

明治十五年十月四日

日本銀行創立委員

大藏權大書記官 加藤 濟印

大藏大書記官 富田鐵之助印

大藏少 輔 吉原 重俊印

大藏卿松方正義殿

右日本銀行定款ノ條々ハ日本銀行條例ノ旨趣ニ遵據シタルコト明確ナルニ付茲ニ許可スル者也

明治十五年十月六日

大藏卿 松方正義印

大藏省印

●日本銀行納稅ニ關スル法律(法律第五十六號明治三十三年三月九日公布)

日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行
高ニ對シ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割分ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ
一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ
其ノ納稅義務ヲ免除ス

本法納税ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ニ關係ナキモノトス
納税期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半季分ヲ翌年二月二十八日限リ納ムルモ
ノトス

横濱正金銀行

◎横濱正金銀行條例 (明治二十年七月勅令第二十九號)

- 第一條 横濱正金銀行ハ有限责任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止ルモノトス
- 第二條 横濱正金銀行ハ本店ヲ横濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設
置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコト得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外
國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受
クヘシ
- 第三條 横濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主
總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得
- 第四條 横濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分テ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議
ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得
- 第五條 横濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス
- 第六條 横濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得
- 第七條 横濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 - 第一 外國ノ爲換及荷爲換
 - 第二 内國ノ爲換及荷爲換
 - 第三 貸付

第四 諸預金及保護預

第五 爲換手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證券地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得

第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス

第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クルコトヲ得

ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ

他ニ相當ノ抵當ナク若シクハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニアラス

第十三條 第十一條第二項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受シトキハ必ス十箇月

以內ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其實質ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコ

トヲ得

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金

ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十

株以上ヲ所有スル株主中ニ付キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラル者モ亦同シ(明治二十二年勅令第十號ヲ以テ改正)

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考ス

ルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼テシメ又ハ橫濱正金銀行頭取ヲシテ日本

銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之

ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ

又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 毎季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 毎季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ

對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ

背戻シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコト

ヲ得又株主總會ノ決議ニヨリ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總會二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其決議權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アリタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(明治二十二年二月勅令第十號ヲ以テ改正)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ(同上)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但橫文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取々締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

◎橫濱正金銀行定款

銀行名稱ノ事

第一條 當銀行ハ橫濱正金銀行ト稱スヘシ

但英語ヲ用ル時ハ「The Yokohama Specie Bank Limited」ト稱スヘシ

營業年限ノ事

第二條 當銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス尤モ滿期ニ至リ株主總會ノ決議ヲ經大藏大臣ノ許可ヲ得ルニ於テハ更ニ年期ヲ定メテ延期スルヲ得ヘシ

株主責任ノ事

第三條 當銀行ハ有限責任ニシテ當銀行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ其株金ニ止マルモノトス

但新株式ヲ引受ケ末々全額ノ拂込ヲナサ、ル者ハ尙ホ其殘額ニ對シ義務ヲ負擔スルモノトス

資本金並株式ノ事

第四條 當銀行ノ資本金ハ一千二百萬圓ニシテ一百圓ヲ以テ一株トシ總計十二萬株トス

但本條資本金ノ内明治二十年三月三十日株主臨時總會ノ決議ニ依リ増加シタル三百萬圓ハ明治二十九年十月中ニ其拂込ヲ了シ明治廿九年三月十日株主臨時總會ノ決議ニ依リ新ニ増加シタル六百萬圓ハ其四分ノ一即チ一百五十萬圓ヲ明治三十年一月ニ拂込ミ更ニ其ノ四分ノ一即チ一百五十萬圓ヲ同年十月ニ拂込ミ其殘額ハ追テ必要アルトキ株主總會ノ決議ヲ以テ其拂込期日ヲ定ムルモノトス(二十九年三月許可)

第五條 事業ノ伸縮ニ依リ資本金ノ増加又ハ減少ヲ要スルトキハ株主總會ノ決議ヲ經其方法ヲ大藏大臣ニ具狀シ許可ヲ得タル上株主所有ノ株數ニ割合ヒ之ヲ増減スルモノトス但其増加ノ節ハ事宜ニヨリ新タニ株主ヲ募ルコトアルヘシ

第六條 當銀行ノ株式ハ日本人ハ何人タリトモ之レヲ所有シ其株主トナルヲ得

第七條 當銀行ノ株式ハ二名以上ニテ一箇ヲ所有スルモ其内一名ヲ以テ株主トナスヘシ
第八條 會社商社又ハ組合等ニ於テ當銀行ノ株式ヲ所有スル時ハ其社員一名ヲ以テ代表人ト定ムヘシ
而シテ其代表人ノ所爲又ハ缺爲ハ其會社商社又ハ組合ニ對シテ充分ノ効力ヲ有スルモノトス

第九條 當銀行ノ株式ハ記名券タルヘシ

第十條 當銀行ノ株券ニハ其金額、發行ノ年月日、番號、銀行ノ名稱及株主ノ姓名ヲ記シ銀行ノ印章
ヲ捺シ頭取支配人之ニ記名調印スヘシ

第十一條 當銀行ハ株式帳ヲ備ヘ置キ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 株主ノ姓名、住所、族籍、職業

第二 各株主所有ノ株式、番號及ヒ箇數

第三 各株主所有株式ノ引受ケ又ハ賣買讓與ノ年月日

第十二條 當銀行ノ株式ヲ賣買讓與スルニハ其株券ノ裏面ヘ賣渡人又ハ讓渡人並ニ買受人又ハ讓受人
ニ於テ記名調印シ之ニ賣買又ハ讓與證書ヲ添ヘ當銀行ヘ持參シ認可ヲ受クヘシ尤モ相續人ニ於テ死
者ヨリ相續シタルモノハ其相續人ノミ株券裏面ヘ記名調印シ之ニ二名以上ノ親戚ニ於テ其事實ヲ證
明シタル保證狀並ニ戸籍簿ノ寫ヲ添ヘ當銀行ヘ持參シ認可ヲ受クヘシ若シ親戚ナキトキハ其事實ヲ
知ル者二名以上ノ證明シタル保證狀ヲ添ユヘシ

但本條株券書換ヲ請求スルモノハ當銀行ニ於テ定ムル所ノ手数料ヲ支拂フヘシ

第十三條 當銀行ニ於テ賣買讓與ヲ認可シタルトキハ頭取支配人ハ其株券ノ裏面ニ記名調印シ同時ニ
其旨ヲ株式帳ニ記入スヘシ

第十四條 前第十二條第十三條ノ手續ヲ經サルモノハ假令ヒ賣買讓與ヲナスモ當銀行ニ對シテハ其効

力ヲ有セサルモノトス

第十五條 半季決算ノ際又ハ資本金ヲ増減スル等ノ場合ニ於テハ取締役ノ見込ヲ以テ一回十五日以內
ヲ限リ株券ノ書替ヲ停止スルヲ得ヘシ

但其時々新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第十六條 若シ株主ニ於テ株券ヲ紛失シタル時ハ其事實ヲ書面ニ記シ當銀行ノ満足スル二人以上ノ確
實ナル保證人ヲ立新株券ヲ請求スルヲ得此場合ニ於テ當銀行ハ其旨ヲ一週間新聞紙ニ廣告シ三箇月
ヲ經テ尙ホ發見セサルトキハ新株券ヲ交付スヘシ

本支店並ニ出張所ノ事

第十七條 當銀行ノ本店ハ神奈川縣下橫濱ニ設置シ支店ハ兵庫縣下神戸並ニ英國龍動其他今後株主總
會ニ於テ議定スル場所ニ設置スヘシ

第十八條 當銀行ノ出張所ハ米國紐育、桑港、佛國里昂其他今後取締役ノ撰定スル場所ニ設置スヘシ
第十九條 當銀行ノ支店又ハ出張所ハ一度開設スルモ支店ハ株主總會ノ決議ニ依リ出張所ハ取締役ノ
決議ヲ以テ其場所ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ

頭取々締役ノ事

第二十條 當銀行ノ取締役ハ五人以上八人以下トシ株主定式總會ニ於テ五十株以上ヲ所有スル株主中
ヨリ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ得テ就任スヘシ而シテ其在職期限ハ各一年トシ滿期ニ至リ復選セラレ
ルヲ得ヘシ且ツ取締役ハ在職中身元保證ノ爲メ各其所有ノ株券五十枚ヲ當銀行ヘ預ケ置ヘシ
但其預リタル株券ハ本人退職後六箇月ヲ經サレハ返付スヘカラス

第二十一條 取締役ハ其在職期日ヲ經過スルト雖トモ新取締役ノ就任スル迄其職務ヲ繼續スルモノト

- 第二十二條 當銀行株式五十株以上ヲ所有スル株主ト雖トモ身代限リノ處分ヲ受ケ未タ負債ノ辨償ヲ終ラサルモノハ取締役ニ選舉セラルルヲ得ス
- 第二十三條 若シ取締役ニ於テ其在職期限中左ノ場合ノ内其一ニ遭遇シタルモノアル時ハ除名セラレタルモノトス其場合ニ在テハ取締役ニ於テ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ假ニ其補缺員ヲ選定シ大藏大臣ノ認許ヲ得テ就任スヘシ尤モ其補缺取締役ノ在職期限ハ前取締役ノ殘期ヲ繼續シ其職權並ニ責任ハ他ノ取締役ト同一タルヘシ
 - 第一 辭職シタル時
 - 第二 狂人トナリタル時
 - 第三 身代限リノ申渡ヲ受ケタル時
 - 第四 取締役會議ノ承諾ヲ得ス三箇月以上一度モ取締役會議ニ出席セサル時
- 第二十四條 取締役ハ在職期限中ト雖トモ第四十四條ノ所爲アリタルトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ退職セシムルヲ得ヘシ
- 第二十五條 取締役ハ横濱正金銀行條例、定款、内規及株主總會ノ決議ニ從ヒ當銀行營業ノ全體ヲ管理シ且ツ其會議ニ於テ左ノ諸件ヲ決定スルノ權アリ
 - 第一 頭取副頭取ヲ互選スル事
 - 第二 支配人以下諸役員並ニ雇人ヲ任免又ハ黜陟シ其職務ヲ課シ又ハ内外國ニ派遣シ又其身元保證ヲ定ムル事
 - 第三 諸役員並ニ雇人ノ給料、手當、日當、旅費等ヲ定ムル事

- 第四 當銀行定款第八十九條並ニ第九十一條ニ從ヒ每半季ノ利益分配並ニ積立金ノ割合ヲ定メ株主總會ノ會議ニ付スル事
- 第五 當銀行定款第九十三條ニ定メタル役員賞與金ノ割合ヲ定ムル事
- 第六 後任取締役選舉方法ヲ定メ並ニ若シ該選舉ニ付異議ノ起リタルトキ其裁決人ヲ定ムル事
- 第七 本支店並ニ出張所ノ内規及其他ノ諸規程ヲ定ムル事
- 第八 内外國ニ出張所ヲ設置シ又之ヲ廢止スル事
- 第九 株主總會ヲ召集スル事
- 第十 當銀行ノ財産又ハ當銀行ニ於テ利害ノ關係ヲ有スル財産ニ海上又ハ火災保險ヲ付スル事
- 第十一 當銀行ニ關スル爭論ヲ仲裁ニ任セ其裁定ニ從フ事
- 第十二 當銀行營業上必要ナル地所、家屋其他ノ物件ヲ買入レ、借リ入レ又ハ家屋、物件ヲ造築修繕シ若シ不用ニナリタル時之ヲ賣リ、讓リ又ハ取崩ス事
- 第十三 當銀行ノ事業ニ關スル貸借其他ノ諸契約ヲ締結スル事
- 第十四 内外國ノ銀行、會社又ハ一個人ト「コルレスボンデンス」又ハ其他營業ニ關スル諸契約ヲ締結スル事
- 第十五 當銀行ニ對スル負債並ニ其他ノ義務ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減省シ又ハ之ヲ免除スルコト
- 第十六 當銀行ノ事件ニ付原告又ハ被告トナリ公事訴訟ヲナシ又ハ之ヲ廢止シ又ハ示談契約ヲナスコト
- 第十七 當銀行ノ資本金並其他受取リタル金員ヲ公債證書、地金銀其他確實ナルモノニ使用スル事

- 第十八 當銀行ノ負債並ニ其他ノ請求ニ對シ支拂ヲナス事
- 第十九 當銀行ノ印章ヲ使用シ又之ヲ使用スル權利ヲ頭取支配人又ハ其他ノ役員ニ與フル事
- 第二十六條 頭取又ハ副頭取ノ職權ニ屬スル事件ト雖トモ若シ頭取又ハ副頭取ニ於テ之ヲ爲ササルカ又ハ法律上差開アル時ハ取締役ニ於テ之ヲ行フ事ヲ得ヘシ
- 第二十七條 前第二十五條第二十六條ニ記載アル事件ノ外ト雖モ橫濱正金銀行條例並ニ定款ニ別段禁制ナキ當銀行ノ營業ニ關スル事件ハ總テ取締役ニ於テ當銀行ノ爲メ最モ利益ナリト認ムル所ニ從ヒ適宜處分ヲスルヲ得ヘシ
- 第二十八條 取締役ハ定款第九十三條ニ定ムル所ノ賞與金ヲ受クルヲ得其各自ノ受クヘキ割合ハ頭取之ヲ定ムヘシ
- 第二十九條 當銀行資本金ノ半額以上ヲ損失シタル時ハ取締役ハ直ニ株主臨時總會ヲ召集シテ其報告ヲナスヘシ
- 第三十條 取締役ハ取締役會議ノ手續ヲ定メ取締役決議録ヲ保存スヘシ
- 第三十一條 取締役ハ毎週一度ノ定會並ニ其他臨時ノ集會ヲナシ銀行ノ要件ヲ議定スヘシ其決議ハ之ヲ取締役決議録ヘ登記シ會長之ニ記名調印スヘシ
- 但取締役ノ集會ニハ頭取之カ會長トナルヘシ若シ頭取並ニ副頭取トモ缺席スル時ハ取締役中ヨリ互選スヘシ
- 第三十二條 取締役半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クヲ得ス
- 第三十三條 取締役會議ハ他數ヲ以テ之ヲ決スヘシ若シ其數相半スル時ハ會長之ヲ決スヘシ
- 第三十四條 取締役會議ニ於テ事ヲ議スルニ當リ若シ其事取締役一身上ニ涉ル時ハ該取締役ハ其議事ヲ得

- ニ於テ議決權ヲ有セサル者トス
- 第三十五條 取締役ハ其同役中ヨリ委員ヲ選定シテ特別事務ヲ委託シ又之ヲ解除スルコトヲ得其委員ニハ取締役ニ於テ定ムル所ノ手當ヲ給スヘシ
- 第三十六條 取締役ノ内一名事務ノ都合ニ由リ大藏大臣ノ許可ヲ得タル上支配人ノ職務ヲ兼スルコトヲ得
- 第三十七條 當銀行ノ頭取副頭取ハ各一人ニシテ取締役ニ於テ同役中ヨリ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ其在職期限ハ各一箇年トシ復選セラルルヲ得ヘシ又在職期限中ト雖トモ取締役ヲ辭シ或ハ除名セラルル時ハ退職セシモノトス又何時ニテモ取締役三分ノ二以上ノ決議ニ依リ大藏大臣ヘ稟議ノ上退職セシムルヲ得ヘク又大藏大臣ニ於テ必要ト認メラルル時ハ退職ヲ命セラルルコトアルヘシ但シ副頭取ハ銀行事務ノ都合ニ由リ取締役ニ於テ必要ト認メサル時ハ之ヲ置カサルコトアルヘシ
- 第三十八條 橫濱正金銀行條例第十六條ニ從ヒ大藏大臣ノ命令ニヨリ日本銀行副總裁ヲシテ當銀行ノ頭取ヲ兼テシメラルル時ハ在職年限並ニ其進退ハ大藏大臣ノ定メラルル所ニ據ルヘシ
- 第三十九條 頭取ハ橫濱正金銀行條例、定款、內規及ヒ取締役會議又ハ株主總會ノ決議ニ從ヒ當銀行營業上一切ノ事務ヲ處分シ且ツ左ノ諸件ヲ行フ權アリ
- 第一 取締役會議ニ於テハ取締役タル議決權ヲ有シ又其會長トナル事
- 第二 株主總會ニ於テ會長トナル事
- 第三 頭取ノ名義ヲ以テ取締役會議又ハ株主總會ニ於テ議決シタル事件ヲ執行スル事
- 第四 頭取ノ名義ヲ以テ訴訟ヲナシ約定ヲ締結シ委任狀ヲ交付シ願伺届ヲナシ其他各種ノ證書、手形、文書ニ記名調印シ之ニ裏書シ又ハ之レヲ承諾スル事

- 第五 他所ニ代理人ヲ派出シ又ハ之ヲ選定スルトキ前第四項ニ記載アル權利ヲ其代理人ニ委任スル事
- 第六 新ニ發行スル株券又ハ其代金ノ領收證ニ記名調印シ並ニ其賣買讓與ヲ承認スル爲メ裏書ヲナス事
- 第七 取締役ノ議決ヲ要スル事件ト雖トモ至急ヲ要シ取締役集會ヲ召集スル暇ナキ時ハ前第二十五條第十項第十一項第十二項第十三項第十四項第十八項ノ事件ニ限り頭取ノ見込ヲ以テ之ヲ決行スル事
但此場合ニ於テハ直ニ其次第ヲ取締役ニ報告スヘシ
- 第八 疾病若クハ旅行等ノ節ハ(副頭取ナキトキ)取締役中ノ一名ニ其職務ノ代理ヲ委任スル事
- 第九 取締役ノ臨時集會ヲ召集スル事
但召集狀ハ集會ノ前日迄ニ各取締役ヘ送達スヘシ
- 第十 支配人以下ノ役員ヲ指揮シテ其職務ヲ行ハシムル事
- 第四十條 頭取ハ其執行シタル事務並ニ其他銀行ノ營業ニ關スル事項ノ要領ヲ取締役集會ニ於テ報告シ併セテ其意見ヲ陳述スヘシ
- 第四十一條 副頭取ノ職務ハ頭取事故アル時之ヲ代理スルニ止リ其餘ハ他ノ取締役ト異ナルコトナシ
- 第四十二條 頭取副頭取ハ取締役ニ於テ定ムル所ノ月給並ニ賞與金ヲ受ケルヲ得
- 第四十三條 頭取ハ大藏大臣ノ命令ニ依リ横濱正金銀行條例第十六條ニ從ヒ日本銀行ノ理事ヲ兼ヌルノ外他ノ銀行會社又ハ組合商社ノ役員トナリ又ハ自ラ商業ヲ營ムヲ得ス
但特ニ大藏大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス

- 第四十四條 頭取取締役ニ於テ横濱正金銀行條例 定款、内規、又ハ株主總會ノ決議ニ違背シ又ハ故意ヲ以テ常銀行ニ損失ヲ蒙ラシメタル時ハ其損失ハ本人ニ於テ辨償スヘシ若シ又頭取ニ於テ取締役ノ決議ニ違背シ損失ヲ來タシタル時ハ頭取其責ニ任スヘシ
但横濱正金銀行條例第二十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキト雖トモ尚ホ本條ノ辨償ヲナスヘシ
- 第四十五條 頭取取締役ニ於テ善意ヲ以テ正當ニ取扱ヒタル事件ヨリ生シタル損失ハ之ヲ辨償スルノ責ニ任セサルヘシ
株主總會ノ事
- 第四十六條 株主總會ハ株主ノ全體ヲ表スルモノトス而シテ横濱正金銀行條例並ニ定款ニヨリ總會ニ於テ議決シタル事件ハ缺席者又ハ異議者ト雖モ服從スヘキモノトス
- 第四十七條 株主總會ヲ區別シテ二種トス一ヲ定式總會ト稱シ一ヲ臨時總會ト稱ス定式總會ハ毎年三月九月ノ兩度取締役ノ指定スル場所日時ニ於テ開キ臨時總會ハ取締役ニ於テ必要ト思考スル時又ハ十名以上ニシテ常銀行總株式十分ノ一ニ下ラサル株式ヲ所有スル株主ヨリ請求シタル時取締役ニ於テ其場所日時ヲ定メテ之ヲ開クヘシ
但凡テ總會ノ場所日時ハ一度之ヲ定メ株主ニ通知スルト雖モ若シ不得止事故ノ起リタル時ハ取締役ニ於テ更ニ場所日時ヲ定メテ之ヲ變更スルヲ得尤モ此場合ニ於テハ其既ニ定メタル會日前ニ其旨ヲ株主ヘ通知スヘシ
- 第四十八條 人員十名以上ニシテ其所有ノ株數常銀行總株式ノ十分ノ一ニ下ラサル株主ヨリ書面ヲ以テ臨時總會ヲ請求シタル場合ニ於テハ取締役ハ直ニ臨時總會ノ手續ヲ爲スヘシ若シ取締役ニ於テ右

請求書ヲ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ其手續ヲナササル時ハ請求人等ハ自ラ他ノ株主ヲ召集シテ臨時總會ヲ開クヲ得ヘシ但其臨時總會ノ決議ハ其總會ノ會長ニ於テ再ヒ臨時總會ヲ召集シ第二ノ臨時總會ニ於テ決議ヲ以テ確認スルニ非サレハ効力ナキモノトス

第四十九條 前第四十八條ノ場合ニ於テ株主ヨリ臨時總會ヲ請求スルニハ其總會ヲ要スル事件並ニ目的ヲ詳記シタル請求書ヲ取締役ニ宛テ常銀行ニ差出ヘシ

第五十條 定式總會ニ於テ爲スヘキ事項ハ左ノ如シ

第一 前半期間ニ係ル常銀行營業ノ景況、計算其他該半季間ニ起リ又ハ爲シタル主要ナル事項ヲ取締役ヨリ報告スル事

第二 利益金分配方及積立金割合ヲ議決スル事

第三 取締役並ニ調査員ヲ選舉スル事尤モ取締役通常選舉ハ毎年三月ノ定式總會ニ限ルヘシ

第五十一條 臨時總會ニ於テハ左ノ事項ヲ決議スルモノトス

第一 資本金増減ノ事

第二 任意ノ解散又ハ營業年限延期ノ事

第三 定款變更改正ノ事

第四 支店設置又ハ廢止ノ事

第五 大藏大臣ヨリ取締役ノ改選ヲ命セラレタル時又ハ頭取取締役ニ於テ定款第四十四條ノ所爲アリテ常銀行ニ損失ヲ來シタル時之ヲ改選スル事

第六 右五項ノ外常銀行ノ興廢ニ關スル重要ナル事

第五十二條 凡テ總會ヲ召集スルニハ少クトモ其總會ノ日ヨリ十五日前ニ其通知書ヲ株主ヘ發送スヘシ

シ然ル上ハ假令ヒ株主中之ヲ受取ラサルモノアリ又ハ之ヲ受取ルモ出席スル餘日ナクシテ出席セザルモノアリト雖モ其總會ノ決議ハ有効タルヘシ

第五十三條 凡テ總會ノ通知書ニハ其場所日時又其臨時總會ニ係ルモノハ其事項ヲ記載シ常銀行ノ株式帳ニ記載アル株主(其會日ヨリ六十日以前ニ株主トナリタルモノニ限ル)ノ住所ヘ宛發送スヘシ但シ其發送方ハ郵便ヲ用井ルトモ又其他ノ方法ニヨルトモ取締役ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第五十四條 前條ノ通知書ニハ頭取又ハ其他取締役ノ選定スルモノニ於テ記名スヘシ若シ其通知書ニシテ定款第四十八條ニ據リ株主ニ於テ召集スル臨時總會ノ通知ナルトキハ其總會ヲ召集スル株主ニ於テ記名スヘシ

第五十五條 臨時總會並ニ其延會ニ於テハ其總會ノ爲メ豫メ株主ヘ通知シタル事件ノ外他ノ事項ヲ議スルヲ得ス

第五十六條 凡テ總會ニ於テハ株主本人自ラ出席シ又ハ代人ヲシテ出席セシムルヲ得ヘシ尤モ其代人ハ株主中ノモノニシテ其委任狀ヲ有スル者タルヘシ

第五十七條 當銀行ノ役員雇人及ヒ自身又ハ他人ノ負債ノ爲メ其所有ノ株券ヲ抵當トシテ當銀行ニ預ケ置ク株主ハ他人ノ代人トシテ總會ニ出席スルヲ得ス

第五十八條 凡テ株主總會(第六十四條ノ臨時總會ヲ除)ハ總株主(本人並ニ代人)五分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主ノ出席スルニ非サレハ議事ヲ開クヲ得ス

但第五十條第一項第二項ノ件ヲ報告シ又ハ之ヲ議決スルトキハ此限ニアラス

第五十九條 凡テ總會ニ於テ指定ノ時刻ヨリ一時間ヲ過キ前第五十八條又ハ第六十四條定限ノ人員出席セサル時ハ株主ニ於テ召集シタル總會ハ解散シ其他ノ總會ハ取締役ニ於テ更ニ場所日時ヲ定メテ

召集スルヲ得ス

第六十條 凡テ總會ニ於テ指定ノ時刻ヨリ一時間ヲ過キ前第五十八條又ハ第六十四條定限ノ人員出席セサル時ハ株主ニ於テ召集シタル總會ハ解散シ其他ノ總會ハ取締役ニ於テ更ニ場所日時ヲ定メテ

召集スルヲ得ス

第六十一條 凡テ總會ニ於テ指定ノ時刻ヨリ一時間ヲ過キ前第五十八條又ハ第六十四條定限ノ人員出席セサル時ハ株主ニ於テ召集シタル總會ハ解散シ其他ノ總會ハ取締役ニ於テ更ニ場所日時ヲ定メテ

召集スルヲ得ス

第六十二條 凡テ總會ニ於テ指定ノ時刻ヨリ一時間ヲ過キ前第五十八條又ハ第六十四條定限ノ人員出席セサル時ハ株主ニ於テ召集シタル總會ハ解散シ其他ノ總會ハ取締役ニ於テ更ニ場所日時ヲ定メテ

召集スルヲ得ス

延會スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ更ニ取締役ヨリ其延會ノ場所日時ヲ株主ヘ通知スヘシ而シテ其日限ハ遅クモ此會日後三十日以内タルヘシ

第六十條 若シ總會ノ日ニ於テ議事ヲ結了セサルトキハ會長ハ更ニ場所日時ヲ定メテ延會スルヲ得此場合ニ於テハ更ニ株主ヘ通知ヲ發スルニ及ハス

第六十一條 凡テ總會ニ於テハ頭取之レカ會長タルヘシ

第六十二條 總會ノ時刻ヨリ十五分時間ヲ過キ定限ノ株主出席シタルニ頭取副頭取トモ出席セサルカ又ハ出席スルトモ會長タル事ヲ辭スル時ハ臨會ノ株主ニ於テ取締役中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ若シ又頭取副頭取並ニ取締役トモ出席セサルカ又ハ會長タルコトヲ辭シタル場合ニ於テハ臨會ノ株主中ヨリ會長ヲ互選スヘシ

第六十三條 凡テ總會ノ議事ハ第六十四條ノ場合ヲ除キ出席員ノ議決權過半數ヲ以テ之ヲ決スヘシ若シ其數相半スルトキハ會長之ヲ決スヘシ而シテ總會ノ議決權ハ株主總會決議録ヘ登記シ會長之レニ記名調印スヘシ

第六十四條 臨時總會ニ於テ第五十一條第一項第二項ニ記載アル事項ヲ議スルニハ總株主二分ノ一(本人並ニ代人)以上ニシテ總株金二分一以上ニ當ル株主出席スルニ非レハ議事ヲ開クヲ得ス又其出席員ノ議決權三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非レハ決議ヲ爲スヲ得ス

議決權ノ事

第六十五條 凡テ總會ノ日ヨリ六十日以前ニ當銀行ノ株主トナリタル者ハ其所有ノ株數十株迄ハ一株毎ニ一箇ノ議決權ヲ有シ十一株以上百株迄ハ五株毎ニ一箇ヲ増加シ百一株以上八十株毎ニ一箇ヲ増

加スヘシ

但新株式ヲ引受ケタル者モ從來ノ株主ト同一ノ議決權ヲ有スヘシ

第六十六條 凡テ總會ノ當日ヨリ六十日以前ニ株主トナリタル者ニ非レハ其總會ニ出席スルヲ得ス又議決權ヲ有セサルモノトス

第六十七條 株主本人幼少又ハ狂癡等ニテ自ラ議決權ヲ行フ能ハサルトキハ其後見人ニ於テ其權利ヲ行フヲ得ヘシ

第六十八條 會社商社又ハ組合等ニテ所有スル株式ニ對スル議決權ハ當銀行株式帳ニ記載アル代表人ニ屬スルモノトス

第六十九條 凡テ總會ニ於テ事ヲ決スルニハ投票法ヲ用ユヘシ然レトモ出席員ニ於テ異議ナキ時ハ會長ハ起立法又ハ舉手法ヲ用ユヘシ

營業ノ事

第七十條 當銀行ハ内國及ヒ外國ニ於テ左ノ諸件其他銀行普通ノ事業ヲ營ムモノトス

- 第一 外國ノ爲換及荷爲換
- 第二 内國ノ爲換及荷爲換
- 第三 貸付金
- 第四 諸預リ金及保護預
- 第五 爲換手形約束手形其他流通證券ノ割引又ハ賣買
- 第六 貨幣交換
- 第七 爲換手形約束手形其他流通證券ノ代金取立

第七十一條 當銀行ハ營業ノ都合ニヨリ公債證券地金銀外國貨幣等ヲ買入レ又之ヲ賣拂フヲ得ヘシ
第七十二條 當銀行ハ政府ノ任命ヲ受ケ内國又ハ外國ニ於テ官金、公債、御用爲換等ノ取扱ヲナシ又ハ政府ノ財政ニ關スル御用ヲ勤ムルヲ得ヘシ

第七十三條 當銀行ハ前第七十條第七十一條第七十二條ノ外他ノ事業ヲ營ムヘカラス

第七十四條 當銀行ニ於テ貸付スヘキ金額ハ一人又ハ一箇ノ商社組合又ハ會社ニ付當銀行資本金ノ十分ノ一ヲ越ユヘカラス

第七十五條 無抵當貸及ヒ不動産抵當貸ハ當銀行資本金及ヒ積立金總額ニ對シ左ノ割合ヲ超過スヘカラス

第一 無抵當貸十分ノ一
但爲換手形ハ此限ニアラス

第二 不動産抵當貸二十分ノ一
第七十六條 當銀行ハ左ニ掲クル場合ノ外動産（地金銀公債證券、爲換手形約束手形送金手形引出小切手其他流通證券ハ含有セス）不動産、會社ノ株式及ヒ其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クヘカラス、

第一 營業ノ爲メ地所、家屋其他物件ノ必要ナル時
第二 貸金返済ノ爲メ負債者又ハ保證人又ハ抵當貸主ヨリ其地所、家屋、株式又ハ其他ノ物件ヲ引渡シ又ハ賣却シタル時

第三 貸付金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付セラレタル時

第七十七條 當銀行ノ株券ハ之ヲ抵當ニ取り又ハ買戻スヘカラス但負債者ニ於テ其辨償ヲ怠タリ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニアラス

第七十八條 前第七十六條第二項第三項第七十七條ノ場合ニ於テ動産、不動産、株式又ハ其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受ケタルトキハ其之ヲ買取り又ハ引受ケタル日ヨリ十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ然レトモ若シ買取り人ナキカ又ハ買取り人アルモ取締役ニ於テ其代價ヲ不相當ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ延期スルヲ得ヘシ

第七十九條 官廳ヘ對スル願、伺、届及ヒ一般ノ約定書、保證狀、委任狀、報告書、訴訟書類其他重要ノ文書ニハ本店ニ於テハ頭取支店ニ於テハ其支配人出張所ニ於テハ其主任記名調印ノ上銀行ノ印章ヲ押捺スヘシ

但シ若シ連署ヲ要スル時ハ本店ニ於テハ取締役又ハ支配人、支店出張所ニ於テハ其權利ヲ附與サレタルモノ之レニ連署スヘシ

第八十條 爲換手形、約束手形、小切手及ヒ其他證券ノ記名調印又ハ裏書承諾等ハ本店ニ於テハ頭取又ハ支配人支店ニ於テハ其支配人出張所ニ於テハ其主任之ヲ爲スヘシ

第八十一條 前第七十九條第八十條ノ記名、調印、行印押捺、又ハ裏書、承諾ハ頭取支配人又ハ主任ニ非サルモ特ニ其委任ヲ受ケタルモノ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第八十二條 前第七十九條第八十條ノ書類ニシテ横文ヲ以テ書記セルモノニハ主任者横文ヲ以テ姓名ヲ自署スヘシ又其書類ニ依テハ行印ヲ押捺スルヲ要セサルヘシ

第八十三條 當銀行本店及ヒ内地支店ノ營業時間ハ休日並ニ土曜日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄トシ土曜日ハ午前第九時ヨリ正午十二時迄トス

但不得止事故アリテ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキハ一時本條ノ時間ヲ變更スルヲ得此場合ニ於テハ豫メ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第八十一條 前第七十九條第八十條ノ記名、調印、行印押捺、又ハ裏書、承諾ハ頭取支配人又ハ主任ニ非サルモ特ニ其委任ヲ受ケタルモノ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第八十四條 休日ハ毎日曜日並ニ定式ノ祭日トス

但不得止事故アリテ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキハ尙ホ此他ニ休業スルヲ得此場合ニ於テハ豫メ大藏大臣ノ許可ヲ得且ツ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第八十五條 海外支店出張所ハ其地ノ法律又ハ習慣ニ依リ營業時間並ニ休日ヲ定ムルモノトス

預リ金準備ノ事

第八十六條 權利者ノ請求次第支拂フヘキ諸預リ金額ニ對シ其金高四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ置クヘシ

總勘定並ニ利益金分配ノ事

第八十七條 當銀行ノ總勘定ハ毎年二季ニ之ヲ爲スヘシ一月ヨリ六月迄六箇月間ヲ前季トシ七月ヨリ十二月迄六箇月間ヲ後季トス其前季ノ決算ハ其年九月ノ定式總會ニ於テ之ヲ報告シ其後季ノ決算ハ翌年三月ノ定式總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

但シ本條ハ來ル明治二十一年後半季ヨリ之ヲ實行シ同季ノ決議ハ明治二十二年三月ノ總會ニ於テ報告スルモノトス且又明治二十一年前半季迄ハ從來ノ決算報告期日ニ從フヘシ

第八十八條 每半季ノ總勘定ハ二名ノ調査員ニテ之ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキハ其旨ヲ勘定書ニ附記シテ記名調印スヘシ

但調査員ハ前季ノ株主定式總會ニ於テ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ選舉スヘシ

第八十九條 損益勘定並ニ利益分配ノ方法ハ總益金ヨリ諸仕拂利息給料旅費其他一切ノ經費並ニ臨時ノ損失金滯貸準備金及ヒ所有物消却金ヲ引去リ其殘額ヲ以テ純益トシ又此内ヨリ積立金並ニ役員賞與金ヲ引去リ其殘額ヲ株式ニ對シ配當スルモノトス尤モ配當割合ノ都合ニ依リ後季へ繰越金ヲナス

ヲ得ヘシ

第九十條 滯貸準備金ハ當銀行ニ對スル負債中返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト取締役ニ於テ認ル時ハ其損失ト見積リタル金額ニ對シ積立ツルモノトス尤モ其損失ト見積リタル金額ノ内返還ヲ得ルカ若クハ之ニ對シ確實ナル抵當ヲ受取リタル時ハ其金額ニ對スル準備金ハ該季ノ利益金ニ算入スヘシ

第九十一條 積立金ハ每半季純益金ノ内ヨリ其百分ノ十以上ヲ積立ツルモノトス

積立金ハ滯貸準備金並ニ收益金ヲ以テ損失ヲ償却スルモ尙ホ不足アル時又株主ヘノ配當金減少セシトキ之ヲ補フモノトス

第九十二條 每半季ノ利益配當金ハ其半季決算ノ報告當日當銀行株式帳ニ記載アル株主ヘ配當スルモノトス

第九十三條 役員賞與金ハ純益金ノ百分ノ六トス其割合ハ取締役之ヲ定ムヘシ(二十八年三月改正)

但本條ノ純益金ハ前季繰越金額ヲ控除シタルモノトス(三十年三月改正)

諸帳簿並ニ計算ノ事

第九十四條 當銀行ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ置キ其事業及ヒ資産、負債ノ現狀ヲ明細記入スヘシ

第一 金銀出納帳

第二 日記帳

第三 總勘定元帳

第四 株式勘定元帳

此他營業上必要ノ帳簿ハ適宜取締役ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第九十五條 當銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ計算報告書ヲ呈出スヘシ
通知竝ニ報告ノ事

第九十六條 株主總會ノ通知ハ定式、臨時其會日ヨリ十五日前郵便又ハ其他ノ手續ヲ以テ株式帳ニ記載アル株主ノ住所ニ宛テ發送スヘシ此手續ヲ以テ通知ヲナシタルトキハ縱令ヒ株主中其通知狀ヲ得サル者アリ又後レテ之ヲ得ルモノアルモ正當ニ通知ヲナシタルモノトス其通知ハ若シ本人死亡スルモ財産ノ監理者又ハ相續人ニ對シテ効力アルモノトス

第九十七條 定式總會竝ニ臨時總會ニ於テ取締役又ハ會長ヨリ報告シタル事件竝ニ當日決議ノ件々ハ之ヲ印刷シ其閉會ノ日ヨリ一箇月以内ニ各株主ヘ送付スヘシ

第九十八條 每半季ノ勘定報告ハ官報竝ニ三種以上ノ新聞紙ニ之ヲ廣告スヘシ
印章ノ事

第九十九條 當銀行本店支店竝ニ出張所ノ印章ハ取締役ニ於テ之ヲ定ムルモノトシ又取締役ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ改正スルコトヲ得ルモノトス(二十九年三月許可)

誓詞ノ事

第一百條 當銀行ノ役員雇人ハ左ノ條件ヲ誓書シ之レニ記名調印スヘシ

第一 橫濱正金銀行條例竝ニ定款、內規其他當銀行ニ於テ遵奉スヘキ諸官衙ノ命令ヲ確守シ決シテ違背セサル事

第二 當銀行ノ事務ヲ處分スルニ忠實ヲ以テスル事

第三 當銀行得意先取引ノ模様、身代ノ優劣又ハ當銀行ノ業務ニ關スル事件ハ內規ニヨリ證明スルヲ得ヘキ場合ノ外一切評語又ハ他言セサル事

任意解散ノ事

第一百一條 臨時總會ニ於テ前第六十四條ニ從ヒ株主總會ノ決議ヲ經大藏大臣ノ許可ヲ得ルニ於テハ營業年限中ト雖モ當銀行ヲ解散スルヲ得ヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ三名ヨリ少ナカラス五名ヨリ多カラサル解散處分人ヲ選定シ其制限職制ヲ定メテ之レニ其處分方ヲ委托スヘシ

定款更正加除ノ事

第一百二條 此定款ハ臨時總會ノ決議ヲ經大藏大臣ノ認可ヲ得ルニ於テハ之ヲ改正シ又ハ廢止シ又ハ變更スルヲ得ヘシ

附 則

第一百三條 帝室御所有ノ株式ニ關シテハ此定款第十二條第十六條竝ニ第五十六條ニ拘ハラス總テ大藏大臣ノ命令ニ從フモノトス

第一百四條 大藏大臣ノ認可ヲ受ケ此定款ヲ實施スル日ヨリ從來ノ定款ヲ廢止スヘシ然レトモ該定款ニ從ヒ取扱ヒタル事件竝ニ之レニ因テ生シタル權利義務ハ總テ有効タルヘシ

第一百五條 明治二十年三月三十日臨時總會ニ於テ議決シタル事項ノ內此定款ニ牴觸スルモノハ之ヲ取消シ此定款ノ定ムル處ニ從フモノトス

第一百六條 現任頭取々締役ノ職權竝ニ責任ハ此定款ノ定ムル所ニ從フモノトス又其在職期限ハ次回ノ定式總會ニ於テ更ニ取締役ヲ選舉スル迄繼續スルモノトス

第一百七條 橫濱正金銀行條例及此定款竝ニ大藏大臣ノ達ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘキ事件ハ株主總會又ハ取締役會議ニ於テ議決スルト雖モ大藏大臣ノ許可ヲ得ルニ非レハ之ヲ執行スルヲ得サルモ

ノトス
右第一條ヨリ第百七條ニ至ル條件ハ明治二十年七月三十日株主臨時總會ニ於テ議決シ其證據トシテ臨
會株主一同記名調印スルモノナリ

日本勸業銀行

◎日本勸業銀行法及同法中改正追加 (明治廿九年四月 法律第八二號)

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲メ資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ
其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ
増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認
可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監査役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期

滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得
理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得
監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監查役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ數株ヲ所有スル者ニ限ル
第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ召集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ召集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ召集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法定代理人ハ此限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 (明治卅三年三月九日)
(法律第三十九號消除)

第四章 營業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル効果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超

過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ

不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケントスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ確實ナル銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得(附一年六月法 律第二號改正)

日本勸業銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

勸業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス(明治卅三年三月九日法律第卅九號追加)
第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ二十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(三十二年六月法律第二號改正)

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高ニ應ジ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金
第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認許ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントストキルモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セントストキハ直接ニ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四ノ條規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲サ、ルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附 則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニアラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

◎式株會社日本勸業銀行定款 (明治三十年三月十七日認可)

第一章 總則

第一條 當銀行ハ明治二十九年法律第八十二號日本勸業銀行法ニ依リ設立シ株式會社日本勸業銀行ト稱ス

第二條 當銀行ハ農業工業ノ改良發達ノタメ資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トス

第三條 當銀行ハ本店ヲ東京ニ設置ス

當銀行ハ營業ノ都業ニ依リ各府縣下ノ便宜ノ地ニ支店又ハ代理店ヲ設置スルコトアルヘシ

第四條 當銀行ノ存立期間ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス

第二章 資本金及株式

第五條 當銀行ノ資本金ハ一千萬圓トシ之ヲ五萬株ニ分チ一株ヲ二百圓トス但シ株主ノ請求アルトキハ五株、十株、五十株若ハ百株ヲ合シテ一通ノ株券ヲ作ルコトアルヘシ

第六條 資本金第一回ノ拂込金額ハ總額ノ四分ノ一即チ二百五十萬圓(一株ニ付キ五十圓)トシ設立免許ヲ得タルトキ速ニ之ヲ拂込ムヘキ者トス第二回以後ノ拂込ノ期節及方法ハ當銀行ノ都合ニ依リ總裁之ヲ定ム但シ其拂込金額ハ一回毎ニ一株ニ付キ二十圓ヨリ少カラズ五十圓ヨリ多カラサルモノ

トス

前各項株金拂込期日ノ確定シタルトキハ總裁ハ商法ノ規定ニ依リ拂込ノ催告ヲ爲シ同時ニ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第七條 株主若シ株金ノ拂込ヲ怠リタルトキハ商法ノ規定ニ依リ處分スヘシ但シ遲延利息ハ滯納金ニ對スル年百分ノ七ヲ徵シ違約金ハ滯納金ノ百分ノ三以內ニ於テ隨時總裁ノ定ムル所ニ依リテ之ヲ徵ス

第八條 當銀行ノ株式讓渡ノ場合ニ於テハ其證書ヲ作り之ニ當事者雙方連印シ株券ヲ添ヘテ當銀行ニ差出スヘキモノトス

當銀行ハ當事者雙方ヲシテ株券裏面ニ署名捺印セシメ總裁及主任理事之ニ證印シ帳簿記入ノ手續ヲ了シタル上之ヲ還付スヘシ

第九條 相續又ハ遺贈ニ因リテ當銀行ノ株式ヲ取得シタル者正式ノ證明書ヲ添ヘテ名義書換ヲ請求スルトキハ當銀行ハ前條ノ例ニ依リ書換ヲ爲スモノトス

第十條 當銀行ノ株券災害ニ罹リ滅失シタルトキハ株主ハ其事由並ニ金額番號ヲ詳記シ當銀行ノ満足スル二名以上ノ保證人ヲ立テ當銀行ニ届出テ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケ證據判明ナルトキハ當銀行ハ新株券ヲ交代スヘシ其證據判明ナラサルモノハ總テ紛失ノ例ニ依ル

第十一條 當銀行ノ株券ヲ紛失シ若クハ盜取セラレタル時ハ株主ハ金額番號ヲ詳記シ其旨ヲ當銀行ニ届出テ新株券ノ交付ヲ請求スル事ヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當銀行ハ直ニ官報及新聞紙ニ請求人ノ費用ヲ以テ其旨ヲ公告シ一箇月

ヲ經タル後當銀行ノ満足セル二名以上ノ保證人ヲ立テシメ新株券ヲ交付スヘシ
前項ノ期間内ニ於テ請求人該株券ヲ發見シタルトキハ直ニ當銀行ニ届出ツヘシ當銀行ハ前項ノ例ニ
依リ其旨ヲ公告スルモノトス

第十二條 紛失若クハ盜取ノ届出アリタル株券ニ關シ故障ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ當銀行ハ管轄裁
判所ノ判決ニ依ルニアラサレハ新株券ヲ交付セサルヘシ

第十三條 株券汚染又ハ毀損シタルトキハ株主ハ其事由ヲ詳記シ其株券ヲ添へ當銀行ニ差出シ新株券
ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケ其株券ヲ審査シ真正ナリト認ムルトキハ當銀行ハ新株券ヲ交付スヘシ其真正ナル
コトヲ鑑別シ難キモノハ紛失ノ例ニ依ル

第十四條 當銀行ハ株券名義書換ノ場合ニ於テハ一通ニ付キ五錢、新株券交付ノ場合ニ於テハ二十錢
ノ手数料ヲ徵スヘシ

第十五條 當銀行ハ通常株主總會前一箇月以内株式ノ讓渡ヲ停止ス但シ此場合ニ於テハ豫メ官報及新
聞紙ヲ以テ其旨ヲ公告スヘシ

第三章 重役

第十六條 當銀行ニ總裁、副總裁各々一名理事三名以上五名以下、監査役三名ヲ置ク理事ノ人員ハ株
主總會ニ於テ之ヲ定ム

總裁、副總裁ハ其任期ヲ五箇年トシ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ任命スルモノトス理事
ハ其任期ヲ五箇年トシ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ撰舉シ政府
其中ヨリ之ヲ任命スルモノトス

監査役ハ其任期三箇年トシ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之レヲ撰定スルモノト
ス

總裁、副總裁、理事及監査役ハ任命若クハ撰定ニ先ツ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有ス
ル者ニ限ル

理事又ハ監査役ニ缺員アルトキハ直ニ臨時株主總會ヲ招集シ補缺撰舉ヲ行フヘシ其補缺員ハ前任者
ノ殘任期ヲ繼クモノトス但シ現任者法定ノ最少人員ニ不足セサルトキハ補缺撰舉ハ次ノ株主總會マ
テ延期スルコトヲ得

第十七條 總裁、副總裁ハ其所有ニ係ル當銀行ノ株券各々百株ヲ、理事ハ各々五十株ヲ在任中當銀行
ニ預ケ入ルヘシ其株券ハ封印ノ上之ヲ當銀行ニ保管シ其預リ證書ニハ融通ヲ禁スル旨ヲ明記スヘシ
前項ノ株券ハ本人退職スト雖モ其期ニ屬スル決算報告株主總會ノ承認ヲ得タル後ニアラサレハ之ヲ
受戻スコトヲ得ス

第十八條 總裁ノ職務權限ハ左ノ如シ

- 一 總裁ハ一切ノ事務ニ附キ當銀行ヲ代表ス
- 二 總裁ハ當銀行ノ使用人ヲ進退黜陟ス
- 三 總裁ハ株券、勸業債券其他當銀行ノ權利義務ニ關スル一切ノ文書ヲ署名捺印ス
- 四 總裁ハ日本勸業銀行法其他ノ法律命令、定款及株主總會ノ決議ニ從ヒ當銀行一切ノ務事ヲ執行
ス
- 五 總裁ハ株主總會ヲ招集シ且ツ之カ議長タルヘシ
- 六 總裁ハ貸出規則、抵當物價格鑑定規則、勸業債券規則及内規等ノ諸規則ヲ定ム

第十九條 副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ總裁ノ命ヲ受ケテ當銀行各部局ノ長ト爲ル其分掌業務ハ總裁之ヲ定ム

第二十條 監査役ノ職務權限ハ左ノ如シ

一 總裁及副總裁及理事ノ業務施行カ法律命令定款及株主總會ノ決議ニ適合スルヤ否ヤヲ監視スル事

二 銀行ノタメニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スル事

三 勸業債券ニ捺印シ勸業債券ノ抽籤及銷却ノ際之ニ立會フ事

四 其他商法ニ規定セル職務權限

第二十一條 總裁、副總裁、理事及監査役ノ給料又ハ報酬ハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十二條 當銀行重役及使用人ハ如何ナル場合ニ於テモ當銀行ヨリ借用金ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 株主總會

第二十三條 株主總會ヲ分チテ通常、臨時ノ二種トシ總裁ノ招集ニ依リ之ヲ開ク

第二十四條 通常株主總會ハ毎年二月、八月ノ兩度ニ之ヲ開ク其日時、場所及議事ノ項目ハ少クトモ開會十四日前ニ總裁ヨリ之ヲ株主ニ通知スヘシ

第二十五條 通常株主總會ニ於テハ主トシテ前期ノ諸計算報告及利益金配當案ヲ議決スル者トス

第二十六條 臨時株主總會ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ開ク但シ日時、場所ハ總裁之ヲ定メ議事ノ項目ト共ニ少クトモ開會十四日前ニ各株主ニ通知スヘシ

一 總裁ニ於テ必要ト認ムルトキ
二 監査役ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求シタルトキ

三 總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求シタルトキ

總裁ハ監査役又ハ株主ヨリ請求ヲ受ケタル時ハ十日以内ニ臨時株主總會招集ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 株主ノ議決權ハ十株ニ付一箇トス但シ十一株以上ヲ所有スル株主ニ在リテハ五十株ヲ増ス毎ニ一箇ヲ加フ

第二十八條 株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルヘキ者ハ其法定代理人又ハ議決權ヲ有ス株主タルヲ要ス但シ當銀行ノ重役及使用人ハ如何ナル場合ニ於テモ代理人タルコトヲ得サルモノトス

第二十九條 他人ノ代理ヲ爲ス者ハ五人以上ヲ代理スルコトヲ得ス又其株數ハ總株數ノ十分ノ二以上ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 株主ノ代理人トシテ株主總會ニ出席シ議決權ヲ行ハントスルモノハ委任狀ヲ持參スルヲ要ス

第三十一條 株主ハ株主總會ノ當日會議ヲ開ク前ニ出席名簿ニ署名捺印シ代理人タル者ハ其旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ

第三十二條 株主總會ノ議事ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主（代理人トモ）出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ議決ヲ爲ス但シ定款ノ變更及任意解散ノ議決ニ附キテハ商法ノ規定ニ依ル

議長ハ自己ノ議決權ノ外尙ホ可同數ナル場合ニ於テ之ヲ決スルノ權ヲ有ス

第三十三條 株主總會ニ於テ出席株主其定數ニ滿タサルトキハ商法第五百二十二條ニ規定セル決議ノ方法ニ依ル

第二十四條 株主總會ニ於テ議決シタル事項ハ之ヲ議事録ニ記載シ總裁、副總裁、理事及監査役之ニ署名捺印スヘシ

出席名簿、總裁、副總裁、理事及監查役署名捺印シタル上議事録ニ附綴スヘシ

第五章 營業

第三十五條 當銀行ノ營業ハ左ノ如シ

- 一 五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲ス事
- 二 五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲ス事
- 三 府縣郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當貸付ヲ爲ス事
- 四 農工債券ノ引取ヲ爲ス事
- 五 地金銀、有價證券ノ保護預リヲ爲ス事

第三十六條 當銀行ハ如何ナル場合ト雖モ日本勸業銀行法第一條ニ記載シタル目的ノ外一切貸付ヲ爲サス又左ニ掲クル不動産ヲ抵當シ貸付スルコトナシ

- 一 明治十七年第七號布告地租條例第四條ニ該當スル土地
- 二 學校、社寺、病院、劇場其他共同ノ用ニ供スル建物及其敷地
- 三 農工業用ニアラサル宅地
- 四 鑛坑、石坑、池沼、鑛泉地
- 五 入會地

六 數人共有ノ不動産但シ共有者一同承諾ノ上其全所有權ヲ抵當トスルモノハ此限ニアラス

第三十七條 當銀行ニ於テ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲サントスルトキハ該不動産ノ價格、借入金使用ノ目的等ヲ鑑定調査シタル上貸付契約ヲ締結スヘシ其貸付契約書ハ公正證書タルヲ要ス當銀行ニ於テ抵當物ノ鑑定ヲ爲ストキハ之ニ必要ナル費用ハ契約ノ正否ニ拘ラス請求人ノ負擔タルヘキ旨ヲ

約定スヘシ

第二十八條 日本勸業銀行法第十六條但書ノ場合ニ於テ前負債ヲ償還スヘキ金額ハ借主ニ交付セメ之ヲ其償還ニ充ツヘシ

第二十九條 抵當トシテ徵スル建物保險ハ總テ當銀行ニ於テ確實ト認ムル保險會社ノ保險タルヲ要シ其保險料ハ當銀行ヲ經テ仕拂ヒ保險契約ハ貸付期限中繼續セシムルヲ要ス

貸付期限中保險契約繼續セラレサルトキハ當銀行ハ償還期限前ト雖モ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトアルヘシ

第四十條 借主ニ於テ當銀行ノ承諾ヲ得シテ抵當物ノ現形ヲ變シ又ハ其所有權ニ異動ヲ生セシメタルトキハ當銀行ハ償還期限前ト雖モ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトアルヘシ

第四十一條 當銀行ハ府縣郡市町村其他法律ヲ以テ組織セル公共團體ヲ除クノ外同一借主ニ對シ當銀行ノ拂込ミ資本金ノ百分ノ五ヲ超過スル金額ヲ貸付スルコトナシ

第四十二條 當銀行各種貸付金ノ利率ハ大藏大臣ノ認可ヲ經タル最高歩合ノ範圍内ニ於テ貸付年限ノ長短及事業性質ニ依リ之ヲ定ム

第四十三條 借主ニ於テ借用金又ハ利子ノ拂込ニ付キ約定期日(期限前償還ヲ要求スル場合ニ於テハ當銀行ノ指定スル期日)ヲ怠リタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ現入金ノ日マテ其金額ニ對スル年百分ノ七ニ當ル遅延利息ヲ徵シ且ツ之ト同額ノ違約金ヲ徵スルモノトス

天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ拂込ムコト能ハサルトキハ前項ノ違約金ヲ徵セス

第四十四條 償還期限前二年賦償還貸付金ノ全額又ハ其幾分ヲ拂戻ス場合ニハ當銀行ハ拂戻金高ノ百分ノ二以内ニ於テ臨時總裁ノ定ムル所ノ手数料ヲ徵ス

天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ若クハ日本勸業銀行法第二十七條ニ依テ期限前拂戻ヲ要求スル場合ハ此限ニアラス

第四十五條 借主ニ於テ其借受ケタル資金ヲ契約ノ目的以外ニ使用シ常銀行ニ於テ不利ナリト認ムルトキハ其貸付金ノ償還ヲ要求スルコトアルヘシ其使用第二條ノ目的外ニ涉ルトキハ直ニ貸付金ノ償還ヲ要求スルモノトス

第四十六條 常銀行ハ農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受ケル場合ニ於テハ行員ヲ派遣シ農工銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトアルヘシ農工債券ノ引受高ハ發行高ノ三分ノ一ヲ超過スルコトナシ

第四十七條 常銀行ニ於テ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ確實ナル銀行ニ預ケ金ヲ爲スモノトス(三十一年七月改正)

第六章 勸業債券

第四十八條 常銀行ヨリ發行スル勸業債券ハ券面金額ヲ二十圓トシ利札附無記名トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ例リ記名ト爲スヘシ(三十一年二月及同年七月改正)

第四十九條 勸業債券ノ發行高ハ拂込資本金高ノ十倍ヲ限トス又其發行現高ハ年賦償還貸付金總高及其引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス但シ借換ノタメ低利ノ債券ヲ發行スル場合ハ此限ニアラス

前項農工債券ハ引受ケタル當時ノ價格ヲ以テ之ヲ計算ス

第五十條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回發行ノ時定メタル月ニ於テ前ノ六箇月分ヲ利札引換ニ仕拂フヘシ

利子計算法ハ元金拂込ノ時ニシテ月ノ十五日以前ニアルモノハ下半年箇月分ヨリ又十六日以後ニアルモノハ翌月分ヨリ之ヲ付シ元金償還ノ時ニ於テハ其前月マテ月割ヲ以テ計算スルモノトス

第五十一條 勸業債券ノ償還ニ附キテハ五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ(三十一年二月改正)

勸業債券ノ償還期限ハ据置年限經過後五十箇年以内トシ年賦償還貸付金及其引受ケタル農工債券ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第五十二條 勸業債券ノ發行及償還ノ場合ニ於テ之ニ必要ナル事項ハ豫メ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 第八條乃至第十三條ノ規定ハ勸業債券ニモ亦之レヲ準用ス但シ無記名勸業債券若クハ利札ニシテ滅失、紛失シ又ハ盜取セラレタルトキハ公示催告ノ手續ヲ爲シ無効ノ宣告アリタル後ニアラザレバ當銀行ハ代リ債券若クハ利札ヲ交付セザルモノトス(三十一年二月追加)

第五十四條 記名勸業債券ヲ無記名ニ、無記名勸業債券ヲ記名ニ書換ヲ爲ス場合又ハ滅失、紛失シ盜取セラレ若クハ汚染毀損シタル等ノ爲メ代リ債券交付ノ場合ニ於テハ請求人ヨリ債券一通ニ付三十錢ノ手数料ヲ徴スルモノトス(三十一年二月改正)

記名勸業債券ノ名義書換ヲ爲ス場合ニ於テハ請求人ヨリ債券一通ニ付キ十五錢ノ手数料ヲ徴スルモノトス

第七章 計算及諸報告

第五十五條 常銀行ノ營業年度ハ毎年一月ヨリ六月マテ及七月ヨリ十二月マテトシ各年度ノ終ニ於テ諸勘定ヲ決算シ勸業債券計算書、財産目錄、貸借對照表、營業報告書及利益金分配案ヲ作り之ヲ通常株主總會ニ提出スヘシ

財産目録及貸借対照表ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十六條 諸勘定ノ決算ヲ爲スニハ總益金中ヨリ營業費、利息、割増金及損失ヲ引去リ其殘額ヲ以テ利益金ト爲スヘシ但シ貸付金其他債權中回收ノ見込ナキモノアルトキハ損失ニ算入シ又動産不動産ノ價格減少シタルトキハ時價ニ引直スヘシ

第五十七條 利益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

- 一 利益金百分ノ八以上 損失補填準備金
- 二 利益金百分ノ二以上 配當平均準備金

三 右二項ノ金額ヲ引去リ其殘額ノ内ヨリ拂込資本金ニ對シ年百分ノ五ノ割ヲ以テ第一配當金ト爲スヘシ

四 右三項ヲ引去リ其内ヨリ利益金百分ノ十以内ヲ重役賞與金トシテ引去リ尙ホ殘額アルトキハ之ヲ第二配當金トシテ株主ニ配當シ又ハ後期繰越金ト爲スヘシ

第五十八條 損失補填準備金ハ損失ニ因リ資本金ニ缺額ヲ生シタルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供ス配當平均準備金ハ配當金若シ前條第三號ノ割合ニ及ハサルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供ス

第五十九條 配當金ハ每期決算ノ後之ヲ拂渡スヘシ但シ其日限ハ豫メ各株主ニ通知スルモノトス

第八章 雜則

第六十條 當銀行ノ營業時間ハ毎日午前九時ヨリ午後三時マテトス

但シ營業ノ都合ニ依リ其時間ヲ増加スルコトアルヘシ

休業日ハ大祭日、祝日及日曜日トシ必要アル場合ニ於テハ官報及新聞紙ニ公告ノ上臨時休業ヲ爲スコトアルヘシ

第六十一條 當銀行ノ印章ハ左ノ如シ(印章略ス)

第六十二條 此定款ヲ變更セントスルトキハ株主總會ノ決議ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ請フヘシ

附 則

第六十三條 當銀行設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ任命スルモノトス

第六十四條 當銀行ハ設立初度ノ總裁、副總裁及理事ハ其任期ヲ三箇年トス

第六十五條 當銀行設立初度ノ總裁、副總裁理事及監査役ノ所有スヘキ株數ノ時期ニ附キテハ第十六條第五項ヲ適用スルノ限ニアラス

農工銀行

◎農工銀行法同注中改正追加 (明治二十九年四月法律第八三號)

第一章 總則

- 第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス
 - 第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得
 - 第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス
 - 第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得ス
 - 第五條 農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルヲアルモ株主タルノ資格ヲ失フコトヲ得
- 第二章 營業
- 第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
 - 一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト
 - 二 年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト
 - 三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一第二號ノ貸付ヲ爲スコト

- 四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員ガ規約ノ定ムル處ニヨリ借用ヲ申出タルトキハ定期償還ノ方法ニヨリ無抵當貸付ヲ爲スコト (三十二年三月法律第四十號追加) (三十五年四月法律第六號改正)
- 五 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タル時ハ其ノ信用ノ確實ナル者ニ限り五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト (明治三十三年三月改) (九日法律第四十號正)
- 第七條ノ一、前條ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル(同上)
 - 一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良
 - 二 耕作道路ノ築造又ハ改良
 - 三 殖林事業
 - 四 種苗、肥料其ノ他工業原料ノ購入
 - 五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
 - 六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
 - 七 前各項ノ外農工業ノ改良
- 第七條ノ二、産業組合ニヨリ設立シタル無限責任ノ信用組合購買組合及生産組合ニハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニヨリ無抵當貸付ヲ爲スコト(同上追加)
- 第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル効果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險附ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若クハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監督官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

農工銀行ハ府縣郡市ノ爲メ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得(明治卅三年三月九日法律第四十號ヲ以テ改正)

農工銀行ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲メニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得(同上追加)

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總額ヲ超過スルコトヲ得ス

農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若シクハ所有者ノ請求ニヨリ記名ト爲スコトヲ得(明治三十二年法律第三十三號追加)

農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス(明治三十三年三月九日法律第四十號ヲ以テ追加)

第二十七條 農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

低利農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還

ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セントスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キラハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

●農工銀行補助法及同法中改正追加 (明治二十九年四月 法律第八十四號)

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七十圓以内トス 但シ如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ十五箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千圓以内沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以内ヲ毎季交付ス但シ農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス(明治三十九日法律第四十一號ヲ以テ改正)

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ拾箇年間ハ利益當配ヲ爲スコトヲ要セス(明治三十三年三月九日法律第四十一號ヲ以テ改正) 前項ノ期限經過後尙五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益當配ヲ爲スヘシ 前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ル、モノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但シ第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十五箇年經過ノ後府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得(明治三十三年三月九日法律第四十一號ヲ以テ改正)

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ

◎日本興業銀行法(明治三十三年三月法律第七十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本興業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
日本興業銀行法

第一章 總則

第一條 日本興業銀行ハ株式會社トシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本興業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本興業銀行ノ株式ノ金額ハ百圓トス

第四條 日本興業銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

日本興業銀行ニ總裁一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本興業銀行ヲ代表ス

總裁及理事ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本興業銀行ノ業務ヲ綜理ス

監査役ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年トス

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第八條 總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス

第三章 營業

第九條 日本興業銀行ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス

第一 國債證券、地方債證券、社債券及株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ應募又ハ引受

第三 預リ金及保護預リ

第四 地方債證券、社債券及株券ニ關スル信託ノ業務

第十條 日本興業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券、地方債證券及社債券ノ買入ヲ爲スコトヲ得

第十一條 日本興業銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 債券

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高

及其ノ所有ニ係ル地方債證券及社債現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十四條 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ外國ニ於

ケル債券發行ノ規定ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 日本興業銀行ノ債券ノ利子ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其ノ元金ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以

内ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十六條 日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ第十二條ノ制限ニ依

ラサルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券

ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十七條 日本興業銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ關損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ

且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十八條 政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督ス

第十九條 日本興業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 日本興業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 日本興業銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 主務大臣ハ日本興業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリ

ト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十三條 日本興業銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出

スヘシ

第二十四條 主務大臣ハ特ニ日本興業銀行監理官ヲ置キ日本興業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 日本興業銀行監理官ハ何時ニデモ日本興業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査

スルコトヲ得

日本興業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得
 第二十六條 日本興業銀行ノ配當金ニシテ每營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合ニ達セサルトキハ政府
 ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給金ハ如何ナ
 ル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第二十七條 日本興業銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處
 ス但シ事犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
 一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
 二 第十一條ノ規定ニ反シ本法ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
 三 第十二條第十六條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ
 第二十八條 日本興業銀行ノ總裁及理事第八條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料
 ニ處ス

附則

第二十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本興業銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
 第三十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス
 第三十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ日本興業銀行設立ノ
 認可ヲ稟請スヘシ
 前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
 第三十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本興業銀行總裁ニ引渡スヘシ

株式會社日本興業銀行定款

第一章 總則

第一條 當銀行ハ明治三十三年法律第七十號日本興業銀行法ニ依リ設立シ株式會社日本興業銀行ト稱
 ス
 第二條 當銀行ハ日本興業銀行法第九條ノ營業ヲ爲スヲ目的トス
 第三條 當銀行ハ本店ヲ東京ニ設置ス
 當銀行ハ株主總會ノ決議ニヨリ政府ノ認可ヲ受ケ各地方便宜ノ地ニ支店又ハ代理店ヲ設置スルコト
 アルヘシ
 第四條 當銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ五十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ
 受ケ其期限ヲ延長スルコトアルヘシ
 第五條 設立ニ關スル一切ノ費用ハ當銀行ニ於テ負擔ス
 第六條 當銀行ノ公告ハ官報及所轄裁判所ノ公示ヲ掲載スル新聞紙ニ掲載ス
 第二章 資本金及株式
 第七條 當銀行ノ資本金總額ハ一千萬圓トシ之ヲ十萬株ニ分チ各株式ノ金額ヲ百圓トス
 當銀行ノ株券ハ記名式ニシテ一株券十株券五十株券百株券ノ四種トス
 當銀行ノ資本金ハ株主總會ノ決議ニヨリ政府ノ認可ヲ受ケ之レヲ増加スルコトヲ得
 第八條 株主第一回ノ株金拂込ヲ爲シタルトキハ株券ヲ交付シ株金拂込ノ都度其ノ拂込金額ヲ記入ス
 第九條 資本金第一回ノ拂込金額ノ四分ノ一即チ二百五十萬圓(一株ニ付二十五圓)トス

前項ノ金額ハ當銀行設立ノ免許ヲ得タル後設立委員ノ通知ニヨリ各株主ハ遲滯ナク之カ拂込ヲ爲スヘシ

第二回以後ノ拂込ノ期日及方法ハ營業ノ都合ニ依リ之ヲ定メ少ナクトモ一箇月前ニ總裁ヨリ其旨ヲ各株主ニ通知スヘシ但拂込金額ハ毎回一株ニ付二十五圓ヨリ多カラサルモノトス

第十條 株主若シ株金拂込ヲ怠リタルトキハ商法ノ規定ニ從ヒ處分スベシ

前項ノ場合ニ於テハ損害賠償トシテ其拂込期日ノ翌日ヨリ現拂込日マデ滯納金ニ對スル百圓ニ付一日四錢ノ割合ニ當ル金額ヲ徴收ス

第十一條 當銀行ノ株式讓渡ノ場合ニ於テハ請求書ニ株券ヲ添ヘテ當銀行ニ差出スヘシ
當銀行ハ當事者双方ヲシテ株券裏面ニ記名捺印セシメ株主名簿ニ記入ノ手續ヲ了シタル上之ヲ還付スヘシ

相續又ハ遺贈ニヨリテ當銀行ノ株式ヲ取得シタル者名義書換ヲ請求スルトキハ證明ヲ添ユヘシ

第十二條 當銀行ノ株券ヲ紛失滅失若クハ盜取セラレタルトキハ株主ハ其金額番號ヲ詳記シ其旨ヲ當銀行ニ届出テ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當銀行ハ請求人ノ費用ヲ以テ其旨ヲ公告シ一箇月ヲ經タル後當銀行ノ満足スル二名以上ノ保證人ヲ立テシメ新株券ヲ交付スヘシ

前項ノ期間内ニ於テ請求人該株券ヲ發見シタルトキハ直ニ當銀行ニ届出ツヘシ當銀行ハ請求人ノ費用ヲ以テ其旨ヲ公告ス

第十三條 滅失紛失若クハ盜取ノ届出アリタル株券ニ關シ故障ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ當銀行ハ管轄裁判所ノ判決ニ依ルニアラサレハ新株券ヲ交付セサルヘシ

第十四條 株券汚染又ハ毀損シタルトキハ株主ハ其事由ヲ詳記シ其株券ヲ添ヘ當銀行ニ差出シ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

當銀行ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其株券ヲ審査シ真正ナリト認ムルトキハ新株券ヲ交付スヘシ其真正ナルコトヲ鑑別シ難キモノハ紛失ノ例ニ依ル

第十五條 當銀行ハ株主ノ請求ニ依リ株券ノ種類交換ヲ爲スヘシ但シ新株券一通ニ付金二十錢ノ手数料ヲ請求人ヨリ徴スヘシ

第十六條 當銀行ハ株券ノ名義書換ノ場合ニ於テハ一通ニ付金五錢滅失紛失盜取又ハ汚染毀損等ニ依リ新株券交付ノ場合ニ於テハ一通ニ付金二十錢ヲ請求人ヨリ徴スヘシ

第十七條 當銀行ハ定時株主總會前一箇月以内株券ノ名義書換ヲ停止ス但此ノ場合ニ於テハ豫メ其旨ヲ公告スヘシ

第三章 重役

第十八條 當銀行ハ總裁一人理事四人監査役三人ヲ置ク

第十九條 總裁ハ其任期ヲ五箇年トシ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ任命ス

理事ハ其任期ヲ三箇年トシ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其中ヨリ之ヲ任命ス

監査役ハ其任期ヲ二箇年トシ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス理事又ハ監査役ニ缺員アルトキハ株主總會ヲ召集シ補缺選舉ヲ行フヘシ

第二十條 總裁ハ其所有ニ係ル當銀行ノ株式百株理事ハ各五十株ヲ在任中監査役ニ供託スルコトヲ要ス前項ノ株券ハ本人退職スト雖商法第百九十條ニ掲ケタル書類ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ得タ

ル後ニ非ラサレハ之ヲ受戻スコトヲ得ス
第二十一條 總裁ノ職務權限ハ左ノ如シ

- 一 總裁ハ一切ノ業務ニ付常銀行ヲ代表ス
 - 二 總裁ハ株券債券其他常銀行ノ權利義務ニ關スル一切ノ文書ニ記名捺印ス
 - 三 總裁ハ法律命令定款ノ規定及株主總會及重役會ノ決議ニ從ヒ常銀行一切ノ事業ヲ執行ス
 - 四 總裁ハ株主總會又ハ重役會ノ議長タルヘシ
- 第二十二條 理事ハ各部署ノ長トナリ常銀行ノ事務ヲ分掌シ且總裁欠員若シクハ事故アルトキハ理事中ニ於テ其職務ヲ代理ス

第二十三條 監査役ハ常銀行ノ業務ヲ監査ス

第二十四條 總裁理事及監査役ノ報酬ハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム

第四章 重役會

第二十五條 重役會ハ常銀行ノ内規其他重要ナル業務ヲ議決ス

重役會ハ總裁及理事ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十六條 重役會ハ必要ナル場合ニ總裁之ヲ召集ス

重役會ハ會員半數以上出席スルニ非ラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス但會員中疾病旅行其他事故アリテ定數ニ充タサルモ其事ノ急施ヲ要スルトキハ出席會員ニ於テ之ヲ議決シ次回ノ重役會ニ其旨ヲ報告スヘシ

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十七條 重役會ニ以テ議決シタル事項ハ決議録ニ記載シ出席員之ニ記名捺印スヘシ

第五章 株主總會

第二十八條 株主總會ヲ分チテ定時臨時ノ二種トス

第二十九條 定時株主總會ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ開ク其日時場所總會ノ目的及總會ニ於テ決議ヲ要スル事項ハ少クトモ開會ノ日ヨリ二週間前ニ總裁ヨリ各株主ニ通知スヘシ

定時株主總會ニ於テハ商法第九十條ニ依リ總裁ヨリ提出シタル書類及監査役ノ報告書ヲ調査シ且利益金ノ配當ヲ決議ス

第三十條 臨時株主總會ハ總裁ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ資本ノ十分ノ以上ニ當ル株主ヨリ總會ノ目的及其召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ其召集ヲ請求シタルトキ之ヲ開クモノトス但シ其日時場所ハ總裁之ヲ定メ總會ノ目的及決議ヲ要スル事項ト共ニ少クトモ開會ノ日ヨリ二週間前ニ各株主ニ通知スヘシ

第三十一條 各株主ノ議決權ハ其所有ノ株數一株ニ付一箇トス

第三十二條 株主ハ代理人ヲシテ總會ニ出席シ議決權ヲ行ハシムルコトヲ得但其代理人ハ法定代理人又ハ常銀行ノ株主タル者ニ限ル

常銀行ノ重役及使用人ハ法定代理人タル場合ノ外如何ナル場合ニ於テモ代理人タルコトヲ得ス

第三十三條 株主ノ代理人トナリ株主總會ニ出席シ議決權ヲ行ハムトスル者ハ其ノ權限ヲ證明スルコトヲ要ス

第三十四條 株主總會ノ決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但定款變更ノ議決ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十五條 定款變更ノ議決ヲ爲サントスル場合ニ於テ出席株主其定數ニ滿タサルトキハ出席シタル

株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ假決議ヲ爲シ其旨ヲ總株主ニ通知シ更ニ一箇月ヲ經過シタル後ニ於テ
 第二回ノ株主總會ヲ召集シ出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決定ス
 第三十六條 株主總會ニ於テ議決シタル事項ハ之ヲ決議録ニ記載シ總裁理事又監査役之ニ署名スヘシ
 第三十七條 株主總會ニ出席シタル株主ハ總會ノ當日會議ヲ開ク前出席名簿ニ署名シ代理人タルモノ
 ハソノ旨ヲ記シテ署名スヘシ
 出席名簿ハ總裁理事及監査役署名シタル上決議録ニ附綴スヘシ

第六章 營業

第三十八條 當銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
 一、國債證券地方債證券社債券及株券ヲ質トスル貸付
 二、國債證券地方債證券社債券ノ應募又ハ引受
 三、預リ金及保護預リ
 四、地方債證券社債券及株券ニ關スル信託ノ業務
 第三十九條 當銀行ノ貸付期限ハ五箇年ヲ超エルコトヲ得ス
 第四十條 當銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ公債社債ノ買入ヲナスコトヲ得
 第四十一條 當銀行ハ自己ノ株券若シクハ債券ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス
 第四十二條 當銀行ニ於テ營ム所ノ信託ノ業務ハ概テ左ノ如シ
 一、府縣其他ノ公共團體又ハ會社等ノ爲メ債券株券ニ關スル事項ノ委託ヲ受クルコト
 二、府縣其他ノ公共團體又ハ會社ノ依頼ニ應ジ公債又ハ社債ヲ發行シ若シクハ其他ノ依頼ニ應ジ公
 債社債ノ元利金ノ支拂又ハ株主ニ對シ利益金ノ配當支拂ヲ爲スコト

第四十三條 當銀行ハ左ニ記載スル場合ヲ除クノ外不動産ヲ取得スルコトヲ得ス

一、營業用地所家屋

二、債務辨濟ノ爲メ引渡サレタル不動産

三、裁判上引渡サレタル不動産

前項第二號第三號ノ不動産ハ速ニ之ヲ處分スヘシ

第四十四條 當銀行ノ役員及使用人ハ當銀行ヨリ負債ヲ爲スコトヲ得ス

第七章 債券

第四十五條 當銀行ヨリ發行スル債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名利札付トス但應募者又ハ所
 有者ノ請求ニ依リ記名トナスヘシ

第四十六條 債券ノ發行高ハ拂込資本金高ノ五倍ヲ限リトス又其發行高ハ貸付金現在高及其所有ニ係
 ル地方債證券及社債券ヲ時價ヲ以テ積算セシ現在高ヲ超過スコトヲ得ス但借換ノ爲メ低利ノ債券ヲ
 發行スル場合ハ一時此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四十七條 債券ノ利子ハ毎年二回發行ノ時定メタル月ニ於テ前ノ六箇月分利札引換ニ仕拂フヘシ

第四十八條 債券ノ償還期限ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以内トシ當銀行ノ都合ニ依リ抽籤ヲ以テ之ヲ償
 還スヘシ

第四十九條 債券又ハ利札ニシテ滅失紛失シ又ハ盜取セラレタルトキハ公示催告ノ手續ヲ爲シ無効ノ
 宣告アリタル後ニアラサレハ當銀行ハ代リ債券若シクハ利札ヲ交付セサルモノトス但シ記名債券ニ
 付テハ第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス
 公示催告ニ關スル費用ハ債券所有者ノ負擔トス

第五十條 記名債券ヲ無記名ニ無記名債券ヲ記名ニ書換フ爲ス場合又ハ滅失紛失シ盜取セラレ若シクハ汚染毀損等ノ爲メ代リ債券交付ノ場合ニ於テハ請求人ヨリ債券一通ニ付三十錢ノ手数料ヲ徵ス
記名債券ノ名義書換ヲ爲ス場合ニ於テハ請求人ヨリ債券一通ニ付十五錢ノ手数料ヲ徵ス

第五十一條 當銀行ハ債券發行ノ基礎トナレル貸付金ノ償還延滞シ又社債ニシテ之ヲ發行シタル會社解散ノ爲元金全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ速ニ其延滞金額又ハ償還ヲ得サル社債券ノ價格ニ相當スル債券ヲ償還スルカ又ハ他ノ有價證券ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第五十二條 當銀行ノ所有ニ係ル地方債證券及社債券ニシテ其時價減少シ第四十六條ノ制限ヲ降ルトキハ他ノ地方債證券又ハ社債證券ヲ以テ之ヲ補充スルカ若シクハ其超過額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第八章 計算

第五十三條 當銀行ノ營業年度ハ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トシ總裁ハ各年度ノ終リニ於テ諸勘定ヲ決算シ財産目錄貸借對照表營業報告書損益計算書及利益金分配案ヲ作り之ヲ定時總會ニ提出スヘシ

第五十四條 利益金分配ノ方法總益金ヨリ諸仕拂利息給料旅費其他一切ノ營業費及諸損ヲ引去リ其殘額ヲ以テ利益金トシ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

- 一、利益金百分ノ八以上 損失補填準備金
- 二、利益金百分ノ二以上 配當平均準備金
- 三、右二項ノ金額ヲ引去リ其殘額ノ内ヨリ拂込資本金ニ對シ年百分ノ五ノ割ヲ以テ第一配當金ト爲スヘシ

四、右三項ヲ引去リ其内ヨリ百分ノ十以内ヲ重役賞與金トシテ引去リ尙殘額アルトキハ之ヲ第二配當金トシテ株主ニ配當シ又ハ後期繰越金ト爲スヘシ

第五十五條 當銀行ハ創立初期ヨリ五箇年間ハ前條第一號及第二號ノ準備金ヲ引去リタル殘額拂込資

第五十六條 損失補填準備金ハ損失ニ因リ資本ニ缺額ヲ生シタルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供ス配當平均準備金ハ配當金拂込資本金ニ對シ年百分ノ五ノ割金ニ達セサルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供ス
創立初期ヨリ五箇年間ハ前二項ノ補充額ハ政府ノ補給ヲ受ケ尙不足アル場合ニ其不足額ニ限り之ヲ補充ス

第五十七條 當銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニアラサレハ株主ニ利益金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
配當金ノ拂渡期日ハ重役會ニ於テ之ヲ定メ各株主ニ通知ス

●北海道拓殖銀行法 (明治三十二年三月廿日) (公布法律第七十六號)

第一章 總則

第一條 北海道拓殖銀行ハ北海道ノ拓殖事業ニ資本ヲ供給スルヲ目的トス

第二條 北海道拓殖銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ北海道札幌ニ置ク

第三條 北海道拓殖銀行ノ資本金ハ三百萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第二章 重役
第三條 北海道拓殖銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第四條 北海道拓殖銀行ニ取締役四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第五條 取締役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三箇年トス
監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第六條 取締役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務ニ従事スルコトヲ得ス

第三章 營業

第七條 北海道拓殖銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 二 五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 三 北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券債券ヲ質トスル貸付及其ノ社債券ノ應募、引受
- 四 北海道ノ農産物ヲ担保トスル貸付及荷爲替
- 五 預リ金及保護預リ

前項第三號ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ前項第一號及第二號ニ依ル貸付金總高ノ五分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 北海道區町村制ヲ施行セル區町村及其ノ法律ヲ以テ組織セル北海道ノ公共團體ニ對シ北海道

拓殖銀行ハ無擔保ニテ年賦若ハ定期償還ノ方法ニヨリ貸付ヲ爲スコトヲ得

第九條 北海道拓殖銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券又ハ社債券ヲ買入ルルコトヲ得

第十條 北海道拓殖銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十一條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號及第二號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前ト雖其ノ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第四章 債券

第十二條 北海道拓殖銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ第七條第一號ニ依ル貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ其ノ債券ヲ償還スヘシ

第十四條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ

前條ト同時期ニ抽籤ヲ以テ延滞金額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第十五條 北海道拓殖銀行ハ債券借換ノ爲一時第十二條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十六條 北海道拓殖銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十七條 政府ハ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監督ス

第十八條 北海道拓殖銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 北海道拓殖銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ノ貸付金利子ニ付每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十一條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十二條 北海道拓殖銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十三條 政府ハ北海道拓殖銀行監理官ヲ置キ主務大臣ノ指揮ヲ承ケテ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十四條 北海道拓殖銀行監理官ハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ニ命シテ營業ニ關スル諸般ノ景況及決算報告ヲ差出サシムルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ北海道拓殖銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二十六條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期ノ末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則
第二十七條 北海道拓殖銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
二 第十二條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ但シ第十五條第一項ニ依レルモノハ此ノ限ニアラス

三 第十三條第十四條及第十五條第二項ノ規定ニ反シ債券ノ償還ヲ爲ササルトキ
四 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

第二十八條 北海道拓殖銀行ノ取締役第六條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 北海道拓殖銀行ノ發行スル債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

附 則
第三十條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行設立委員ヲ置キ北海道拓殖銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十一條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十二條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北海道拓殖銀行取締役ニ引渡スヘシ

第三十四條 北海道拓殖銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

◎株式會社北海道拓殖銀行定款

第一章 總則

第一條 當銀行ハ明治三十二年法律第七十六號北海道拓殖銀行法ニ依リ設立シ株式會社北海道拓殖銀行ト稱ス

第二條 當銀行ハ北海道ノ拓殖事業ニ資本ヲ供給スルヲ以テ目的トス

第三條 當銀行ハ本店ヲ石狩國札幌ニ支店ヲ渡島國函館及後志國小樽ニ設置ス

第四條 當銀行ハ營業ノ都合ニ依リ内外ノ要地ニ代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボンデン」スレテ締約スルコトアルヘシ

第五條 當銀行ノ存立期間ハ設立免許ノ日ヨリ滿五十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其期限ヲ延長スルコトアルベシ

第六條 當銀行ニ於テ公告ヲ爲ストキハ官報及新聞紙ニ其事項ヲ掲載スヘシ

第二章 資本及株式

第七條 當銀行ノ資本金ハ三百萬圓トシ之ヲ六萬株ニ分チ各株式ノ金額ヲ五十圓トス

第八條 當銀行ノ株券ハ記名トシ壹株、拾株、五拾株ノ三種トス

第九條 當銀行ノ株券ハ商法第四百四十八條ニ規定スル事項ヲ記載シ且發行ノ年月日、番號、商號及株主ノ氏名ヲ記シ社印ヲ捺シ頭取之ニ署名捺印スヘシ株金ノ拂込ミアリタルトキハ其都度拂込ノ年月日及金額ヲ記入シ頭取之レニ證明スベシ

第十條 第一回拂込ノ金額ハ資本金總額ノ四分ノ一即チ七十五萬圓(一株ニツキ十二圓五十錢トス)第二回以後ノ拂込ノ期日及方法ハ營業ノ都合ニ依リ重役會ニ於テ之ヲ定メ少ナクトモ三週間以前ニ頭取ヨリ其旨ヲ各株主ニ催告スヘシ但シ其拂込金額ハ毎回一株ニツキ十圓ヨリ多カラサルモノトス

第十一條 株主ガ前條ノ期日ニ拂込ミヲ爲サザルトキハ商法ノ規定從ヒ處分スベシ

前項ノ場合ニ於テハ損害賠償トシテ其拂込期日ヨリ現拂込日マデノ滯納金ニ對スル年百分ノ十二ノ割合ニ當ル金額ヲ徴收スモノトス

(第十二條以下第十八條迄抄畧)

第三章 重役及重役會

第一節 重役

第十九條 當銀行ニ取締役五人、監査役三人ヲ置ク

第二十條 取締役ハ株主總會ニ於テ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉スルモノトス其ノ任期ハ三ヶ年トシ滿期ニ至リ再選スルコトヲ得取締役ハ專務取締役一名ヲ互選シテ之レヲ頭取トス

第二十一條 監査役ハ株主總會ニ於テ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉スルモノトス其任期ハ二ヶ年トシ滿期ニ至リ再選スルコトヲ得

第四章 株主總會 (抄畧)

第五章 營業

第四十條 當銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 三十ヶ年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 二 五ヶ年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 三 北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券債券ヲ質トスル貸付及其社債券ノ應募引受
- 四 北海道ノ農産物ヲ擔保トスル手形割引及荷爲替

五 預リ金及保護預リ

第四十一條 當銀行ハ北海道區町村制ヲ施行セル區町村及其ノ他法律ヲ以テ組織セル北海道ノ公共團體ニ對シ無擔保ニテ年賦若クハ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スヘシ

第四十二條 當銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但舊債アル場合ニ於テ當銀行ヨリ借入ルル新債ヲ以テ其舊債ヲ償還スル効果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

第四十三條 當銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アル者ニ限ル當銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金ニ相當スル價格ヲ有スル不動産ヲ質ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第四十四條 不動産ヲ抵當トシテ貸付ル金額ハ當銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以內トス

第四十五條 當銀行ハ如何ナル場合ト雖モ左ニ掲クル不動産ヲ抵當トシテ貸付スルコトナシ
一 明治十七年第七號布告地租條例第四條ニ該當スル土地
二 學校、社寺、病院、劇場其他共同ノ用ニ供スル建物及其敷地
三 鑛坑、石坑、池沼、鑛泉地

四 海産干物但シ定期貸付ノ場合ニ於テハ此限ニ非ス
五 數人共有ノ不動産但共有者一同承諾ノ上其全所有權ヲ抵當トスルモノハ此限ニアラス

第四十六條 當銀行ハ第四十一條ノ貸付ヲ除クノ外、同一借主ニ對シ當銀行ノ拂込資本金ノ二十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付スルコトナシ

第四十七條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ

超過スルコトヲ得ス

第四十八條 當銀行ハ第四十條第一號及第二號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ契約ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前ト雖モ其貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトアルヘシ

第四十九條 當銀行ハ第四十條第三號ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ同條第一號及第二號ノ貸付金總高ノ五分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第五十條 當銀行ニ於テ餘裕金アルトキハ國債證券地方債證券社債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ヘ預金ヲ爲スコトヲ得

第六章 債券

第五十一條 當銀行ヨリ發行スル債券ハ券面金額ヲ二十圓以上トシ無記名利札付トス但應募者又ハ所
有者ノ請求ニ依リ記名トナスコトヲ得

第五十二條 債券ノ發行高ハ拂込資本金ノ五倍ヲ限リトス又其發行現高ハ第四十條第一號ニ依ル貸付
金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

第五十三條 債券ノ發行高償還期限利子歩合等ハ其都度株主總會ノ決議ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ

(以下抄畧)

臺灣銀行

臺灣銀行法 (明治三十年三月三十日法律第三十八號)

- 第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス
- 臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス
- 第二條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスボシ」デンスレヲ締約スルコトヲ得
- 主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ
- 第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得
- 第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス
- 第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
 - 第一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引
 - 第二 爲換及荷爲換
 - 第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲メ手形金ノ取立
 - 第四 確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ動産ヲ質トセル貸付
 - 第五 諸預リ金及當座貸越勘定
 - 第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七 地金銀ノ賣買

第八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券又ハ勸業債券、農工債券ヲ買入ルルコトヲ得

第六條 臺灣銀行ハ此ノ法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 政府ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條 臺灣銀行ハ券面金額一圓銀貨一枚以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得(明治三十二年三月一日法律第三十四號改正)

前項ノ銀行券ハ臺灣銀行本店支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ一圓銀貨ト引換フルモノトス但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其ノ引換ヲ延期スルコトヲ得

第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ(同上)

前項準備ニ依レル外銀行券ヲ發行セムトスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ發行額ハ前項準備ニ依レル發行額ニ超過スルコトヲ得ス(同上)

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ(同上)

第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ收納ニ充ルコトヲ得(同上)

第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ

外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第十二條 臺灣銀行ニ頭取、副頭取各一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ四箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

理事及監査役ハ選舉ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第十四條 頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス

第十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副頭取及理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ臺灣銀行ノ業務ヲ監査ス

第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種トス

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ頭取之ヲ招集ス

臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ招集スルコトヲ得

監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ頭取ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十七條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法律上ノ代理人ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム

第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及

景況ヲ報告セシムルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハ

ルコトヲ得ス

第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當

ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ銀行券發行高貸付金額及貸付方法ヲ制限

スルコトヲ得(三十二年三月一日法
律第三十四號改正)

第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認

ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘ

シ
臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關ハル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘ

シ(同上)

第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ(同上)

- 一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
- 二 第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキ
- 三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ

附 則

第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第二十九條 創立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ

第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ

第三十一條 設立初度ノ理事及監査役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

臺灣銀行補助法 (明治三十二年三月一日 法律第三十五號)

第一條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ臺灣銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二條 臺灣銀行ハ其ノ創立初期ヨリ五箇年間ハ前條ノ株式ニ對シ配當スヘキ利益金ヲ缺損補填準備金ニ組入ルヘシ

第三條 前條ノ期限内政府ハ其ノ引受ケタル株式ヲ賣却セス

臺灣銀行券ニ關スル件 (律令第十三號明治三十三年七月廿二日)

臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ租稅其他政府ノ收納金及一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス
前項銀行券ノ偽造變造及其取行使ニ關スル犯罪ニ付テハ刑法第二編第四章第一節ノ規定ヲ準用ス

株式會社臺灣銀行定款及同定款中改正追加

第一章 總則

第一條 常銀行ハ株式會社臺灣銀行ト稱ス但シ英語ヲ用ユルトキハ『The Bank of Taiwan Limited.』ト稱ス

第二條 常銀行ハ臺灣銀行法ニ依リ銀行業ヲ營ムヲ以テ目的トス

第三條 常銀行ハ本店ヲ臺灣島臺北ニ設置ス

第四條 常銀行ハ兵庫縣神戸、臺南縣臺南、清國廈門、臺中縣臺中、臺北縣基隆、清國福州、同仙頭ニ支店ヲ設置スルモノトス (明治三十三年三月改正)

常銀行ハ營業ノ都合ニ依リ内外ノ要地ニ出張所又ハ代理店ヲ設置シ若クハ他ノ銀行ト「コレスボ」ニデンスルヲ締約スルコトアルヘシ

第五條 常銀行ノ存立期間ハ設立免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可

ヲ受ケ其ノ期限ヲ延長スルコトアルヘシ

第六條 當銀行ニ於テ公告ヲ爲ストキハ諸新聞紙ニ二日以上其事項ヲ登載スルモノトス

第二章 資本及株式

第七條 當銀行ノ資本ハ其ノ總額五百萬圓トシ之ヲ五萬株ニ分チ各株式ノ金額ヲ百圓トス

第八條 當銀行ノ株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作ルモノトス但シ株主ノ請求アルトキハ十株又ハ百株ヲ

合シテ一通ノ株券ヲ作ルコトアルヘシ

第九條 株主第一回ノ株金拂込ヲ爲シタルトキハ株券ヲ交付シ株金拂込ノ都度其ノ拂込金額ヲ記入ス

ルモノトス

第十條 資本第一回ノ拂込金額ハ總額ノ四分ノ一即チ百二十五萬圓(一株ニ付キ二十五圓)トス

前項ノ金額ハ當銀行設立ノ免許ヲ得タル後頭取其ノ拂込期日ヲ定メ商法ノ規定ニ依リ各株主ニ拂込

ノ催告ヲナシ各株主ハ其ノ催告ニ基キ遲滞ナク之カ拂込ヲ爲スヘシ

第二回以後ノ拂込ノ期日及方法ハ營業ノ都合ニ依リ之ヲ定メ頭取其ノ旨ヲ各株主ニ通知スヘシ但シ

其ノ拂込金額ハ毎回一株ニ付キ二十五圓ヨリ多カラサルモノトス

第十一條 株主若シ株金ノ拂込ヲ怠リタルトキハ商法ノ規定ニ從ヒ處分スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ損害賠償トシテ其ノ拂込期日ヨリ現拂込日マテ滯納金ニ對スル年百分ノ十ノ割

合ニ當ル金額ヲ徵集スルモノトス

第十二條 當銀行ノ株式讓渡シノ場合ニ於テハ其ノ證書ヲ作り當事者双方之ニ連印シ株券ヲ添ヘテ當

銀行ニ差出スヘシ

當銀行ハ當事者双方ヲシテ株券裏面ニ署名捺印セシメ株主名簿記入ノ手續ヲ了シタル上之ヲ還付ス

ヘシ

第十三條 相續又ハ遺贈ニ因リテ當銀行ノ株式ヲ取得シタル者正式ノ證明書ヲ添ヘテ名義書換ヲ請求

スルトキハ當銀行ハ前條ニ準シ書換ヲ爲スモノトス

第十四條 當銀行株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載スル

ニアラサレハ當銀行其他ノ第三者ニ對シテ其効ナキモノトス

第十五條 當銀行ノ株券災害ニ罹リ滅失シタルトキハ其ノ事由並金額、番號ヲ詳記シ當銀行ノ満足ス

ル二名以上ノ保證人ヲ立テ當銀行ニ届出ラ新株券交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケ證據判明ナルトキハ當銀行ハ新株券ヲ交付スヘシ其ノ證據判明ナラサル場合ニハ

總テ紛失ノ例ニ依ル

第十六條 當銀行ノ株券ヲ紛失シ若クハ盜取セラレタルトキハ株主ハ其金額、番號ヲ詳記シ其ノ旨ヲ

當銀行ニ届出テ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當銀行ハ請求人ノ費用ヲ以テ其ノ旨ヲ公告シ一箇月ヲ經タル後當銀行

ノ満足スル二名以上ノ保證人ヲ立テシメ新株券ヲ交付スヘシ

前項ノ期間内ニ於テ請求人該株券ヲ發見シタルトキハ直ニ當銀行ニ届出ツヘシ當銀行ハ前項ノ例ニ

ヨリ其ノ旨ヲ公告スルモノトス

第十七條 滅失紛失若クハ盜難ノ届出アリタル株券ニ關シ故障ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ當銀行ハ管

轄裁判所ノ判決ニ依ルニアラサレハ新株券ヲ交付セサルヘシ

第十八條 株券汚染又ハ毀損シタルトキハ株主ハ其ノ事由ヲ詳記シ其ノ株券ヲ添ヘ當銀行ニ差出シ新

株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケ其ノ株券ヲ審査シ真正ナリト認ムルトキハ當銀行ハ新株券ヲ交付スヘシ其ノ真正ナルコト鑑別シ難キモノハ紛失ノ例ニ依ル

第十九條 當銀行ハ株券名義書換ノ場合ニ於テハ一通ニツキ金五錢新株券交付ノ場合ニ於テハ金二十錢ノ手数料ヲ請求者ヨリ徴スヘシ

第二十條 當銀行ハ定時株主總會前一箇月以内株式ノ讓渡ヲ停止ス但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三章 重役及重役會

第二十一條 當銀行ニ頭取、副頭取各一人理事四人以上監查役三人以上ヲ置ク理事及監查役ノ人員ハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十二條 頭取、副頭取ハ其ノ任期ヲ五箇年トシ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ任命スルモノトス

理事ハ其ノ任期ヲ四箇年トシ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ任命スルモノトス

監查役ハ其ノ任期ヲ三箇年トシ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉スルモノトス

理事及監查役ハ選舉ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

理事又ハ監查役ニ缺員アルトキハ株主總會ヲ召集シ補缺選舉ヲ行フヘシ其ノ補缺員ハ前任者ノ殘任期ヲ繼クモノトス

第二十三條 頭取、副頭取ハ其ノ所有ニ係ル當銀行ノ株式各百株理事ハ各五十株ヲ在任中監查役ニ供

託スルコトヲ要ス

前項ノ株券ハ本人退職スト雖其ノ期ニ屬スル決算報告株主總會ノ承認ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ受戻スコトヲ得ス

第二十四條 頭取ハ當銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理スルモノトス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノ時其ノ職務ヲ行フモノトス

副頭取及理事ハ頭取ヲ補助シ當銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ當銀行ノ業務ヲ監查ス

第二十五條 頭取、副頭取、理事及監查役ノ給料又ハ報酬ハ株主總會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

第二十六條 重役會ハ頭取副頭取本店在勤ノ理事ヲ以テ之ヲ組織シ當銀行ノ事務中事体ノ重大ナルモノヲ議決スルモノトス

第二十七條 重役會ハ頭取ニ於テ之ヲ開クモノトス

重役會ハ會員半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十八條 重役會ニ於テ議決シタル事項ハ議事録ニ記載シ出席員之ニ署名捺印スヘシ

第四章 株主總會

第二十九條 株主總會ヲ分テテ定時臨時ノ二種トシ頭取ノ召集ニ依リ之ヲ開ク

第三十條 定時株主總會ハ毎年三月、九月ノ兩度ニ之ヲ開ク其日時、場所、總會ノ目的及總會ニ於テ決議ヲ要スル事項ハ少クトモ開會ノ日ヨリ二週間前ニ頭取ヨリ各株主ニ通知スヘシ

定時總會ニ於テハ頭取カ提出シタル書類及監查役ノ報告書ヲ調査シ且利益ノ配當ヲ決議スルモノト

第三十一條 臨時株主總會ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ開クモノトス但シ其日時、場所ハ頭取之ヲ定メ總會ノ目的及決議ヲ要スル事項ト共ニ少クトモ開會ノ日ヨリ二週間前ニ各株主ニ通知スヘシ

一 頭取ニ於テ必要ト認ムルトキ

二 監査役ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ其招集ヲ請求シタルトキ

三 資本ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ヨリ總會ノ目的及其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ其招集ヲ請求シタルトキ

頭取ハ前項第二號又ハ第三號ノ請求ヲ受ケタルトキハ二週間以内ニ之カ招集ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 各株主ノ議決權ハ其所有ノ株數一株ニツキ一箇トス

第三十三條 株主ハ代理人ヲシテ總會ニ出席シ議決權ヲ行ハシムルコトヲ得但シ其ノ代理人ハ法定代理人又ハ當銀行ノ株主タル者ニ限ル

當銀行ノ重役及使用人ハ如何ナル場合ニ於テモ代理人タルコトヲ得サルモノトス

第三十四條 株主ノ代理人トナリ株主總會ニ出席シ議決權ヲ行ハムトスル者ハ委任狀ヲ持參スルコトヲ要ス

第三十五條 株主總會ノ議決ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ定款變更又ハ解散ノ議決ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十六條 定款變更又ハ解散ノ議決ヲ爲サントスル場合ニ於テ出席株主其ノ定數ニ滿タサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲シ其ノ旨ヲ總株主ニ通知シ更ニ一箇月ヲ下ラサ

ル期間ニ於テ第二回ノ株主總會ヲ招集シ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決定スルモノトス

第三十七條 株主總會ニ於テ議決シタル事項ハ之ヲ議事録ニ記載シ頭取、副頭取、理事及監査役之ニ署名捺印スヘシ

第三十八條 株主總會ニ出席シタル株主ハ總會ノ當日會議ヲ開ク前ニ出席名簿ニ署名捺印シ代理人タルモノハ其ノ旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ

出席名簿ハ頭取、副頭取、理事及監査役署名捺印シタル上議事録ニ附綴スヘシ

第五章 營業

第二十九條 當銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引
- 二 爲換及荷爲替
- 三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲メ手形金ノ取立
- 四 確實ナル不動産ヲ抵當トシ又ハ不動産ヲ質トスル貸付
- 五 諸預リ金及當座貸越勘定
- 六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ
- 七 地金銀ノ賣買
- 八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ依リ國債證券、地方債證券又ハ勸業債券、農工債券ヲ買入ル、コトアルヘシ
第四十條 當銀行ハ政府ノ命令ニ依リ國庫金ノ取扱ニ從事スルコトアルヘシ

第四十一條 當銀行ハ營業ノ爲メ必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲メ引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産不動産ヲ買取ルコトナシ
債務辨濟ノ爲メ引受ケタル動産ハ六箇月以内ニ不動産ハ一年以内ニ之ヲ賣却スヘシ但シ買受ケ望人ナキトキ若クハ買受望人アルモ其代價ヲ不相當ト認ムルトキハ延期スルコトアルヘシ
第四十二條 當銀行ノ株式ハ之ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ引受クルコトナシ
第四十三條 當銀行ハ如何ナル場合ト雖モ當銀行ノ役員及使用人ニ對シ貸付ヲ爲サス

第六章 銀行券

第四十四條 當銀行ハ銀行券發行ノ特權ヲ有ス
第四十五條 當銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ
第四十六條 前條準備ニ依レル外銀行券ヲ發行セントスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣證券兌換銀行券又ハ其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシテ發行スルコトアルヘシ但シ其發行額ハ前條準備ニ依レル發行額ニ超過スルコトヲ得ス
第四十七條 前二條ノ外市場ノ狀況ニ依リ當銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ保證準備ヲ以テ更ニ銀行權ヲ發行スルコトアルヘシ

第四十八條 銀行券發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ調製シ大藏大臣ニ報告シ同時ニ官報及諸新聞紙ヲ以テ公告スルモノトス

第七章 計算

第四十九條 當銀行ノ營業年度ハ毎年一月ヨリ六月マテ及七月ヨリ十二月マテトシ每營業年度ノ終リニ於テ頭取ハ諸勘定ヲ決算シ財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益配當案ヲ作ル

ヘシ

第五十條 利益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

- 一 利益金百分ノ八以上 缺損補填準備金
- 二 利益金百分ノ二以上 配當平均準備金
- 三 利益金(前期繰越金ヲ扣除シタルモノ)百分ノ七 賞與金
- 四 右三項ノ金額ヲ引去リ其ノ殘額ヲ株式ニ對シ配當スルモノトス尤モ配當割合ノ都合ニ依リ後期ニ繰越金ヲ爲スコトアルヘシ

第五十一條 政府引受ノ株式ニ對スル配當金ハ創立初期ヨリ五箇年間ハ缺損補填準備金ニ組入ル、モノトス

第五十二條 缺損補填準備金ハ損失ニ因リ資本ニ缺額ヲ生シタルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供ス配當平均準備金ハ配當金拂込資本ノ百分ノ五ノ割合ニ及ハサルトキ之ヲ補充スルノ用ニ供ス

附 則

第五十三條 設立準備ニ關スル一切ノ實費ハ當銀行ノ負擔トス但シ其ノ金額ハ株主總會ノ決議ヲ經ヘシ

諸規則

●東京銀行集會所規則

第一章 總則

- 第一條 東京銀行集會所ハ東京横濱ニ本店若クハ支店ヲ有スル銀行集會シテ交誼ヲ厚フシ經濟上ノ利害ヲ講究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 東京銀行集會所ハ東京日本橋區坂本所四十番地ニ設置ス
- 第三條 當集會所ニ加入シタル銀行ヲ東京組合銀行ト稱ス
- 第四條 當集會所ノ資産ニ關スル一切ノ權利ハ必ス入會金額ニ準スルモノトス
- 第五條 組合銀行ノ頭取、取締役、支配人、副支配人又ハ之ニ準スル地位ヲ有スル者ハ會員トシテ集會ニ出席スルヲ得
- 第六條 當集會所ヨリ發スル諸般ノ文書ハ特ニ會長ノ名印ヲ要スルモノ、外總テ東京銀行集會所ノ名印ヲ用フヘシ
- 第二章 加入及除名
- 第七條 當集會所ニ入會セント欲スル銀行ハ書面ヲ以テ申込ムヘシ會長ハ次回ノ集會ニ之ヲ提出シ出席代表者三分ノ二以上ノ同意アルトキハ加入ヲ許諾ス
- 第八條 當集會所ニ加入スル銀行ハ第二十八條ニ照ラシテ入會金ヲ出シ此ノ規程ニ署名捺印スヘシ
- 第九條 退會セント欲スル銀行ハ書面ヲ以テ申込ミ會長ノ許諾ヲ得ヘシ

第十條 組合銀行ハ組合銀行中信用ヲ缺キ若クハ德義ヲ失シ銀行ノ體面ヲ損スル行爲アリト認ムルトキハ會長ニ告知スヘシ會長ハ直ニ組合銀行ノ集會ヲ開キ委員ヲ選舉シテ之ヲ調査セシメ事實ト認ムルトキハ更ニ集會ノ上出席代表者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ除名スヘシ

第十一條 第九條ノ退會及第十條ノ除名ニ當ル者ハ當集會所ノ共有財産ニ係ル權利ヲ失ヒ其入會金ヲ取戻スヲ得ス

第三章 集會

第十二條 組合銀行ノ集會ハ定式臨時ノ二種ニ別ツ

第十三條 定式集會ハ毎月十五日ヲ以テ之ヲ開キ日曜大祭祝日等休業日ニ當ルトキハ翌日ニ順延ス

第十四條 臨時集會ハ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合銀行五行以上ノ要求有ルトキハ之ヲ開クモノトス

第十五條 集會ニ於テ投票ヲ要スルトキハ各行ノ代表者ヲ一行一名ト定ム

第十六條 集會ハ組合銀行半數以上出席スルニアラサレハ決議スルヲ得ス

第十七條 集會ノ會長ハ會長副會長ノ内之ヲ任ス會長副會長事故アルトキハ出席會員中ヨリ當日ノ會長ヲ選舉スヘシ

第十八條 集會ノ決議ハ第七條及第十條ノ場合ヲ除クノ外出席代表者過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決スヘシ若シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第十九條 會議ノ要領ハ記錄シテ當日ノ會長之ニ捺印スヘシ

第四章 會長及委員

第二十條 當集會所ノ事務ヲ處理スル爲メ投票ヲ以テ會長副會長各一名ヲ選舉スヘシ

第二十一條 會長及副會長ノ任期ハ一ケ年ト定メ毎年一月定式ノ集會ニ於テ改選スヘシ但再任スルヲ得

第二十二條 會長ハ集會所ノ事務ヲ取扱フヘキ書記ヲ選任ス

第二十三條 組合銀行間ノ取引上ニ於テ紛議ヲ生スルトキハ之ヲ調停スル爲ノ仲裁委員ヲ撰舉シ其調停ヲ爲サシムルコアルヘシ

第二十四條 會議ノ結果ニヨリ臨時取調ヲ要スルトキハ其取調委員ヲ選舉スルコアルヘシ

第五章 書記

第二十五條 書記ノ内一名ヲ選テ書記長トス

第二十六條 書記長及書記ハ會長及ヒ副會長ノ命ヲ受ケ一切ノ事務ヲ整理スルノ責ニ任ス

第二十七條 書記ハ諸文案ヲ草シ集會ノ議事ヲ記録シ金錢ノ出納收支ノ計算ヲ分掌スヘシ

第六章 入會金

第二十八條 入會金ハ本條ニ定ムル所ノ割合ニ從ヒ加入ノ許諾ヲ得タル日ヨリ一週間以内ニ當集會所
（拂込ムヘシ）

一 資本金一百萬圓未滿 金 百 圓

一 同一百萬圓以上三百萬圓未滿 金 貳 百 圓

一 同三百萬圓以上 金 三 百 圓

第二十九條 入會金ハ當集會所ノ基本金トナシ地所家屋ト共ニ組合銀行ノ共有財産ニ算入ス

第三十條 當集會所ノ基本金ハ組合銀行ノ集會ニ於テ保存方法ヲ定メ會長之ヲ管理スルモノトス但基本金ヨリ生スル利息ハ經費ノ内ニ補充スルコヲ得

第七章 會計

第三十一條 當集會所ノ經費ハ毎年兩度（一月、七月）左ノ割合ヲ以テ組合銀行ヨリ釀出支辨スヘキモノトス

一 資本金五拾萬圓未滿 金 六 十 圓

一 同五拾萬圓以上百萬圓未滿 金 百 圓

一 同百萬圓以上貳百萬圓未滿 金 百 五 拾 圓

一 同貳百萬圓以上 金 貳 百 圓

右資本金ハ拂込高ニ據ル但支店ハ本店ノ半額トス

第三十二條 當集會所ニ於テ支出スヘキ經費ハ左ノ數項トシ臨時ノ費用ハ組合銀行協議ノ上支辨スルモノトス

一 定式臨時集會費

一 諸稅並家屋修繕及庭園費

一 諸給料及報酬

一 郵便電信代

一 書籍新聞紙代

一 器具買入代

一 雜費

一 銀行通信錄刊行及遞送費

第三十三條 當集會所收支勘定ハ毎年六月十二月決算シ其殘金ハ積立金ト爲シ翌月ノ定式集會ニ於テ

報告スルモノトス

右七章三十三條ハ明治三十年七月十五日同盟銀行定式集會ニ於テ改定スル所ナリ因テ此ニ各行署名捺印ス今後加入スル者ハ之ニ倣ヒ順次其名印及年月日ヲ記載スヘシ

●東京交換所規則

第一章 總則

第一條 當交換所ハ東京交換所ト稱シ日本橋區本兩替町壹番地ニ置ク(事務所ハ日本橋區坂本町四十番地)

第二條 當交換所ハ交換所組合銀行中ニ於テ日々收入シタル各種ノ手形小切手ヲ交換決算スルヲ以テ目的トス

第三條 當交換所ニ於テ交換シタル手形小切手ノ不渡リ又ハ交換ノ錯誤ヨリ生スル要求ハ其關係銀行ノ間ニ於テ處辨スヘキモノトシ交換所ハ一切其責ニ任セス

第二章 交換規定

第四條 當交換所ノ交換時間ハ毎日(一般ノ休業日ヲ除ク)午前十時三十分ニ開キ同十一時ニ總決算ヲ完了スヘキモノトス

但本條ノ時間ハ集會ノ決議ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第五條 手形小切手ノ交換ハ第六條以下ノ手續ニヨリテ之ヲ行ヒ其差引殘高ハ日本銀行當座勘定ノ貸借振換ヲ以テ結了スヘキモノトス

第六條 組合銀行ノ交換方ハ交換スヘキ手形小切手壹枚毎ニ裏書ヲ爲シ交換添表ニ其金額及枚數ヲ記

入シ該添表ノ合計金額ヲ交換差引表ノ貸方ニ記載シテ手形小切手ト共ニ當交換所ヘ持參スヘシ

第七條 組合銀行ノ交換方ハ交換時間迄ニ當交換所ヘ參集シ手形小切手ヲ添表ト共ニ互ニ交換シ其受取タル金額及枚數ヲ交換差引表ノ借方ニ記載シ貸借ノ決算ヲ爲シ交換殘高表ヲ作り證印ノ上監事ヘ差出スヘシ

第八條 監事ハ交換方ヨリ差出シタル殘高表ノ金額ヲ點檢シ書記ヲシテ交換決算簿ニ記入セシメ貸借合計ヲ現ハシ計算ノ確實ナルヲ認メタル上交換方ヲシテ交換尻振替ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九條 交換決算上借方トナリタル銀行ハ交換尻振替請求書(甲號)ヲ認メ交換方記名調印ノ上之ヲ日本銀行ヘ持參シ同行ヨリ振換濟ノ報告書(甲號)ヲ受取り監事ニ差出シ振替濟ノ證印ヲ受クヘシ

第十條 交換決算上貸方トナリタル銀行ハ交換尻振替請求書(乙號)ヲ認メ交換方記名調印ノ上之ヲ監事ニ差出シ其證印ヲ得テ日本銀行ヘ持參シ交換振替濟ノ報告書(乙號)ヲ受取ルヘシ

第十一條 監事ハ交換決算後直ニ總決算表ヲ作り記名調印ノ上日々之ヲ日本銀行ヘ差出スヘシ

第十二條 當交換所ニ於テ交換シタル手形小切手ノ内不渡リノモノアルトキハ其銀行ハ當日午後三時迄ニ其事由ヲ記載シテ之ヲ持出シタル銀行ヘ返却シ其代リ金ヲ受取ルヘシ(明治卅一年十月修正)

第十三條 組合銀行中前條規定ノ時間内ニ不渡リトナリタル手形若クハ小切手ノ返却ヲ受ケ其代リ金ヲ渡サ、ルカ又ハ交換尻支拂金ヲ交換完了時間後一時三十分以内ニ日本銀行ヘ振込マサル時ハ相手方ノ銀行ハ直ニ其理由ヲ詳記シテ監事ヘ届ケ出ヘシ監事ハ其銀行ヲ督責シテ支拂ヲ爲サシムヘシ

(明治卅一年十月修正)

第十四條 前條ノ場合ニ於テ借方ノ銀行其支拂ヲ爲サ、ル時ハ監事ハ翌日ノ交換時間迄ニ決算ヲ繰戻シ其銀行ノ持歸リタル手形小切手ヲ引揚ケ相手方ノ銀行ヘ返戻スヘシ

但借方ノ銀行ニテ其手形小切手へ渡済記入済等ノ印ヲ押捺セシモノハ未拂ノ旨ヲ附箋セシムヘシ
若シ之ヲ肯セサルトキハ監事ハ交換所ノ帳簿ニ據リテ之ヲ證明スヘシ

第三章 交換所組合銀行

第十五條 交換所組合銀行ハ東京銀行集會所組合銀行ニシテ日本銀行ト常坐勘定ヲ開キタルモノニ限
ル

第十六條 日本銀行ハ當交換所ノ爲メニ各員トシテ日々交換方ヲ當交換所ニ出席セシムルモノトス

第十七條 組合銀行ハ保證トシテ五分以上利付ノ公債證書額面壹萬圓ヲ當交換所へ預ケ入ルヘシ

第十八條 組合銀行ハ第三十九條ニ定メタル割合ヲ以テ當交換所ノ費用ヲ分擔シ委員ノ通知ニヨリテ
之ヲ支出スヘシ

第十九條 組合銀行ハ組合中ニ於テ支拂フヘキ手形小切手等ヲ取引先ヨリ受取ルトキハ相當ノ理由ナ
クシテ之ヲ拒絶スヘカラス且其受取タルモノハ總テ當交換所ニ持出スヘシ

第二十條 組合銀行ハ交換スヘキ手形小切手ヲ所持スルト否トニ拘ハラズ毎日交換時間ニ交換方ヲ當
交換所へ出席セシムヘシ

但交換方ハ其銀行ノ代理人トシテ交換ニ係ル一切ノ責任ヲ有スルモノトス

第二十一條 新タニ當交換所ニ加入セント欲スル者ハ組合銀行ノ紹介ヲ以テ其由ヲ委員ニ申出ヘシ委
員ハ組合銀行へ通達シ日ヲ定メテ匿名投票ヲ行ヒ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ其加入ヲ許諾スヘシ

第二十二條 組合銀行ニ於テ代理交換ノ引受ヲ爲サントスルトキハ委員ニ申出ヘシ委員ハ之ヲ組合銀
行會議ニ付シ投票多數ヲ以テ其可否ヲ決スヘシ(明治卅三年十一月修正)

但受託銀行ハ委託銀行ニ於テ支拂フヘキ手形小切手ヲ便宜上交換スル迄ニテ別ニ責任ヲ有セサル

者トス

第二十三條 組合銀行中退會ヲ望ムモノハ其由ヲ委員ニ申出ヘシ委員ハ組合銀行ニ通達シ異議ナキト
キハ之ヲ許諾スヘシ

但委員ノ許諾ヲ得サル間ハ第十七條ノ保證品ヲ取戻スコトヲ得ス又第二十條ノ交換時間ニハ交換
方ヲ當交換所へ差出スヘシ

第二十四條 組合銀行中第十三條ノ支拂ヲ爲サ、ルモノアルトキハ委員ハ預リ置キタル保證品ヲ賣却
シ其代金ヲ以テ相手方ニ對スル未拂金ヲ決算セシムヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ委員ハ其銀行ヲ除名シ直ニ組合銀行へ通達シテ該銀行ニ係ル手形小切手ハ
一切受取ラサルモノトス

第二十五條 組合銀行中營業危險ナリト認ムヘキ事實アルカ又ハ此規則ニ悖戻スルモノアルトキハ委
員ハ其銀行ノ出席ヲ止メ直ニ組合銀行臨時總會ヲ開キ出席員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ除名ス
ヘシ

第四章 集會

第二十六條 集會ハ定式臨時ノ二種ニ別ツ

第二十七條 定式集會ハ毎月五日之ヲ開キ且ツ其一月七月ノ集會ニ於テハ委員ヨリ前半季事務ノ要領
及經費決算ヲ報告スルモノトス

第二十八條 臨時集會ハ委員ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ組合銀行五行以上ノ請求アルトキハ何時ニ
テモ開會スルコトヲ得

第二十九條 集會ノ會長ハ委員長之ニ任ス委員長事故アルトキハ委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三十條 凡集會ハ組合銀行半數以上出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス
 第三十一條 集會ノ決議ハ第二十一條第二十五條第六十四條ノ場合ヲ除クノ外出席代表者過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決スヘシ若シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス
 第三十二條 議事ノ要領ハ記録シテ當日ノ會長之ニ捺印スヘシ

第五章 役員

第三十三條 委員ノ任期ハ一ケ年ト定メ毎年ノ集會ニ於テ組合銀行支配人以上ノ重役中ヨリ三名ヲ選舉シ其互選ヲ以テ委員長一名ヲ置ク
 但再選スルコトヲ得

第三十四條 委員ノ職掌ハ左ノ如シ

- 第一 交換所一切ノ事務ヲ整理スルコト
 - 第二 交換所規則ノ實際ニ行ハル、ヤ否ヤヲ監視スルコト
 - 第三 監事ノ職掌ヲ監督スルコト
 - 第四 監事ノ任免及其手當金ノ額ヲ集會ノ評議ニ付スルコト
 - 第五 書記ヲ任免シ其手當金ノ額ヲ定ムルコト
 - 第六 組合銀行中ニ爭論ノ生シタルトキハ之ヲ仲裁スルコト
 - 第七 臨時集會ヲ招集スルコト
- 但第四項以下ハ委員三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
- 第三十五條 常交換所ノ監事ハ委員ノ衆議ヲ以テ適任者ヲ選ミ集會ノ同意ヲ得テ任命スヘキモノトス
- 第三十六條 監事ハ委員ノ監督ヲ受ケ書記ヲ指揮シ日々ノ交換事務ヲ整理シ交換決算ノ責任ヲ有スル

モノトス故ニ各銀行ノ交換方交換所ニアル間ハ總テ監事ノ差圖ニ從フヘシ

第三十七條 書記ハ委員及監事ノ指揮ニ從ヒ庶務ニ從事スルモノトス

第六章 經費

第三十八條 常交換所經費ノ決算ハ毎年一月七月ノ集會ニ於テ委員ヨリ報告シ次條ニ規定シタル割合ヲ以テ組合銀行ヨリ徴收スヘキモノトス

第三十九條 常交換所ノ經費ハ其總額ヲ二分シテ一半ハ平等ニ課シ一半ハ前季交換總高ニ應ジ組合銀行ヨリ支出スヘキモノトス

第四十條 組合銀行ハ前條ノ經費支拂基金トシテ委員ノ指定スル金額ヲ常交換所ヘ交付シ置クモノトス

第七章

不渡手形處分明治廿二年六月五日及同年九月五日東京交換所組合銀行會議ニ於テ決定
 第四十一條 手形小切手ノ支拂ヲ拒マレタルトキハ拒マレタル銀行ヨリ直ニ書面ヲ以テ其手形振出人(爲替手形ニ在リテハ支拂人)ノ住所姓名職業金額及拒マレタル事實ヲ明記シテ常交換所ヘ届出ツヘシ

第四十二條 常交換所ニ於テ前條ノ届出ニ接シタルトキハ監事ヨリ之ヲ揭示シ各銀行交換方ニ注意シテ之ヲ警戒セシムヘシ(明治廿四年十一月七日但書追加)
 但小切手ニ對シテハ本條並第四十三條ヲ適當セス直ニ取引ヲ停止スルモノトス

第四十三條 第四十一條ノ届出翌日午後三時迄ニ取引銀行又ハ入金ヲ受ケタル銀行ヨリ本人入金シタル旨更ニ届出アリタルトキハ前日ノ揭示ヲ抹殺スルニ止メ別ニ報告書ヲ發セス

第四十四條 第四十一條ノ届出翌日午後三時ヲ過キ第四十三條ノ届出ナキトキハ本人ニ對シ自今取引

ヲ停止スヘキ旨ノ報告書ヲ作り組合銀行及代理交換委託銀行へ通知スヘシ
 第四十五條 第四十四條ノ取引ヲ停止シタル者ニ對シ元ノ取引銀行又ハ組合銀行ヨリ其者ノ信用恢復
 シタル事實ヲ具シ其停止解除ヲ當交換所ニ請求シタルトキハ委員ハ組合銀行集會ノ議ニ付シ出席銀
 行四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

第四十六條 組合銀行及代理交換委託銀行ハ取引停止ノ報告ヲ得タル場合ニ於テハ本人ニ對シ將來取
 引ヲ爲スヘカラサルハ勿論其取引アル銀行ハ直ニ解約ノ手續ヲ爲スヘシ
 但當交換所ヨリ取引停止ノ報告ヲ發シタル日ヨリ滿三年ヲ經過セシモノニ對シテハ取引ヲ開始ス
 ルモ妨ケナシ(明治卅三年
 二月追加)

第八章 代理交換規約(明治三十一年十月七日東京交
 換所組合銀行會議ニ於テ決定)

第四十七條 代理交換ヲ依頼シタル委託銀行ハ毎日交換決了時間ヲ期シ行員ヲ受託銀行ニ派シ當日ノ
 決算尻ヲ認メ若シ借方トナリテ受託銀行ニ振替ノ資金ヲ有セサルトキハ午後零時三十分迄ニ其金額
 ヲ受託銀行ニ振込ムヘシ

第四十八條 委託銀行ニ於テ前條ノ入金ヲ怠リタルトキハ受託銀行ニ於テ交換シタル手形小切手ハ午
 後三時迄ニ相手方銀行ニ差戻スヘシ

第四十九條 前條ノ場合ニ於テ受託銀行ハ直ニ其趣ヲ當交換所委員ニ告知スヘシ委員ハ之ヲ組合銀行
 ニ通知シテ代理交換ヲ拒絕スヘシ

第五十條 受託銀行ニ於テ委託ノ代理ヲ解約セントスルトキハ豫メ其趣ヲ當交換所委員ニ通知スヘシ

第五十一條 委託銀行ニ於テ支拂フヘキ手形小切手ノ内支拂資金ナキモノアリタルトキハ午後三時迄
 ニ其趣ヲ直接ニ相手方ノ銀行ニ通知シ其手形小切手ヲ受託銀行ニ返戻シ其代リ金ヲ受取ルヘシ

第五十二條 當交換所ニ於テ取引停止ノ處分ヲ爲シタル者ニ對シテハ受託銀行ニ於テモ亦一切取引ヲ
 爲ス可カラス

第五十三條 委託銀行ハ保證トシテ有價證券實價三千圓以上一萬圓迄ヲ受託銀行へ預ケ入ルヘシ(治
 卅三年四
 月追加)

第五十四條 委託銀行ハ相當ノ手数料ヲ受託銀行へ支拂フヘキモノトス

第九章 罰則(明治廿六年三月東京交換所
 組合銀行會議ニ於テ決定)
 第五十五條 交換方規定ノ交換開始時間ヲ過キテ參着シタルトキハ過怠金三十錢ヲ徵收ス

第五十六條 規定ノ時刻ヨリ五分ヲ過キテ參着シタルモノハ過怠金五十錢ヲ徵收シ他行ヨリ配付シタ
 ル手形小切手ハ之ヲ支拂ハシメ持參シタル手形小切手ハ當日ノ交換ニ加ヘサルモノトス(明治廿九年
 十二月修正)

第五十七條 組合銀行中正當ノ理由ナクシテ缺席シタルモノハ過怠金二圓ヲ徵收ス
 但本條ノ場合ニハ缺席銀行ノ支拂義務アル諸手形ニ對シ現金ノ取付ヲナスコトヲ得ヘシ

第五十八條 交換方ヨリ監事へ差出シタル交換殘高表ニ計算ノ過失アリタルトキハ過怠金二十錢ヲ徵
 收ス

但總決算完了時刻五分前ニ發見シタル誤謬ハ過怠金ヲ徵收セス(明治廿九年十
 二月但書修正)
 第五十九條 決算完了時刻ヲ經過シテ其誤謬ヲ發見セサルトキハ十分時間毎ニ各金二十錢ヲ徵收ス

第六十條 交換添表ニ誤謬アリタルトキハ添表提出者ヨリ過怠金三十錢ヲ徵收シ相手方ヨリ第五十八
 條ノ過怠金ヲ徵收セス

第六十一條 規則第十三條ノ場合ニ於テ不渡手形小切手ノ代リ金渡シ方遲滯スルカ又ハ交換尻支拂入

金ノ遅刻シタルトキハ各過怠金二圓ヲ徵收ス
 第六十二條 一旦不渡トナリタル手形金額ヲ受取リタルモ其銀行ノ不注意ニ依リ第四十三條ニ規定ノ
 時間ヲ過キ前報告ノ取消ヲ請求シタルトキハ其銀行ヨリ過怠金二十五圓ヲ徵收ス
 但本文取消請求十日以上ヲ經過シタルモノハ調査委員會ニ付ス(明治卅三年九月五日修正追加)
 第六十三條 不渡手形ニ依リ常交換所ヨリ取引停止ヲ報告シタルモノニ對シ從前ノ取引ヲ繼續スルカ
 又ハ新ニ取引ヲ開キタル銀行アルトキハ其銀行ヨリ過怠金十圓ヲ徵收シ其取引ヲ解約セシムヘシ
(明治卅三年二月修正)
 第十章 規則更正
 第六十四條 此規則ヲ更正加除セント欲スルトキハ組合銀行ノ集會ヲ開キ出席員四分ノ三以上ノ同意
 ヲ以テ之ヲ決定シ日本銀行ノ承諾ヲ得テ履行スヘキモノトス

東京交換所代理交換銀行一覽表

(明治三十四年十一月一日現在)

日本銀行	交換所組合銀行(三十六行)	代理交換委託銀行(百七十六行)
第一銀行	全行新大阪町支店 東京貯蓄銀行 兩國貯蓄銀行 今村銀行 鐵業銀行	東京貯蓄銀行 東京商工銀行 三十銀行 加賀銀行 兩羽銀行支店
第三銀行	掛川銀行支店	東京芝支店 淺草銀行 岡本銀行 富倉貯蓄銀行 帝京銀行 工商銀行

十五銀行	全行日本橋支店	東京秋葉銀行	全新宿支店
二十銀行	全行深川出張所	同室町支店	
二十七銀行	全行通旅籠町支店 東京貯蓄銀行 東京貯蓄銀行 東京貯蓄銀行 東京貯蓄銀行 芝日支店 長日支店	永代銀行 神田商業銀行 東京貯蓄銀行 全泉橋通支店 全御徒町銀行	關東商業銀行 全淺草支店 全淺草支店 全下谷支店 全本所支店
第一百銀行	藤枝銀行支店	森村銀行 東京農商銀行	商榮銀行 實業貯金銀行 東京信用銀行
三菱會社銀行部	全深川出張所	京橋銀行	全八丁堀支店 武總銀行
三井銀行	全行深川支店 加島貯蓄銀行 四ツ谷代理店	日本通商銀行 全淺草代理店	加島銀行支店 加島貯蓄銀行支店
安田銀行	信濃銀行支店	第三十六銀行支店	神木銀行
鴻池銀行支店	木場銀行	全小石川支店	中央貯蓄銀行
浪速銀行支店	全行堀壳町支店	全四ツ谷支店	全飯倉支店
帝國商業銀行	旭町支行 品川支行 帝國貯蓄銀行 神樂坂支行 赤坂支行 合名會社田中銀行	全米澤町支店 全赤坂支店 全六本木支店	全飯倉支店 全本郷支店 全四谷支店
	旭町支行 品川支行 帝國貯蓄銀行 神樂坂支行 赤坂支行 合名會社田中銀行	千住銀行 河合銀行	全龜町支店 全四谷支店 全飯倉支店 全麻布支店

川崎銀行	全行富澤町支店	川崎貯蓄銀行	全番町支店	全本所支店	全神田支店
金山銀行	全行本郷支店	日出版銀行	三田銀行	全行京橋支店	全行三田支店
東海銀行	全行淺草支店	下谷銀行	萬世區銀行	全本郷支店	商買銀行
	土浦五十銀行支店	全深川出張所	東洋貯蓄銀行	全坂本支店	全淺草支店
	佐野銀行支店	起業銀行	本所貯金銀行	駒込貯蓄銀行	麻布銀行
	足立銀行	中央商業銀行	深川銀行	全西町支店	江戸銀行
	關東貯蓄銀行	東京共立銀行	東京日本橋銀行	橋貯蓄銀行	
四十一銀行支店	尾張屋銀行	全本郷支店	全小石川支店	全牛込支店	
七十七銀行支店	宮城屋貯蓄銀行	扶桑銀行			
第七十八銀行支店	千代田銀行	葛飾銀行			
百十三銀行支店					
中井銀行	全行坂本町支店	東西銀行	全新宿支店	廣部銀行	四谷銀行
	全牛込支店	城北銀行	品川銀行		
東京銀行	全行深川支店	全神田支店	城東銀行		
	豐山護法銀行	本郷商業銀行	東武貯金銀行	全小石川支店	全芝支店
八十四銀行	興業貯蓄銀行	全深川支店	全下谷支店	全芝支店	
八十九銀行					
第二銀行支店	東京割引銀行	東壘銀行			
新潟銀行支店					
第十銀行支店					

十二銀行支店	日本橋銀行	寶田銀行			
三十五銀行支店	金原銀行	芝銀行	都銀行		
三十九銀行支店					
明治商業銀行	實業銀行	田口銀行	六十三銀行支店	中加貯蓄銀行	全行深川支店
第十九銀行支店	第十四銀行支店				
四十銀行支店					
伊藤銀行支店	百三十八銀行支店	東都家壽多銀行	福和銀行		
橫濱正金銀行支店	橫七十四銀行支店				
肥後銀行	全行濱町支店				
住友銀行支店					
丁酉銀行	全行日本橋支店				

銀行俱樂部規則

第一章 總則

第一條 本俱樂部ハ東京組合銀行職員中有志ノ者隨時集會シテ見聞ヲ共通シ智識ヲ交換シ交誼ヲ深厚ニスルヲ以テ目的トス

第二條 本俱樂部ヲ名ケテ銀行俱樂部ト稱シ東京市日本橋區坂本町四十番地ニ置ク

第二章 會員

第三條 東京組合銀行職員タルモノハ本俱樂部ニ中込ミ會員タルコトヲ得

前項ノ申込ヲ爲シタル加入者ヨリ第九條ニ定メタル會費ノ納入ヲ終リタルトキハ加入者ノ氏名ヲ本俱樂部會員名簿ニ記入ス

第四條 本俱樂部ニ加入スルモノハ第三條第二項ニ依リ本俱樂部會員名簿ニ其氏名ヲ記入シタル日ヲ以テ本俱樂部會員タル資格ヲ生ス

第五條 本俱樂部會員ニシテ退會セントスルトキハ豫メ之ヲ本俱樂部ニ通知シテ退會スルコトヲ得本俱樂部會員ニシテ東京組合銀行職員タル資格ヲ失ヒタルトキハ當然退會ト見做ス

第六條 本俱樂部會員ニシテ本俱樂部ノ規則ニ背戾シ又ハ本俱樂部ノ體面ヲ汚損スルノ行爲アルトキハ委員會ハ委員總數三分二以上ノ多數ニ依リ無記名投票ヲ以テ其會員ヲ退會セシメ若クハ除名ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第七條 本俱樂部會員ハ本俱樂部ノ開館時間内何時タリトモ本俱樂部ニ來リ本俱樂部委員ノ定ムル所ニ從ヒ本俱樂部ヲ使用シ又同時ニ三名以内ヲ限リ會員外ノ知人ヲ同伴シ來ルコトヲ得但シ知人ヲ同伴シタルトキハ其氏名ヲ本俱樂部ニ申出ツルコトヲ要ス

委員會ハ必要ト認ムルトキハ會員ノ知人ヲ同伴シ來ルコトヲ制限シ禁止シ若クハ被同伴者ノ入館ヲ拒絕スルコトヲ得

第八條 本俱樂部會員ハ其氏名住所ニ變更ヲ生シタルトキハ必ス本俱樂部ニ通知スヘシ

第三章 會費

第九條 本俱樂部會員ハ毎月金一圓五十錢ヲ會費トシテ本俱樂部ニ納入スヘシ

前項ノ會費ハ左ノ如ク一ケ年ヲ四期ニ分チテ之ヲ前納セシム

第一期 一月ヨリ三月マテ

三ヶ月分

一月十五日限

第二期

四月ヨリ六月マテ

三ヶ月分

四月十五日限

第三期

七月ヨリ九月マテ

三ヶ月分

七月十五日限

第四期

十月ヨリ十二月マテ

三ヶ月分

十月十五日限

新ニ入會シタルモノハ入會ノ月ヨリ起算シ前項期末ノ月マテノ會費ヲ前納スヘシ

第十條 前條第二項ニ定メタル期限後十四日間ヲ過キ猶會費ヲ納メサル會員ニ對シテハ委員會ハ多數ノ決議ヲ以テ第七條ニ定メタル利益ヲ享クルコトヲ停止シ猶之ヲ納メサルトキハ第六條ニ定メタル手續ニ從ヒ除名ヲ爲スコトヲ得

第十一條 第九條ニ依リ既ニ納メタル會費ハ各期ノ中途ニ於テ第五條第六條及第十條ニ依リ退會又ハ除名又ハ停止トナリタル場合ニモ之ヲ返却セス

第四章 委員及事務員

第十二條 本俱樂部ニ委員二十名ヲ置キ總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選定ス

委員ノ任期ハ一ケ年トス

第十三條 委員中ニ欠員ヲ生シタルトキハ委員ハ會員中ヨリ補欠員ヲ撰定スルコトヲ得

第十四條 委員ハ委員中ヨリ委員長一名常務委員二名選定ス

委員長及常務委員ニ欠員ヲ生シタルトキハ委員會ニ於テ直ニ補欠員ヲ選定ス

第十五條 委員會ハ本俱樂部一切ノ事項ヲ處理ス此ノ規則規定ナキ事項ハ總テ委員會ノ決スル處ニ依ル

第十六條 委員會ハ毎月十五日ニ之ヲ開ク但シ臨時急要ノ事件アルトキハ委員長何時ニテモ委員會ヲ召集スルコトヲ得

第十七條 委員會ノ議決ハ委員ノ過半数出席シ出席者ノ過半数ニ依リテ之ヲ行フ

第十八條 委員會ノ議長ハ委員長トス委員長事故アルトキハ委員中ヨリ議長ヲ選定ス

第十九條 本俱樂部ニ事務員若干名ヲ置キ委員ノ指揮ニ從ヒ本俱樂部ノ常務ヲ取扱ハシム

第五章 總會

第二十條 會員ノ定時總會ハ毎年一回之ヲ開ク

委員會ハ定時總會ニ前ケ年間ノ事務及會計ノ報告ヲ爲シ其承認ヲ求ムヘシ

定時總會ニ於テハ委員總數ノ改選ヲ行フ

第二十一條 委員會ハ必要ト認ムルトキハ會議ノ目的ヲ示シ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

會員總數ノ五分ノ一ニ當ル會員ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ委員會ニ臨時總會ノ召集ヲ請求スルトキハ委員會ハ總會ヲ召集スヘシ

第二十二條 總會ノ議定ハ出席者ノ過半数ニ依リテ之ヲ行フ

第二十三條 本俱樂部ノ規則變更又ハ本俱樂部解散ノ決議ハ總會ニ於テ會員總數ノ二分ノ一以上出席シ出席者ノ過半数ニ依ルニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十四條 總會ノ議長ハ委員長トス委員長事故アルトキハ他ノ委員之ニ代リテ議長ノ職務ヲ行フ

銀行俱樂部ノ設備大畧左ノ如シ

談話室 會員三々五々隨意ニ談話スル所トス

讀書室 内外ノ新聞紙雜誌類ヲ備ヘ置キ會員ノ縦覽ニ供スル所トス

會員ハ右ノ外東京銀行集會所内經濟文庫ニ入り掛リ員ニ申込ミ同文庫開館時間同文庫内ノ

圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ヘシ

球戲室 會員ノ球戲ヲ爲ス所ニシテ球戲ニ關スル十分ノ設備アリ

球戲ノ外別ニ基將棊其他玩具ヲ備ヘ置キ會員ノ使用ニ供スヘシ

酒場 酒類及他ノ飲料並烟草等ヲ備ヘ置キ何時タリトモ會員ノ需ニ應スヘシ

食堂 會員ノ食事ハ會員ノ好ニ從ヒ其需ニ應シテ何時ニテモ之ヲ辨スベシ

●東京興信所規約

第一章 目的

第一條 本所ハ商工業者ノ資産及ヒ營業ノ狀況ヲ調査報告シテ商工社會信用ノ發達ヲ助ケ銀行其他商工業者ニ營業上ノ便利ヲ與フルヲ以テ目的トス

第二章 名稱

第二條 本所ハ東京興信所ト稱スヘシ

第三章 會員

第三條 本所ハ會員組織トシ會員ヲ分テ發起會員特別會員及ヒ通常會員ノ三種トス

第四條 發起會員ハ此規約ノ末尾ニ列記セル廿六行トス

第五條 發起會員特別會員ハ毎年金二百圓以上出金スルモノタルヘシ

第六條 通常會員ハ毎年金二十五圓以上百五十圓以下ノ出金ヲ爲スモノトス

但通常會員ハ出金ノ多少ニヨリテ其受クル所ノ便利ヲ異ニス

第七條 發起會員ハ毎年一月總會ヲ開キ本所ノ評議員ヲ撰舉シ及ヒ計會決算ノ報告ヲ受クルモノトス

第四章 役員

第八條 本所ニ評議員所長理事及ヒ書記ノ諸役員ヲ置ク

第九條 評議員ハ五名ト定メ毎年一月總起會員中ヨリ之ヲ互撰スヘシ

第十條 評議員ハ總テ本所ニ關スル重要ノ事件ヲ評議決定ス

第十一條 所長ハ評議員之ヲ選定シ本所一切ノ事務ヲ處理セシム

第十二條 評議員其他役員ノ職務權限并ニ理事及ヒ書記ノ任免ハ別ニ規定スル所ニ據ル

第五章 業務

第十三條 本所ノ業務ハ專務ヲ商工業者ノ資産及ヒ營業ノ狀況ヲ調査報告スルニアルヲ以テ之ニ關係ナキ事件ハ一切報告スルコトヲ禁ス

第十四條 本所ハ先ツ東京市及ヒ横濱市ニ店舖ヲ有スル商工業者ノ狀況ヲ調査報告シ漸次之ヲ各地ニ及ホシ終ニハ歐米ノ輿信所ト連絡ヲ通スルコトヲ期スヘシ

第十五條 本所ノ業務ハ向五ヶ年間繼續スルコトトナシ滿期ノ後ハ更ニ發起會員ノ協議ヲ以テ之ヲ繼續シ又ハ組織ヲ變更スルコトアルヘシ

第十六條 本所ノ經費ハ會員ノ出金其他寄附金等ニヨリテ之ヲ支辨ス

第六章 附約

第十七條 將來本所ノ組織ヲ變更シ若クハ全ク本所ヲ解散スルノ場合ニ於テハ發起會員ニ限リ本所ノ財産ニ對シ其出金高ニ應シテ權利ヲ有スルモノトス

第十八條 此規約ヲ實施センカ爲メニ必要ナル規則ハ別ニ評議員及ヒ所長ヲシテ之ヲ制定セシム

第十九條 此規約ハ發起會員三分ノ二ノ同意ヲ以テ改正スルコトヲ得ヘシ(明治二十九年七月)

第二編 書式

貸附

借用金申込書

(借用金申込書)

額金	利息割合	相場	擔保	實價	現預	高預	現貸
取引日付	日數	期限	擔保品	擔保價格	擔保人	保證	

右記載ノ金額借用致度此段及御依頼候也

明治一一年一月一日

職住業所

何銀行御中

何某

(普通担保付借入金證書)

第 號

印紙

借入金證書

一金

此擔保品

前書之金員正ニ借用候ニ付左記ノ各項ヲ確約仕保
 證人借主ト連帶シテ履行可致候也
 壹利息ハ元金百圓ニ付一日金錢厘ノ割合ヲ以テ每
 月日迄ニ其月分ヲ支拂可申候
 貳返濟期日ハ明治年月日ト定メ無相違履行可致候
 參萬一返金相滯候節右期日後ノ利息ハ貴行ノ指定
 セラル、割合ヲ以テ支拂可申候
 四右期日ニ至リ返金相滯候節ハ前書ノ擔保品適宜
 御賣却ノ上其代金ヲ以テ元利御引去可被成候若
 シ不足候ハ、追償可致候
 但シ此ノ場合ニ於テハ賣却ノ時機價格及方法
 等ハ貴行ノ御隨意ニ任セテ決シテ異議申問敷候
 五期限中該擔保品ノ價格低落候カ或ハ之ニ變災
 故障等相生候節ハ御望ニ應シ御通知次第入金又
 ハ増擔保若シクハ擔保品引換可仕候
 六前記各項ノ中其一タリトモ履行セサルトキハ期
 日ニ拘ハラス元利金直ニ御請求相成候共不苦候
 七本契約ニ因ル訴訟ニ付テハ貴行所在地ヲ以テ裁
 判籍ト爲スニ付テハ承諾致候
 右借入金證書仍而如件
 明治年月日

住所 某
 借主 何
 住所 何
 保證人 何
 某
 何銀行御中

(信用借入金證書)

第 號

印紙

借入金證書

一金

前書之金員正ニ借用候ニ付左記ノ各項ヲ確約仕保
 證人借主ト連帶シテ履行可致候也
 壹利息ハ元金百圓ニ付壹日金一錢一厘ノ割合ヲ以
 テ毎月一日迄ニ其月分ヲ支拂可申候
 貳返濟期日ハ明治年月日ト定メ無相違返濟可致候
 參萬一返金相滯候節右期日後ノ利息ハ貴行ノ指定
 セラル、割合ヲ以テ支拂可申候
 四右利息支拂一ヶ月タリトモ相滯候節ハ期限ニ不
 拘元利金直ニ御請求相成候共不苦候
 右借入金證書仍而如件
 明治一年一月一日

住所 某
 借主 何
 住所 何
 保證人 何
 某
 何銀行御中

(借入金延期證書)

印紙

借入金延期證書

明治一年一月一日付借入金證書第一號ヲ以テ借用
候金一圓明治一年一月一日返済可致ノ處明治一年
一月一日迄延期御承諾被下候ニ付テハ更ニ同日ヲ
以テ期日ト定メ本證書契約ノ通り履行可致候爲後
日借入金延期證書仍而如件

但シ利息ハ自明治一年一月一日元金百圓
ニ付一日金一錢一厘ノ割合

明治年月日

借主 何

保證人 何

何銀行御中

某 某

(擔保品交換證書)

印紙

擔保品交換證書

引出ノ部

差入ノ部

右ハ明治一年一月一日付第一號借入金證書ヲ以テ
借用シタル金一圓ニ對スル擔保品前書ノ通交換致
候也

明治一年一月一日

借主 何 某

何銀行
御中

(不動産抵當付借入金證書)

第 號

印紙

借入金證書

一 金

此抵當物件

前書之金員正ニ借用候ニ付左記ノ各項ヲ確約仕保證人借主ト
連帶シテ履行可致候也

壹 利息ハ元金百圓ニ付壹日金何錢何厘ノ割合ヲ以テ毎月何
日迄ニ其月分ヲ支拂可申候

貳 返済期日ハ明治年月日ト定メ無相違履行可致候

參 萬一返金相滞候節右期日後ノ利息ハ貴行ノ指定セラル、
割合ヲ以テ支拂可申候

四、右期日ニ至リ返金相滞候節ハ前書ノ抵當物件適宜御賣却
ノ上其代金ヲ以テ元利御引去可被成候若シ不足候ハ、追償
可致候

但シ此ノ場合ニ於テハ賣却ノ時機、價格及方法等ハ貴行
ノ御隨意ニ任セ決シテ異議申間敷候

五、前記抵當物件ハ從來實權抵當權、賃貸借等何等ノ權利設定
無之ハ勿論期限中ハ今後トモ何等ノ權利設定致間敷候

六、期限中該抵當物件ノ價格低落候カ或ハ之ニ變災故障等相
生候節ハ御望ニ應シ御通知次第入金又ハ増抵當若シクハ抵
當物件入換可仕候

七、前記各項ノ中其一タリトモ履行セサルトキハ期日ニ拘ハ
ラス元利金直ニ御請求相成候トモ不苦候

八、本契約ニ因ル訴訟ニ付テハ貴行所在地ヲ以テ裁判籍ト爲
スコトヲ承諾致候

右借入金證書仍而如件

明治年月日

住所 借主

住所 保證人

何銀行御中

(承諾證書)

印紙

承諾證書

右ハ拙者所有ノ處今般貴ニ使用ヲ許シ貸渡候ニ付テハ貴ノ都合ニ依リ他へ擔保トシテ御渡シ被成候共聊カ異議無之若シ債主ト貴トノ約定ニ據リ右ノ一ヲ債主其他へ御引渡相成候場合ニハ速ニ名義書換讓渡ノ手續等相運ヒ可申候爲後日承諾證書仍而如件

明治一年一月一日

何 某

(株券賣却委任狀)

印紙

委任狀

拙者儀何某ヲ部理代人ト相定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
一何鐵道株式會社株式何株賣渡シ候ニ付名義書換ニ係ル一切ノ手續ヲ總テ代理處辦スル事
右代理委任狀仍而如件

明治一年一月一日

住所 何 某

(貸付金擔保品預リ證)

第 號

擔保品預リ證

印紙

禁授受

右ハ明治一年一月一日一殿へ御貸付金一之擔保トシテ正ニ御預リ致置候也
但取引濟ノ上ハ此證書無効タルヘキ事

東京 何 某殿
明治一年一月一日
何銀行支配人 何 某

第 號 人名

擔保品	
-----	--

明治一年一月一日貸付金

明治一年一月一日